

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		大学の設置						—	
フリガナ設置者		ガッコウホウジン キョジュノカイ 学校法人巨樹の会						—	
フリガナ大学の名称		レイワケンコウカガクダイガク 令和健康科学大学（Reiwa Health Sciences University）						—	
大学本部の位置		福岡県福岡市東区和白丘2丁目1番12号						—	
大学の目的		教育基本法及び学校教育法に基づき、健康に関する学問の教育研究をとおして、幅広い教養と思考力、探究心、倫理観を統合した実践力を備えた医療専門職の育成によって社会に貢献する。						—	
新設学部等の目的		看護学部 多様な対象者を全人的に捉え、個性に応じた健康課題に対して、幅広い教養と思考力、探究心、倫理観を統合した実践力を備えるとともに、生涯にわたり看護学を探究し、自己実現を目指す看護師を育成する。 リハビリテーション学部 多様な対象者を全人的に捉え、個性に応じた健康課題に対して、幅広い教養と思考力、探究心、倫理観を統合した実践力を備えるとともに、生涯にわたり理学療法学・作業療法学を探究し、自己実現を目指す理学療法士・作業療法士を育成する。						—	
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	—
	看護学部 (Faculty of Nursing)	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	看護学科 (School of Nursing)	4	80	—	320	学士 (看護学)	令和4年4月 第1年次	福岡県福岡市東区和白丘2丁目1番12号	
	リハビリテーション学部 (Faculty of Rehabilitation)								
	理学療法学科 (School of Physical Therapy)	4	80	—	320	学士 (理学療法学)	同 上	同 上	
	作業療法学科 (School of Occupational Therapy)	4	60	—	240	学士 (作業療法学)	同 上	同 上	
計			220	—	880				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）		福岡看護専門学校 第1科 3年課程 全日制 （廃止）（△50名） ※令和4年4月学生募集停止 第2科 2年課程 夜間定時制 （廃止）（△50名） ※令和3年4月学生募集停止 第3科 2年課程 通信制 （廃止）（△250名） ※令和3年4月学生募集停止 福岡和白リハビリテーション学院 理学療法学科 昼間コース（廃止）（△80名） ※令和4年4月学生募集停止 作業療法学科 昼間コース（廃止）（△40名） ※令和4年4月学生募集停止 理学療法学科 夜間コース（廃止）（△40名） ※令和3年4月学生募集停止						—	

教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
			講義	演習	実習	計			
	看護学部 看護学科	60 科目	42 科目	13 科目	115 科目	128 単位			
	リハビリテーション学部 理学療法学科	46 科目	62 科目	11 科目	119 科目	128 単位			
	リハビリテーション学部 作業療法学科	42 科目	60 科目	11 科目	113 科目	128 単位			
教員組織の概要	学 部 等 の 名 称			専任教員等					兼任教員等
				教授	准教授	講師	助教	計	
	新設	看護学部 看護学科	人 9 (7)	人 6 (2)	人 8 (6)	人 3 (1)	人 26 (16)	人 12 (1)	人 70 (48)
		リハビリテーション学部 理学療法学科	9 (9)	5 (3)	4 (4)	4 (1)	22 (17)	0 (0)	66 (55)
		リハビリテーション学部 作業療法学科	8 (6)	1 (1)	2 (2)	5 (3)	16 (12)	0 (0)	76 (61)
		計	26 (22)	12 (6)	14 (12)	12 (5)	64 (45)	12 (1)	－ (－)
	既設分	該当なし	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)
		計	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)
		合 計	26 (22)	12 (6)	14 (12)	12 (5)	64 (45)	12 (1)	－ (－)
	教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計	
		事 務 職 員		30 (16)		0 (4)		30 (20)	
		技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)	
図 書 館 専 門 職 員		6 (1)		0 (3)		6 (4)			
そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計		36 (17)		0 (7)		36 (24)			
校地等	区 分		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地		11,007.03 m ²	－ m ²	－ m ²		11,007.03 m ²		
	運 動 場 用 地		653.38 m ²	－ m ²	－ m ²		653.38 m ²		
	小 計		11,660.41 m ²	－ m ²	－ m ²		11,660.41 m ²		
	そ の 他		0 m ²	－ m ²	－ m ²		0 m ²		
	合 計		11,660.41 m ²	－ m ²	－ m ²		11,660.41 m ²		
校 舎			専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計		
			19,580.89 m ²	－ m ²	－ m ²		19,580.89 m ²		
			(19,580.89 m ²)	(ー m ²)	(ー m ²)		(19,580.89 m ²)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設			
	37室	41室	3室	2室 (補助職員 0人)		0室 (補助職員 0人)			
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称		室 数				
			看護学部		59 室				
			リハビリテーション学部						

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため、大学全体の数		
	大 学 全 体	12, 268 [205] (12, 268 [205])	77 [14] (77 [14])	5, 025 [2, 672] (5, 025 [2, 672])	833 (833)	4, 615 (3, 411)	38 (35)			
	計	12, 268 [205] (12, 268 [205])	77 [14] (77 [14])	5, 025 [2, 672] (5, 025 [2, 672])	833 (833)	4, 615 (3, 411)	38 (35)			
図書館		面積 884. 72 m ²		閲覧席座数 172 席		収 納 可 能 冊 数 35, 000 冊		大学全体		
体育館		面積 1, 330. 18 m ²		体育館以外のスポーツ施設の概要 －		－				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル、データベースの整備費を含む。
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		2, 000千円	2, 000千円	2, 000千円	2, 000千円	－千円	－千円	
		図書購入費	26, 485千円	4, 938千円	5, 268千円	5, 488千円	5, 708千円	－千円	－千円	
		設備購入費	369, 948千円	19, 303千円	19, 382千円	19, 402千円	19, 402千円	－千円	－千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※学生納付金は上段から、看護学部、リハビリテーション学部		
		1, 600千円	1, 500千円	1, 550千円	1, 450千円	－千円	－千円			
		1, 600千円	1, 500千円	1, 500千円	1, 450千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			雑収入等							
既設大学等の状況	大 学 の 名 称		該当なし							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
	該当なし	－ 年	－ 人	－ 年次人	－ 人	該当なし	－ 倍	－	該当なし	
附属施設の概要		該当なし								

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(看護学部 看護学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
基 幹 分 野	人間と教育	フレッシュャーズセミナー 教育学	1前 1後	1 1			○ ○			1					兼3 兼1	共同	
	人間と心	心理学 発達心理学 ジェンダー論	1前 1後 1後	1 1 1			 ○	○ ○							兼1 兼1 兼1		
	人間と社会	法学 経営学 社会学 倫理学 人間関係論 コミュニケーション論	1前 2前 1後 1後 1前 1前	 1 1 1 1	1 1		○ ○ ○ ○ ○ ○								兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1		
	人間と文化	国際関係論 文化人類学 アジアの文学 福岡の歴史と文化	1後 1後 1前 1前	 1 1	1 1		○ ○ ○ ○								兼1 兼1 兼1 兼2	オムニバス方式	
	人間と科学	健康科学入門 医療と情報リテラシー 論理的思考法 統計学 生物学 物理学	1前 1前 1前 1後 1前 1前	1 1 1 1 1 1			○ ○ ○ ○ ○		1						兼3 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	オムニバス方式	
	人間と言語	英語Ⅰ（医療英語） 英語Ⅱ（医療文献読解） 韓国語Ⅰ（日常会話） 韓国語Ⅱ（医療会話） 中国語Ⅰ（日常会話） 中国語Ⅱ（医療会話）	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1			 ○ ○ ○ ○ ○								兼1 兼1 兼2 兼1 兼1 兼1	共同	
	人間とスポーツ	スポーツ理論 スポーツ実践	1前 1後	1 1			○ ○								兼1 兼1		
	小計（29科目）			—	16	13	0	—			2	0	0	0	0	兼23	
	専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	人体構造学 人体機能学 栄養代謝学 病理学 健康障害と治療Ⅰ（消化器・神経・内分泌・泌尿器） 健康障害と治療Ⅱ（循環器・呼吸器・血液・膠原病） 健康障害と治療Ⅲ（外科・麻酔・救命救急） 健康障害と治療Ⅳ（アレルギー、感覚器・歯・口腔） 健康障害と治療Ⅴ（小児） 健康障害と治療Ⅵ（精神） 放射線医学 微生物学 感染症看護 食事療法学 薬理学 リハビリテーション概論	1前 1後 1後 1後 2前 2前 2前 2後 2前 2前 2後 1後 2前 2前 1後 1後 2前 2前 1後 1後	2 2 1 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 2 2 1 2 1 1 2 1			 ○ 									

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1前	2			○			1					共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同
		看護倫理	2前	1			○			1					
		看護実践論	1後	1			○			1					
		看護過程	2前	1				○		1	1	2		1	
		生活援助技術	1前	2				○		1	1	2		1	
		ヘルスアセスメント	1後	1				○		1	1	2		1	
		診療に伴う援助技術	2前	2				○		1	1	2		1	
		看護研究	2後	1				○		1					
		生活援助実習	1後	1					○	1	1	2		6	
		基礎看護過程実習	2後	2					○	2	4	4	2	8	
地域・在宅看護学	地域看護学概論	2前	2			○				1				オムニバス方式、共同（一部） オムニバス方式、共同（一部） 共同	
	地域看護学援助論	2後	1				○			1		1			
	地域看護学演習	3前	1				○			1		1			
	地域看護学実習	3後	1					○		1		1			
	在宅看護学概論	2前	1			○				1					
	在宅看護学援助論	2後	1				○			1			2		
	在宅看護学演習	3前	1				○			1			2		
在宅看護学実習	3後	2					○		1			2			
成人看護学	成人看護学概論	2前	1			○			1					オムニバス方式、共同（一部） オムニバス方式、共同（一部） オムニバス方式、共同（一部） オムニバス方式、共同（一部） オムニバス方式、共同（一部） 共同 共同 共同 兼1	
	成人看護学慢性期援助論	2後	1				○		1	2	1	1	3		
	成人看護学慢性期演習	3前	1				○		2	2	2	1	3		
	成人看護学急性期援助論	2後	1				○		1	2	1	1	3		
	成人看護学急性期演習	3前	1				○		2	2	2	1	3		
	終末期看護論	3前	1			○				1					
	成人看護学慢性期実習	3後	3					○	1	2	1	1	3		
	成人看護学急性期実習	4前	3					○	1	1	1	1	9		
	成人看護学終末期実習	4前	1					○		1	1		3		
がん看護学	3前		1		○										
老年看護学	老年看護学概論	2前	1			○			1					オムニバス方式、共同（一部） オムニバス方式、共同（一部） 共同 共同 共同	
	老年看護学援助論	2後	1				○		1	1	1	1	1		
	老年看護学演習	3前	1				○		1		1	1	1		
	認知症看護論	3前	1			○			1						
	老年看護学実習	3後	1					○	1		1	1	1		
	認知症老年看護学実習	3後	1					○			1	1	2		
小児看護学	小児看護学概論	2前	2			○			1					オムニバス方式、共同（一部） 共同 共同 共同	
	小児看護学援助論	2後	1				○		1		1		2		
	小児看護学演習	3前	1				○		1		1		2		
	小児看護学実習	3後	2					○	1		1		2		
母性看護学	母性看護学概論	2前	2			○			1	1				オムニバス方式、共同（一部） 共同 共同 共同	
	母性看護学援助論	2後	1				○		1	1			2		
	母性看護学演習	3前	1				○		1	1			2		
	母性看護学実習	4前	2					○	1	1			2		
精神看護学	精神看護学概論	2前	2			○			1		1			オムニバス方式 オムニバス方式、共同（一部） オムニバス方式 共同	
	精神看護学援助論	2後	1				○		1		2		1		
	精神看護学演習	3前	1				○		1		2		1		
	精神看護学実習	3後	2					○	1		2		1		
看護の統合と実践	看護臨床推論	3前	1			○			1		1			共同 兼1 共同 兼1 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同	
	リスクマネジメント論	3前	1			○									
	看護管理学	3前	1			○			1						
	看護職のキャリア出発とキャリアデザイン	1前	1			○			1	1					
	看護職のキャリア発達とプロフェッショナルリズム	3前	1			○			1						
	国際看護学	4後	1			○			1						
	災害看護	4後	1			○									
	災害看護初期対応	4後		1		○			1		1				
	高度先進医療看護学	4後		1		○			1		1				
	統合演習	4後	1				○		4	5	5	1	1		
	統合実習	4前	2					○	1		5	3	6		
	卒業研究	4通	2				○		7	6	7	3			
	小計（ 58 科目）			—	73	3	0	—	—	9	6	8	3		12
合計（ 115 科目）			—	118	23	0	—	—	9	6	8	3	12	兼70	
学位又は称号		学士（看護学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係）							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
基幹分野から必修16単位を含む22単位以上、専門基礎分野から必修29単位を含む32単位以上、専門分野から必修73単位を含む74単位以上を修得し、128単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：49単位（年間）） なお、基幹分野の選択科目のうち「韓国語Ⅰ」及び「韓国語Ⅱ」または「中国語Ⅰ」及び「中国語Ⅱ」のいずれか2単位以上を選択必修とする。								1 学年の学期区分				2学期			
								1 学期の授業期間				15週			
								1 時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(リハビリテーション学部 理学療法学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
基 幹 分 野	人間と教育	フレッシュヤーズセミナー	1前	1			○			1	1				兼2 兼1	共同	
	人間と心	教育学	1後	1			○									兼1	
		心理学	1前	1				○								兼1	
		発達心理学 ジェンダー論	1後		1 1			○								兼1 兼1	
	人間と社会	法学	1前		1		○									兼1	
		経営学	2前		1		○									兼1	
		社会学	1後	1			○									兼1	
		倫理学	1後	1			○									兼1	
		人間関係論	1前	1			○									兼1	
		コミュニケーション論	1前	1			○									兼1	
	人間と文化	国際関係論	1後		1		○									兼1	
		文化人類学	1後	1			○									兼1	
		アジアの文学	1前		1		○			1							
		福岡の歴史と文化	1前	1			○			1						兼1	オムニバス方式
	人間と科学	健康科学入門	1前	1			○			2						兼2	オムニバス方式
医療と情報リテラシー		1前	1				○								兼1		
論理的思考法		1前	1			○									兼1		
統計学		1後	1				○								兼1		
生物学		1前		1			○								兼1		
物理学		1前		1			○								兼1		
人間と言語	英語Ⅰ（医療英語）	1前	1				○								兼1		
	英語Ⅱ（医療文献読解）	1後	1				○								兼1		
	韓国語Ⅰ（日常会話）	2・3前		1			○		1						兼1	共同	
	韓国語Ⅱ（医療会話）	2・3後		1			○		1								
	中国語Ⅰ（日常会話）	2・3前		1			○								兼1		
	中国語Ⅱ（医療会話）	2・3後		1			○								兼1		
人間とスポーツ	スポーツ理論	1前	1			○				1							
	スポーツ実践	1後		1			○			1							
小計（29科目）			—	16	13	0	—			3	2	0	0	0	兼20		
専 門 基 礎 分 野	人体の構造と 機能及び心身 の発達	解剖学Ⅰ（筋骨格系、神経系）	1前	1				○							兼1		
		解剖学Ⅱ（呼吸器系、循環器系）	1後	1				○							兼1		
		解剖学実習	1前	1					○	1	1		1		兼1	オムニバス、共同（一部）	
		生理学Ⅰ（動物性機能）	1前	1				○							兼1		
		生理学Ⅱ（植物性機能）	1後	1				○							兼1		
		生理学実習	1後	1					○	1	1	1			兼1	共同	
		病理学	1後	1				○							兼1		
		運動学Ⅰ（頭頸部、上肢）	1前	1				○		1							
		運動学Ⅱ（体幹、下肢）	1後	1				○		1							
		運動生理学	2前	1			○				1	1				共同	
		運動学実習	2前	1					○						共同		
		人間発達学	2前	1				○		1		1	1		兼1	共同	
		疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の促 進	内科学Ⅰ（総論）	2前	1				○							兼1	
	内科学Ⅱ（各論）		2後	1				○							兼1		
	神経内科学Ⅰ（総論）		2前	1				○		1							
	神経内科学Ⅱ（各論）		2後	1				○		1							
	整形外科Ⅰ（総論）		2前	1				○		1							
	整形外科Ⅱ（各論）		2後	1				○		1							
	精神医学Ⅰ（総論）		2前	1				○							兼1		
	精神医学Ⅱ（各論）	2後		1			○							兼1			
小児科学	2前	1				○							兼1				
老年学	2後	1				○							兼1				
救急救命医学	2後	1			○			1					兼1				
公衆衛生学	1後		1			○							兼1				
臨床心理学概論	2前	1				○							兼1				
リハビリテーション医学	1後	1				○							兼1				
医療危機管理論	3前		1			○		1									
医学概論	1前	1				○		2					兼1	オムニバス方式			
栄養学	1後	1				○							兼1				
薬理学	1後	1				○							兼1				
医用画像診断学	3前	1				○							兼1				

科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門基礎 分野（続き）	保健医療福祉 とリハビリ テーションの 理念	リハビリテーション概論	1前	1				○		1					兼1 兼1 兼1	
		ケアマネジメント論	3前		1		○									
		カウンセリング論	1前		1		○									
		保健医療福祉制度論	1前	2			○									
	専門職連携教育	専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）	1後	1				○		1	1		1		兼6	共同
専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）		2前	1				○		3	3				兼12	共同	
専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）		3前	1				○			2	4	4		兼26	共同	
専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）		4後	1				○			2	4	4		兼26	共同	
小計（39科目）			—	29	7	0	—			7	4	4	4	0	兼44	
専門分野	基礎理学療法 学	理学療法学概論	1前	1			○			1						共同 共同 共同講義15時間 共同 共同 共同 共同
		体表解剖学演習	1後	1				○		1	1	1				
		バイオメカニクス	1後	1			○			1	1		1			
		病態運動学	3後	1				○			1		1			
		基礎理学療法演習Ⅰ（キャリアデザイン）	1後	1				○			1	1	1			
		基礎理学療法演習Ⅱ（検査・測定）	2後	1				○			1		2			
		基礎理学療法演習Ⅲ（問題解決）	3前	1				○			1	1	1			
		基礎理学療法演習Ⅳ（スキルシミュレーション）	3後	1				○			1	1	1			
	理学療法管理 学	理学療法管理学	3後	2			○			1						共同講義15時間 共同 共同 共同 オムニバス方式、共同（一部） 共同
		理学療法評価学	1後	1				○				2				
		理学療法評価演習Ⅰ（運動器系）	2前	2				○				1	2			
		理学療法評価演習Ⅱ（神経系）	2前	1				○		1	1	1				
		理学療法評価演習Ⅲ（疾患別評価）	2後	1				○		1	1	1				
		医用画像評価学	3後	1				○		1			1			
		動作分析学	2後		1			○		1			1			
	理学療法治療 学	理学療法臨床推論	3後		1			○				1				兼1 兼1 共同 共同講義15時間 共同 共同講義30時間 兼1 共同講義30時間 共同講義30時間 共同 兼1 共同 講義15時間 兼1 兼1 兼1 講義15時間
		物理療法Ⅰ（温熱・寒冷・水治・牽引）	2前	1				○			1					
		物理療法Ⅱ（電気・光線・振動）	2後	1				○			1					
		運動療法学	2前	2				○		1		1				
		理学療法技術学Ⅰ（総論）	3前	1				○			1		1			
		理学療法技術学Ⅱ（各論）	3後		1			○				1				
		運動器系理学療法学Ⅰ（変形・軟部組織性疾患）	3前	2				○			1		1			
		運動器系理学療法学Ⅱ（骨折・脊髄・絞扼性疾患）	3後	2				○		1		1				
		神経系理学療法学Ⅰ（脳卒中）	3前	2				○		1			1			
		神経系理学療法学Ⅱ（神経難病）	3後	2				○			2					
		高次脳機能障害学	3後		1			○		1						
		呼吸器系理学療法学	3前	2				○			1					
代謝系理学療法学		3後	1				○				1					
循環器系理学療法学		3後	1				○			1						
疼痛理学療法学		2後		1			○				1					
地域理学療法 学	小児理学療法学	2後	2				○								兼1 兼1 兼1 講義15時間 兼1 講義15時間	
	装具学	2前	1				○									
	義肢学	2後	1				○									
	生活環境論	2前	1				○		1							
	福祉住環境論	2前		1			○		1							
理学療法統合 学修	生活技術学	2後	2				○			1						
	地域理学療法学	2後	1				○		1							
	予防理学療法学	3前	1				○		1							
	高度先進医療論	3後		1			○		6	2						
臨床実習	理学療法特論Ⅰ（基礎）	3後	1				○			3	4	4			オムニバス方式 共同 共同	
	理学療法特論Ⅱ（応用）	4後	1				○			3	4	4				
	基礎臨床実習Ⅰ	1前	1					○	4	4	4	4		兼1		共同
	基礎臨床実習Ⅱ	1後	1					○	4	4	4	4		兼1		共同
	検査測定臨床実習Ⅰ	2後	1					○	4	4	4	4		兼1		共同
	検査測定臨床実習Ⅱ	3前	1					○	4	4	4	4		兼1		共同
	地域臨床実習	3後	1					○	4	4	4	4		兼1		共同
	評価臨床実習	3後	3					○	4	4	4	4		兼1		共同
卒業研究	総合臨床実習Ⅰ	4前	6					○	4	4	4	4		兼1	共同	
	総合臨床実習Ⅱ	4前	6					○	4	4	4	4		兼1	共同	
小計（51科目）			—	73	3	0	—			4	4	4	4	0	兼4	
合計（119科目）			—	118	23	0	—			9	5	4	4	0	兼66	
学位又は称号		学士（理学療法学）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（リハビリテーション関係）								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
基幹分野から必修16単位を含む22単位以上、専門基礎分野必修35単位、専門分野必修68単位に加え、専門基礎分野及び専門分野の合計で106単位以上を修得し、128単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：49単位（年間）） なお、基幹分野の選択科目のうち「韓国語Ⅰ」及び「韓国語Ⅱ」または「中国語Ⅰ」及び「中国語Ⅱ」のいずれか2単位以上を選択必修とする。								1学年の学期区分				2学期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要															
（リハビリテーション学部 作業療法学科）															
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基 幹 分 野	人間と教育	フレッシュヤーズセミナー	1前	1		○			1					兼3	共同
	教育学	1後	1			○								兼1	
	人間と心	心理学	1前	1			○							兼1	兼1 兼1 兼1
	発達心理学	1後		1			○							兼1	
	ジェンダー論	1後		1		○								兼1	
	人間と社会	法学	1前		1	○								兼1	兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	経営学	2前		1		○								兼1	
	社会学	1後	1			○								兼1	
	倫理学	1後	1			○								兼1	
	人間関係論	1前	1			○								兼1	
	コミュニケーション論	1前	1			○								兼1	
	人間と文化	国際関係論	1後		1	○								兼1	兼1 兼1 兼1 兼2 オムニバス方式
	文化人類学	1後	1			○								兼1	
	アジアの文学	1前		1		○								兼1	
	福岡の歴史と文化	1前	1			○								兼2	
	人間と科学	健康科学入門	1前	1		○			1					兼3	オムニバス方式 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	医療と情報リテラシー	1前	1				○							兼1	
	論理的思考法	1前	1			○								兼1	
	統計学	1後	1				○							兼1	
	生物学	1前		1			○							兼1	
	物理学	1前		1			○							兼1	
	人間と言語	英語Ⅰ（医療英語）	1前	1			○							兼1	兼1 兼1 兼2 共同 兼1 兼1 兼1
	英語Ⅱ（医療文献読解）	1後	1				○							兼1	
	韓国語Ⅰ（日常会話）	2・3前		1			○							兼2	
	韓国語Ⅱ（医療会話）	2・3後		1			○							兼1	
	中国語Ⅰ（日常会話）	2・3前		1			○							兼1	
	中国語Ⅱ（医療会話）	2・3後		1			○							兼1	
	人間とスポーツ	スポーツ理論	1前	1		○								兼1	兼1 兼1
	スポーツ実践	1後		1			○							兼1	
小計（29科目）			—	16	13	0	—			1	0	0	0	0	兼24
専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ（筋骨格系、神経系）	1前	1			○							兼1	兼1 兼2 オムニバス方式、共同（一部） 兼1 兼1 兼1 共同 兼1 兼1
		解剖学Ⅱ（呼吸器系、循環器系）	1後	1			○							兼1	
		解剖学実習	1前	1				○	1					兼2	
		生理学Ⅰ（動物性機能）	1前	1			○							兼1	
		生理学Ⅱ（植物性機能）	1後	1			○							兼1	
		生理学実習	1後	1				○	1		1			兼1	
		病理学	1後	1			○				1			兼1	
		運動学Ⅰ（総論、上肢）	1後	1			○				1			兼1	
		運動学Ⅱ（下肢、歩行）	2前	1			○				1			兼1	
		運動生理学	2後	1		○					1			兼1	
		運動学実習	2前	1				○			1	2		共同	兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
		人間発達学	1前	1			○		1					兼1	
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	内科学Ⅰ（総論）	2前	1			○							兼1	
		内科学Ⅱ（各論）	2後	1			○							兼1	
		神経内科学Ⅰ（総論）	2前	1			○							兼1	
		神経内科学Ⅱ（各論）	2後	1			○							兼1	
		整形外科Ⅰ（総論）	2前	1			○							兼1	
		整形外科Ⅱ（各論）	2後	1			○							兼1	
		精神医学Ⅰ（総論）	2前	1			○							兼1	
		精神医学Ⅱ（各論）	2後	1			○							兼1	
		小児科学	2前	1			○							兼1	兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
		老年学	2後	1			○							兼1	
		救急救命医学	2後	1		○								兼1	
		公衆衛生学	1後		1		○							兼1	
		臨床心理学概論	2前		1		○							兼1	
		リハビリテーション医学	1後	1			○							兼1	
		医療危機管理論	3前		1		○							兼1	
		医学概論	1前	1			○		1					兼2	
		栄養学	1後	1			○							兼1	
		薬理学	1後	1			○							兼1	
		医用画像診断学	3前	1			○							兼1	

科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
専門基礎 分野（続 き）	保健医療福祉 とリハビリ テーションの 理念	リハビリテーション概論	1前	1				○		1					兼1 兼1 兼7	共同		
		ケアマネジメント論	3前		1			○										
		カウンセリング論	1前		1			○										
		保健医療福祉制度論	1前	2				○										
	専門職連携教育	専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）	1後	1					○		1		1			兼7	共同	
専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）		2前	1					○		3		1			兼14	共同		
専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）		3前	1					○		4	1	1	2		兼28	共同		
専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）		4後	1					○		5	1	2			兼28	共同		
小計（39科目）			—	35	5	0	—			8	0	3	2	0	兼55			
専門分野	基礎作業療 学	作業療法学概論	1前	2				○		1								
		作業科学	1後	2				○		1								
		作業療法理論	2前	1				○		1								
		作業療法研究法	2後	1					○	3					オムニバス方式講義15時間演習15時間			
	作業療法管理 学	作業療法管理学	3後	2				○		1								
		作業療法評価 学	作業療法評価学	2前	2				○		1							
			身体機能評価学演習Ⅰ（筋・骨格系）	2前	2					○				1	2		共同	
			身体機能評価学演習Ⅱ（中枢神経系）	2後	1					○	1			1			共同	
	精神機能評価学演習		2前	1					○			1	1			共同		
	作業療法治療 学	発達期評価学演習	2後	1					○		1		1			共同		
		作業療法臨床推論	2後	2					○	1						共同 共同 共同 講義15時間演習15時間 講義15時間演習15時間 共同 オムニバス方式講義15時間演習15時間 オムニバス方式、共同（一部） 共同 共同 兼1 オムニバス方式 共同		
		生活行為向上マネジメント	2後	1					○			1						
		作業学実習Ⅰ（手工芸等・作業分析）	1前	1										4				
		作業学実習Ⅱ（レクリエーション・作業分析）	1後	1								1	3					
		日常生活支援学	2前	1					○	1								
		日常生活支援学演習	2後	1						1			1					
		機能代償学	3前	1					○	1								
		身体機能作業療法学	3前	1					○				1					
		身体機能作業療法学演習	3後	1					○				1	1				
		精神機能作業療法学	3前	1					○	2								
		精神機能作業療法学演習	3後	1					○	2		1						
		発達期作業療法学	3前	1					○	1								
		発達期作業療法学演習	3後	1						1			1					
		高齢期作業療法学	3前	1					○		1							
		高齢期作業療法学演習	3後	1							1	1	1					
		高次脳機能作業療法学	2後	1					○	1								
		摂食・嚥下作業療法	3後		1				○									
		感覚統合療法	3後		1				○	1								
		認知症作業療法	3前		1				○		1							
	地域作業療法 学	リハビリテーション工学	2前		1				○	1							兼1	
		作業療法治療学	3後		1				○	4								
		作業療法特論	3後		1													
		作業療法総合演習	4後	2					○	6	1	2	5			共同		
		地域作業療法学	3前	1					○	2	1					オムニバス方式		
		地域作業療法学演習	3後	1							1		2			共同		
		生活環境論	2後	1						1						講義15時間演習15時間		
	臨床実習	ヘルスプロモーション作業療法学	3前	1					○	1						共同 共同 共同 共同 共同 共同		
職業リハビリテーション		2後	1					○	1									
基礎臨床実習		1通	1						6	1	2	5						
地域臨床実習		2通	1						6	1	2	5						
評価臨床実習		3後	3						6	1	2	5						
総合臨床実習Ⅰ		3後	6						6	1	2	5						
卒業研究	総合臨床実習Ⅱ	4前	6						6	1	2	5			共同 共同 共同			
	総合臨床実習Ⅲ	4前	6						6	1	2	5						
	卒業研究	2後	1						7	1	2	1					共同	
	卒業研究演習	4後	2						7	1	2	5			共同			
小計（45科目）			—	65	5	0	—			7	1	2	5		兼1			
合計（113科目）			—	116	23	0	—			8	1	2	5	0	兼76			
学位又は称号		学士（作業療法学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）											
卒業要件及び履修方法									授業期間等									
基幹分野から必修16単位を含む22単位以上、専門基礎分野必修35単位、専門分野必修65単位に加え、専門基礎分野及び専門分野の合計で106単位以上を修得し、128単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：49単位（年間）） なお、基幹分野の選択科目のうち「韓国語Ⅰ」及び「韓国語Ⅱ」または「中国語Ⅰ」及び「中国語Ⅱ」のいずれか2単位以上を選択必修とする。									1学年の学期区分				2学期					
									1学期の授業期間				15週					
									1時限の授業時間				90分					

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野	人間と教育	フレッシュャーズセミナー 新入生全員を対象とした初年次教育講座と位置づけ、高等学校時代とは異なる大学生として、大学とは如何なるところで何をどのように学ぶのか目的を明確にして、様々な学修課題を解決するためにSNSや図書館での検索方法を学ぶ。医療に携わる職種を選択した学生同士として討議を通して仲間づくりを行い切磋琢磨する意識やチームワーク力や表現力を学び、個々のキャリアについても思考し、4年間の大学生活を有意義に実りあるものとして過ごせるような基盤づくりを行う。	共同
	教育学	教育は歴史・社会・文化のすべての全体的な関連の中で営まれる。そこで、教育の目的と内容を理解し、近代の学校の成立と西欧や日本の歴史的変遷を概観し、「人間のための教育」という視点から、そこに見られる主な問題、とりわけ現代的課題である貧困や福祉の現状、医療と教育について検討していく。さまざまな具体的な教育思想や実践事例などを紹介しながら医療教育についても現状や課題などを考える。本科目では教育学の基本的な概念や知識、現代の教育における問題について学修する。	
	人間と心	心理学 本科目では基礎心理学と応用（臨床）心理学の知識を学び、心理学を日常生活に応用できるようになることを目的とする。人間の生活基盤としての「個人・集団」の関係形成、心理および行動について理解する。人間は人との関係の中で生活しているが、人間の「心」の在りようは複雑で、その在りようが身体にも他者との関係にも影響する。心理学の伝統的方法と行動的方法をもとに人間理解の具体的方法を学ぶ。心理学は人のこころの動きや、そこから生じる行動について探究する学問である。心理学を日常生活に活用できるように学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と心 （続き）	発達心理学	既修の「心理学」と関連させながら、心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフサイクルを視野にいれながら、ここでは胎児期から乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に時間の経過とともに質的及び量的に変化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問体系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、医療の対象である人間の誕生から老年期に至る生涯発達の過程において、各期の発達と課題を学ぶことで、医療に還元できる知識や探索の仕方を学修する。	
		ジェンダー論	多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上でジェンダーは重要な視点の一つである。医療、健康、保健に関わる人材は、人間の生と性に関するジェンダーへの深い理解が求められる。ここでは文化・社会的な在りようとしてのジェンダーがどのように構築されてきたか、具体的な歴史やトピックをとりあげながら、ジェンダーに関わる諸相を理解する。自己のジェンダーに気づき理解を深め、人権問題、社会問題にも広く対処できるような素養を身に着けることを目的とする。	
	人間と社会	法学	日本国憲法は「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」の3つの柱から成り立っている。日本国憲法の基本的な考え方を知り、憲法が国家や社会の基礎をなしていることを理解する。「基本的人権」は侵すことのできない永久の権利であるが、基本的人権が法の下にどのように保障されているか学び、現在起こっている身近なものと結び付けて考えてみる。また「患者の権利」について具体的に検討し、臨地（床）の場で生じる様々な問題についても学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と社会 （続き）	経営学	本科目では、企業や経営についての基本的知識を学修すると共に、現代社会におけるその役割と意味について考え、社会における経営の問題に興味・関心を抱き、専門学修へと展開していかれるような力を育成することを目的とする。経営について学修することで、経営的なものの見方・考え方を身につける。社会状況に応じた戦略的な考え方を学び、組織の基本形態とその特徴を学ぶことで、組織を機能させる思考や、資源をいかに活用するかなど、将来的に施設運営に参画できるような基礎的能力を養う。
		社会学	人間は社会的存在であり、社会の在りように個人は影響を受ける。少子高齢社会、人口減少社会、情報化社会、無縁社会、多死社会など我々が暮らしている地域社会に関する諸問題に対して検討することで、自分がいまどのような位置にいるか見えてくる、それは自分がどう生きるかにつながる。我々が生活する社会を再度見直し考える事によって、我々が生きる現代社会の諸問題についての幅広い知識を身につけ、今後の社会について自らの視点をもって考え、物事にあたることができるように学修する。
		倫理学	現代は科学技術と医療技術の進歩が人間の生存に関してさまざまな倫理的問題を提起している。これから人々の健康に関わる学生にとって、人間の存在そのものや、生きる意味など、状況によっては多くのジレンマにも遭遇することが考えられる。その状況をどのように捉え、考え、対応していけばいいのか、困難な問題に突き当たったときのためにも倫理学の理論、学説、方法論の基本を学び、論理的な思考能力を身につけ、医療関係者として倫理的視点を養うように学修する。

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と社会 （続き）	人間関係論	人間は幼少期から成長する過程で様々な人間関係を経験する。その経験は個々の心と体の「健康」に大きな影響を与える。現代社会は常に変化しており、そこで生じる多様な人間関係も複雑化している。人間関係論はホーソンの実験により、経営組織の諸状況が人間関係によって規定され、その因果関係を体系化した理論で人間関係の重要性を示したものである。医療に携わる学修者として人間関係づくりの基礎的知識を理解し、対象者となる人間理解と自己理解を深め、人々の健康課題に寄与できるように学修する。	
		コミュニケーション論	コミュニケーションは私たちの生活のあらゆる場面に存在し、人間社会を成立させる重要な手段であり、人間の「考え・感情」を表現し、理解しあうことにつながる。健康課題を持つ対象に対応する医療関係者にとってこの能力は重要となる。本科目では多様なコミュニケーションにおいて、双方向の情報を正しく読み取り、適切に伝え、よりよいコミュニケーションをはかる手立てを探る力をつけることを目的に、医療に関する職業に携わる学修者として実践に活かせるように学修する。	
	人間と文化	国際関係論	グローバル化が急速に進行している現在、世界各地で発生している問題は1国のみの問題ではなく、複数の国々や組織などの関係の上で成り立っている。他国や他地域で起きた様々な問題は、自分の身近なところに直結し生活に影響している。こうした状況を踏まえて、本科目では、国際関係論の理論的背景、歴史的経緯を理解し、紛争問題や貧困と格差など具体的な国際問題を検討することを通して、世界で起きている問題や日本の果たす役割について学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と文化 （続き）	文化人類学	「国際化」や「グローバル化」が進む中、自文化と異文化の理解は私たちにとって必須なものとなっている。世界各国との交流が活発な現在、医療に関わる人材には、文化による考え方や価値、生活習慣の違いなど理解し対応する必要がある、特にその能力が必要とされている。文化人類学はそのための有力なツールである。本科目では、「文化とは何か」「人間とは何か」を、多様で具体的事象や理論を紹介しながら考えていく。それにより文化理解に必要な総合的な知識を学修し、今日の世界を洞察する力を身につける。
		アジアの文学	アジアは非常に広大な地域であり、地域が辿ってきた歴史によって根付く文学の特徴にも違いがある。ここではアジア文学の中でも、東アジア（日本・中国・韓国）における古典文学と近代文学について学ぶ。作品を通して時代背景とともに人間の生きざまや考え方、思想がその文学にどのように影響しているか、それぞれの文学の特徴や関連について学修することを通して、時代背景や各地の文化が人間の生活や考え方、生き方に及ぼす影響について深く理解する。

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と文化 （続き）	福岡市の歴史、特に博多の成り立ちを学ぶ。福岡市は九州の玄関口として、またアジアに開かれた都市として、近年とみにグローバル化している。保健医療に携わる者としてこれから大学生活をおくる福岡の歴史、生活する人々の暮らしや地域で行われている習慣を知ることが、地域の環境や文化の理解、地域で生活する人の理解につながるとともに、地域に対する誇りを確認することにもなり大切な要素となる。自らも福岡の魅力を発信できるように多方面から学修する。 （オムニバス方式/全8回） （30 松原孝俊/1回） 博多港にたどり着いた外地からの引きあげ者 139万人 （68 宮井善郎/7回） 福岡藩を取り巻く諸問題、人権啓発・同和問題、在日外国人・外国人労働者、多文化共生に向けた街づくり、古代日本の玄関口筑紫館と鴻臚館、発掘調査からみた中世博多チャイナタウン、福岡の近代遺産	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と科学	健康科学入門	オムニバス 方式
		日本は世界に先駆けて高齢社会となり、国民が健康でよりよく生きるかということは大きな命題でもある。「健康」とは何か、人々のより良い健康を支援する職業に携わるものとして、看護、理学療法、作業療法、各々の視点から健康を深く理解し、人間の「健康」を支える「科学」とは何かを思考する。健康科学を支える学問は多岐にわたっており、人々の健康の実現を目指していく実践的な科学である。ここでは各学科の専門基礎分野・専門分野への導入として、その礎となる「健康科学」について学修する。 （オムニバス方式/全8回） （27 西村泰治/2回） 健康とは何か、医学領域からみた健康、科学とは何か 仮説の立案とその検証 （① 野地有子/2回） 看護領域からみた健康、健康を科学する最新の研究から （32 溝田勝彦/2回） 理学領域からみた健康、健康を科学する最新の研究から （37 近藤敏/2回） 作業領域からみた健康、健康を科学する最新の研究から	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部 看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 (続き)	人間と科学 (続き)	医療と情報リテラシー	激しく変化している社会の中で生きていくためには生涯学修が必須となり、各自がそれぞれの方法を身につけるためには情報リテラシー能力の獲得が必要である。本科目ではインターネットの概要について学び、その上で動くアプリケーションの仕組みや基礎技術を理解し、適切に使いこなせるように学ぶ。医療の現場は ICT（Information and Communication Technology）の発達によって大きく変化している。しかしその一方では様々な問題や課題がある。ICT を用いた新しい医療としては遠隔での診療が可能になったり、情報の共有ができたり、災害時に活用できたりなど現在の状況や、これから充実していく 5 G（高速、大量の通信が可能）での医療の活用について学ぶ。さらに医療倫理的側面から、医療に関わる人々が知っておくべき課題について学修する。	
		論理的思考法	今日、どのような職業においても「根拠（エビデンス）にもとづいた思考と行動」が求められている。医療の領域も例外ではない。そこでは「エビデンスにもとづく治療（医療）」という言葉をよく耳にするようになった。しかし、根拠にもとづいて結論を導き出すとはいかなることなのか。ある結論をエビデンスによってサポートするとはどのようなことなのか。こうした根本的な問いを考えるのが、この講義の目的である。この講義では、「論証」の構造およびその評価の仕方を、演繹と帰納の観点から体系的に検討することによって、これらの問いにアプローチする。論理的思考を修得することは、大学におけるアカデミックスキルを身につける際にも基本となるだろう。	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と科学 （続き）	統計学	本科目は基礎的な話が中心となる。統計学は、1つ1つの基礎を積み上げながら自分の中でイメージを描き、理解をしていくことが大事である。特に、扱うデータの種類や性質などが分かっていると、そこから先の統計学の理解が難しくなる。そのため、最初に医療データの種類や医療データ解析事例を説明する。そして前半は基礎となる特徴記述統計の理解を中心に解説する。後半の推測統計では標本の扱い、推定、検定の手法についての理解を中心に解説する。統計学は各分野での学修の基礎となる、今後の研究的思考に活かせるように学修する。
		生物学	医療職に必要な不可欠な生物学の基本事項を学修し、生命とは何かを考える。初めに生命の基本となる細胞の構造と機能を理解し、生体を構成する分子や恒常性維持のメカニズムについて学ぶ。また発生・分化、遺伝と生物進化、生命誕生と死に関する事項の学びを通じて、「生きるとは何か」という生命の本質を理解する。ここでは医療の基礎となる生物学を学ぶことで、私たちの生命がどのような仕組みで維持されているのかを理解し、それを専門分野に応用できる基礎的能力を養う。
		物理学	物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考える上で基礎的な学問となる。本科目の目的は、力学の基本的な原理について正しい理解を得ること、看護師、理学療法士、作業療法士に必要な物理学に関連する知識を得ること、科学的または論理的な考え方を養うことである。人体の運動と物理の法則の関係を理解し、科学的な思考で人間の動きを捉えられるように学ぶことで、無理のない体の動きや力の使い方についても日常的に重力や摩擦など考えながら行動し、各分野に活かせるように学修する。

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
基幹分野 （続き）	人間と言語	英語Ⅰ（医療会話）	ここでのポイントは臨床の様々な現場で患者との英語によるコミュニケーションを実現するための基礎となる慣用表現を修得する。実際に使えない英語は意味がないので、発音練習の中でアクセント、フレーズ、イントネーションなども知り、基本的単語と簡単な構文を駆使した会話が成立することを目指す。講義を通じて必要な単語を覚え、英文の構造の理解を学ぶことで、英語が聞き取れるようになるように学ぶ。人々とのコミュニケーションの手段として、医療の場における会話ができるように学修する。	
		英語Ⅱ（医療文献読解）	看護学科や理学療法学科、作業療法学科に必要な英語論文や英語記事を読み解き理解することで、大学在学中および将来にわたって必要とされる英語読解能力をスキルアップできるように学ぶ。医療の分野では最新の知見に触れることを通して、日々の実践活動に活かしていくことが今後ますます必要とされる。そのためにも英文の読解は必須である。これから学び深めていく各専門分野にも英語に親しみをもち活用できるように、また4年次の卒業研究や将来にわたって最新の英文の読解ができる基礎作りを行う。	
		韓国語Ⅰ（日常会話）	2000年代の初め、韓流ブームが日本国内で沸騰し、2018年度には韓国人訪日客は約750万人、日本人訪韓客は約300万人に達した。韓国語を学ぶ人口も飛躍的に伸びた。韓国語を初めて学ぶ学生諸君を対象に、韓国語の基本である発音を身につけ、簡単な日常会話（挨拶等）ができるように韓国語に関する体系的な基礎知識を学ぶ。韓国語と日本語は基本的な語順が同一であるので、学生諸君はその修得スピードに驚くだろう。併せて、韓国文化の理解と共に、韓国語で簡単なコミュニケーションを可能する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部 看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 (続き)	人間と言語 (続き)	韓国語Ⅱ（医療会話）	韓国語Ⅰでの学びを基に、ここでのポイントは臨地の様々な現場で患者との韓国語によるコミュニケーションを実現するための基礎となる慣用表現を学ぶ。韓国語の場合は平音・濃音・激音の発音トレーニングが重要なので、発音練習の中で、フレーズ、イントネーションなども知り、基本的単語と簡単な構文を駆使した会話が成立することを目指す。医療者として実務で話す機会が多い内容で構成し、実務に役立つ会話ができるように学修する。	
		中国語Ⅰ（日常会話）	アジア圏の中で中国のエネルギーはすさまじいものがある。人口も 13 億と多く、多くの人が世界中を旅したり、留学したりと、日常的に私たちが中国語を耳にする機会も増えてきている。福岡の地は中国からの旅行者も多くみられる。中国語の基本である発音を身につけ、会話を通して簡単な日常会話（挨拶 他）ができるように学ぶ。また日常会話を通して現代中国の文化や社会について理解できるように概説する。学修を通してお互いの文化や考え方の理解につながるように学ぶ。	
		中国語Ⅱ（医療会話）	中国語Ⅰでの学びを基に、ここでのポイントは臨地の様々な現場で患者との中国語によるコミュニケーションを実現するための基礎となる慣用表現を学ぶ。中国の場合は四声の発音が重要なので、発音練習の中でアクセント、フレーズ、イントネーションなども知り、基本的単語と簡単な構文を駆使した会話が成立することを目指す。健康課題がある人に対し、医療者として実務で話す機会が多い内容で構成し、実務に役立つ会話ができるように学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間とスポーツ	スポーツ理論	学生の健康管理の一環ともなるようスポーツについて学修する。人間にとって体を動かすことがどのような意義があるのか、スポーツがもたらす心や体への影響を考え、体力づくりや健康づくりや、スポーツ理論について学ぶ。さらに障害者のスポーツに関しても学修する。障害には身体障害、知的障害、精神障害、発達障害などがある。初めてスポーツに参加する障害者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツ活動の導入を支援できるように学修する。	
		スポーツ実践	学生の健康管理の一環ともなるよう、様々なスポーツを経験することで体を動かし健康づくりについて考えるとともに、お互いに協力してコミュニケーション力を向上させ、生涯スポーツに取り組めるように学ぶ。スポーツ実践の際はその競技のルールに従うことや、チームで行う場合は協力し、ともに仲間の力を信じてお互いの能力を最大限に発揮できるように臨むことが必要となる。各スポーツの実践を通して協調性や、目標を共有し協力しあう楽しさも学修する。	
専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	人体構造学	生命の基本単位である細胞の構造と機能を理解し、人体を構成する組織、器官の構造を系統的に学び、人体の全体像を把握する。医療は生命の維持と健康の保持・増進を目指して行われている。医療行為は人体へのさまざまな介入が実施されるので、人体の正確な理解が必要となる。看護実践特にフィジカルアセスメントの基盤となる人体の基本的な構造の知識は、看護の対象の健康状態を判断するときに不可欠なものであるため、その基礎的知識を学ぶ。さらに実際の人体(献体)や臓器の観察を通して自己の死生観を育む。個人の健康課題に関わる看護を目指す学生にとって、人体の構造の知識は対象の健康状態を判断するときに不可欠となる。人体に対する理解が深まるように基礎的知識を学修する。	講義 30 時間 演習 30 時間

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
専門基礎分野 （続き）	人体機能学	人体構造学を基礎として、生体の生命活動や恒常性（ホメオスタシス）の維持に関与する事象を解剖学・生理学的な視点から学ぶ。生物は体内に物質を取り込み、外部からの刺激に反応して生活を営んでいる。また成長し種の保存をはかり、老化し死を迎える。このように生体内で生じる種々の反応や、その反応系に異常を来して生じた事象について形態機能学的に説明する。人体の構造と機能を関連させて学ぶことにより、看護の対象の健康の保持・増進を科学的根拠に基づいて支援できるように学修する。	講義 30 時間	演習 30 時間
	栄養代謝学	人間は食物として取り込んだ栄養素を体内で消化吸収し、それらを化学変化させ体が必要とするものを合成し、エネルギーや生体構成成分として利用したのち、不要となったものを体外に排泄してバランスのとれた代謝を維持している。このバランスが崩れると健康状態に障害が発生し、日常生活にも支障をきたす。これら人間に不可欠な栄養の吸収と代謝のメカニズムについて学ぶことにより、看護を実践する際に対象の健康保持に貢献できるように基礎的知識を学修する。		
	病理学	人体構造学、人体機能学、微生物学などの学びを基に、病気の原因、病気の発症・進展の過程、炎症、腫瘍などの知識を学び、それらの病変が組織や臓器に現れた場合の健康障害の成り立ちについて学修する。病気は器官・組織・細胞に特徴的な変化をもたらすため、それを調べることで病気の原因と成り立ちを知ることができる。本科目では病気になった人の身体に生じている変化について学ぶが、病理学を学ぶことは、病気を知ることにつながり、病気である人間を看護する時の基礎的知識を学修する。		

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進 （続き）	健康障害と治療Ⅰ（消化器・神経・内分泌・泌尿器）	既修の人体構造学、人体機能学、病理学の学修内容と関連させながら、系統別疾患の病因、症状、診断、検査、治療について学修する。本科目では、脳・神経疾患、消化器系、内分泌・代謝疾患、腎・泌尿器系疾患に関して最新の診断、検査、治療について学ぶ。脳・血管疾患の多くは罹患後に後遺症が残り、命は助かっても生活の質に影響を及ぼす。消化器系は悪性腫瘍が発生する頻度が高く、その早期の発見と治療は、健康長寿社会の達成に重要な要因となっている。内分泌・代謝疾患では根治的な治療が困難な疾患が多く、腎・泌尿器系では生活習慣病が原因で起こる慢性腎臓病が増加している。これらを学ぶことにより、健康問題の解決に向けて看護に活かせるようにする。
	健康障害と治療Ⅱ（循環器・呼吸器・血液・膠原病）	既修の人体構造学、人体機能学、病理学の学修内容と関連させながら、系統別疾患の病因、症状、診断、検査、治療について学修する。本科目では血液・造血器系、循環器系、膠原病、呼吸器系疾患について学ぶ。血液・造血器系は全身への酸素や栄養の補給、感染防御、免疫応答、止血機構などの役割があり、その機能破綻は生体に重大な影響を与える。循環器疾患は3大死因の1つであり、膠原病は自己の組織に対する過剰な免疫反応が引き起こされることにより病態が形成される。呼吸器疾患は肺癌・肺炎など死亡原因として順位が高く、治療や看護への社会的ニーズが高い疾患である。これらに関して最新の診断、検査、治療を学ぶことにより、健康問題の解決に向けて看護に活かせるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野（続き）	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進（続き）	健康障害と治療Ⅲ（外科・麻酔・救命救急）	オムニバス方式
	健康障害と治療Ⅳ（アレルギー・感覚器・歯・口腔）	健康障害と治療Ⅲ（外科・麻酔・救命救急）	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	人体の構造と機能・ 疾病の成り立ちと回復の促進 （続き）	健康障害と治療Ⅴ（小児）	小児期の主な健康障害（代謝、循環器、消化器、血液・造血器、腎・泌尿器、精神等の障害や感染症）の種類や発症のメカニズム、症状、検査、診断、治療について学ぶ。小児期は各期において、成長過程での変化が著しく、特有の健康障害もみられる。健康障害によっては身体発達、精神発達、社会性の発達に影響を及ぼす。また症状があっても訴えることができないか、あるいは訴えても内容が不明瞭な場合が多い。このような小児の健康障害の特殊性について学修し、看護に活かせるように基礎知識を修得する。
		健康障害と治療Ⅵ（精神）	心理学、人間関係論などの学修と関連させながら、代表的な精神健康障害の症状、経過、治療について学ぶことにより、精神健康障害の予防や精神的な健康の保持と増進について学修する。精神健康障害の領域では社会全体としても高齢化がもたらす諸問題や、うつ病をはじめとするメンタルヘルス上の問題を抱える対象者や、発達障害への対応といった新たな課題にも触れながら、精神の健康について考え、人々のより良い健康を支援できるように学ぶ。
		放射線医学	近年 X 線診断・核医学診断に加え、X 線 CT、MRI や超音波診断が目ざましい発展を示し、放射線画像診断は欠くことのできない手段として、広く普及するに至っている。放射線療法が進歩する中、人口の高齢化による悪性腫瘍の増加もあり、技術革新によりピンポイントで低侵襲の放射線治療が開発され功を奏している。看護師が働く職場で画像情報を見ない日は 1 日も無い現状があり、これらの診断と治療を通して患者の状態を把握することは、質の高い看護につながる。日常的に遭遇する放射線を利用した診断法および治療法の基礎的知識について学修する。

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	人体の構造と機能・ 疾病の成り立ちと回復の促進 （続き）	微生物学	感染症は医学上もっとも重要な疾患の一つである。最近では新型コロナウイルスによる感染が世界を震撼させ、生活スタイルまでもが変化を余儀なくされた。さらに新たな病原体による感染症や院内感染などが社会的に危惧されている。病原体の種類と、これらがどのようにヒトと関わり感染症を引き起こすのかについて学ぶ。さらに感染症の予防および制御の重要性と方法を理解する。これらの知識を活かして、看護の現場で感染症に対して適切に対応できるようにする。微生物学の知識が看護の対象者のより良い健康に寄与できるように学修する。
		感染症看護	感染とは、「病原性微生物（病原体）が身体のある部位で増殖すること」をいい、「感染により引き起こされる疾患」を感染症と言う。感染症看護においては、感染症に特徴的な症状を中心としたアセスメントによって、感染症と病原体、感染伝播リスクを推測し、速やかな感染対策及び回復に向けての治療と看護ケアが求められるため、これらに必要な基礎的知識について概説する。院内感染は社会的にも大きな関心事になっている。病院における感染管理の重要性について理解し、健康の回復や健康の質に寄与できるように学修する。
		食事療法学	食生活が人間の健康や病気に与える影響が大きいことはよく知られている。ライフスタイルのひとつである個々の食習慣は、生活習慣病の要因として重要な地位を占め、健康のレベルに大きく関与し結果として生活の質にも影響する。将来看護師としてより効果的な援助者となるために、既修の栄養代謝学の学修内容と関連させながら、ライフステージや健康障害の種類に沿った食事療法の知識の修得を目指す。健康課題がある対象に食生活の面からアプローチできるようになるために学び、対象者の生活の質の向上に活かせるように学修する。

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部 看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 (続き)	人体の構造と機能・ 疾病の成り立ちと回復の促進 (続き)	薬理学	多数の薬が使用されている臨床の現場では、薬の特徴や作用を理解することは非常に重要である。①薬物の体内動態と作用部位、②薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くのか）、③薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、④薬物の副作用とその対策（副作用の出現を察知し、看護師としてどう対応するか）、以上について薬理学の基礎知識と薬物治療の基本について学修して看護に活かせるようにする。薬物は人間にとっては毒にも薬にもなり得る。薬物療法を受ける人の健康の質を支えられるように学ぶ。	
		リハビリテーション概論	日本の医療の高度化により死亡率は低下した反面、障害をもつ人は増加した。また、高齢化によっても障害をもつ人は増加している。障害を持つ人々の生活の質を高めるリハビリテーションの概念は、当事者およびその家族にとって重要である。リハビリテーションにおける看護は対象である人間を、健康障害や障害を持ちながらも生活者としてとらえ、その人らしく生きることを支援し生活の質（QOL）を高めていけるように援助することにある。リハビリテーションの必要な人を支援するための基礎的知識として、リハビリテーションの定義や歴史、倫理、種類およびリハビリテーションに関連する概念や、看護におけるリハビリテーションについて学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
専門基礎分野 （続き）	健康科学医療論	基礎科学の研究成果に支えられて、新しい診断法、予防法、治療薬や医療機器が開発され普及しつつある。看護は、このような現代医療の発展に伴う医療技術が、人々の安全と、尊厳および権利を脅かすことなく、健康障害に罹患している対象者の健康レベルに応じて、健康を回復し、苦痛を緩和することに努めている。しかし、一方で、生命の意義、人間の尊厳や倫理、個人情報の保護ならびに社会と医療の関わり合いなど課題も含んでいる。本科目では、現代の医療の発展を支えてきた健康を科学するとはどういうことか、そしてそれが抱えている諸問題や特徴、変化する社会における医療のあるべき姿や看護の役割について、看護学の将来展望と絡めて学修する。	共同	
	看護統計学	医療の分野で科学的根拠に基づくアプローチの浸透で分かるように、統計学は実用の学門として、人間集団を対象とした科学研究を推進する役割を担っている。看護の対象は個人、家族、集団であり、看護現象を統計学により効率的に記述し、特徴をつかみ、さらに集団の背後にある規則性・法則性を数的方法でつかむという意味で有用である。それらは科学的根拠の基盤になることを理解し、看護における研究の際に実際に使えるように学修する。		
	社会福祉学	人間は誕生から死まで生活していくのに、個人や家族の努力だけでは対応できない困難な状況に直面する。そのようなときに最低生活を保障する公的な制度が社会保障制度であるが、それぞれの社会で歴史的に形成されてきた制度であり、その意味は時代や社会によって異なる。本科目では社会福祉の思想、理論、制度、支援などの基礎について学ぶ。また、ヒューマンサービスに携わる者としての倫理と人間の尊厳の尊重を基礎においた生活支援についても学び、地域や医療現場における保健・医療・福祉の連携について考え、実践できるようになるための基礎知識の修得をめざす。		

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部 看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 (続き)	健康支援と社会保障制度 (続き)	保健医療福祉制度論	医療福祉分野の専門職として知っておくべき基本的な法令の概要とその役割について学ぶ。また、我が国における国民の健康維持・増進に寄与する各種法令と社会資源について学び、医療を取り巻く現状の諸問題や将来展望について理解する。専門職として活動するときに、必ず法にのっとった活動が求められる。そのためにも医療従事者は関連法規の目的や定義を理解しておくことが必要になる。各種の業務には義務が伴い、罰則もある。これから関係する各法が理解できるように学修する。	
		家族看護論	家族とは、システムとしての特徴を有しながら発達している1単位の生命体である。しかし、個人化が進み社会システムにおいて、家族構成員個々の選択と決定が優先されるようになり、家族が抱える問題も様々な形で多発している。特に健康問題に関しては、家族を1単位として看護の対象と捉え、家族が持てる力を発揮し、問題解決能力を高める援助方法を理解することが望まれる。この科目では、家族及び家族関係についての理解を深め、それらの家族への支援の方法を健康段階ごとに学ぶ。また、病と家族の苦悩について理解を深めることを目的とする。	
		公衆衛生学	公衆衛生学は疾病予防および健康の保持増進を取り扱う学問である。公衆衛生学の理念と目的は、人間集団における健康問題の発生状況を把握し、それに影響を及ぼす要因や原因を探って、地域や集団・個人の健康に応用することである。地域や国などの単位で統計学的に健康問題を捉えるとともに、年齢、性や職業などの視点からも理解を深め、集団が抱える課題を追及していく。また健康障害や健康の要因について、科学的根拠に基づいて解明することの重要性について、理解できるように学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	健康支援と社会保障制度（続き）	看護師が職業人として質の高い看護を提供するためには、豊かな人間性や深い専門的知識と技術が必要になる。対象となる人々の健康の保持・健康課題に対して科学的根拠のある看護実践はかかせない。その看護実践は業務上多くの法律に関係しており、看護サービスを提供する際には基盤となる法規及び関係法規を、理解しておくことが不可欠である。既修の法律を基盤として職務を遂行するための根拠や判断基準として、看護職に関する法律を学修する。	
	カウンセリング論	医療の世界において対象者に治療的に関わることは、人々の健康課題の解決や健康の保持にとって大切な要素になる。本科目ではカウンセリングとは何かということやカウンセリングの基本的なテクニックについて、具体的な事例や技法を通して学ぶ。カウンセリングの基礎や理論の学びを通して、自己理解や他者理解における柔軟な視点や、対人関係を振り返る機会となるようにする。将来医療に関わる各学部生が、カウンセリングの重要性について理解できるように学修する。	
	専門職連携教育 I（専門職連携の基礎）	保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあって、その場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性やチーム医療やチームケアについて学び、関連職種との協働に必要なコミュニケーション能力を身につけられるようにする。本科目では、専門職連携についての基本的な考え方を学ぶ。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）	保健・医療・福祉に携わる職種の専門性や関連性、チーム医療・ケアの理念と実践方法を理解し、各職種が連携して課題を解決し、患者・利用者中心の専門的サービスを提供する技能を修得する。ICF の概念を活用しチーム医療の中で自らの役割を発見し、メンバーとして協力の必要性を学ぶ。具体的には事例を通して、チームメンバーと協働し他職種のアプローチを尊重しながら、自職種としての意見やその根拠を明確に述べるとともに、各々の役割や責任についても学修する。	共同
	専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）	専門職連携教育Ⅰ・Ⅱの学修を基に、提示された事例を選択して対象の専門職連携についてワークを実施する。ワークを通して対象を全人的に理解し、自職種としての役割と責任を明確にする。他職種とチームで学修する中で職種によるジレンマや意見の対立も生じる。その中専門職連携・協働の意義やチームの一員として果たす役割を追究することで、他専門職種を尊重し柔軟に対応できるように学ぶ。チームで相互に協働できることは、対象の健康の保持増進や、生活の質に深くかかわることを学ぶ。	共同
	専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）	患者、利用者を全人的にアセスメントし、患者、利用者中心の専門職連携によってケア計画の立案ができる能力を育成する教育プログラムである。専門職連携教育Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで培った IPE に関する学びと他学部分野の学びを応用実践する。そして、シミュレーションを通し専門職の役割を活用しながら、対象の健康上の問題を明らかにし、問題解決に向けてチームで計画の作成に取組み全体で討議を行う。さらに臨床における専門職連携の実際についての講義を通して、質の高い医療を提供できるように学修する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部 看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門 分野	基礎看護学	看護学概論	看護学概論は、「看護とは何か」という看護の本質を多角的に追究し、看護学全体の基本的な知識を学修する。具体的には、看護の変遷、看護の基本的概念である「人間」、「健康」、「環境」、「看護」を理解し、科学的根拠に基づいた看護実践を支える知識体系、対象の健康を保持・増進、あるいは発達段階に応じた生活（QOL）を支えるケアの実施ができるように学修する。また、看護倫理や医療安全についても考え看護専門職としての役割・機能について学ぶ。	
		看護倫理	看護者の倫理綱領や看護の倫理的実践の基準・倫理的概念について学び、看護者としてあるべき姿を考える。基幹分野で学んだ倫理学と関連させながら、倫理的感受性や道徳的推論を高め、看護の場において生じる倫理的問題についてインフォームドコンセントや患者の権利を学び、看護職の倫理的責任を考えた意思決定・看護実践ができる基礎的能力を身につけるよう学修する。さらに倫理的視点を明確にするためにグループワークでディスカッションを深める。	
		看護実践論	看護を実践するためにはやみくもに行動するのではなく、科学的根拠が必要になる。看護の対象の生活（QOL）を支え、よりよい健康を保持するために必要な理論を学ぶ。看護理論は多くの先人の研究のもとに構築された看護に不可欠なものである。本科目ではヴァージニア・ヘンダーソン、ドロセア E. オレム等の看護理論について学び、科学的に看護を実践する礎とする。看護実践の際は知識・技術とともに看護者としての態度も重要である。ここでは看護者として求められる「人間性」についても理解する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
専門分野 （続き）	基礎看護学 （続き）	看護過程	看護を科学的に実践するために必要な問題解決思考の基本を学ぶ。その上で看護の対象となる人間の健康上の問題を明らかにし、問題解決に向けた援助を提供するためのアセスメント、問題の明確化、計画、実施、評価の看護過程の方法を学ぶ。看護実践においては対象を全人的に理解することが必要である。そのためにはどのように対象を捉えるか、全体的に対象をイメージしながら理解できるように事例を用いた看護過程の展開を行う。シミュレーションにより臨地に近い状態で評価ができるように学修する。	共同
		生活援助技術	看護の対象となる生活する人間の日常生活行動を理解し、安全・安楽・自立に考慮した援助を提供するために必要な基礎的知識を学ぶ。基本的な看護援助技術として看護におけるコミュニケーション、観察・記録・報告、スタンダードプリコーション、ベッドメイキング、移動、清拭、寝衣交換、洗髪、足浴、食事の介助などを修得する。提供する看護技術のどれもが対象の健康や生活の質（QOL）に影響する。併せて日常生活援助技術を行う上での倫理的配慮や看護者としての態度についても学修する。	共同
		ヘルスアセスメント	既修の人体構造学やコミュニケーション論を活用しながら、看護の対象である「人間」の健康課題を把握するために身体的・精神的・社会的側面からアセスメントする意義を理解する。これは対象を全人的に理解し、看護を科学的に実践する基本となる。ヘルスインタビューやフィジカルイグザミネーションの技術を修得し、ヘルスアセスメントの方法を学ぶ。対象への問診・視診・聴診・打診・触診の技術を通して、科学的根拠に基づいて対象の健康課題に対応できるように学修する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
専門分野 （続き）	基礎看護学 （続き）	診療に伴う援助技術	診療における援助に関連した基礎的知識を学ぶ。検査や治療過程における援助に必要な看護の基礎的知識を理解し、生活援助技術での学修と関連させながら標準予防策から無菌操作、創傷処置、採血、与薬、注射、排尿・排泄障害時の対処方法（導尿・浣腸）や吸引・吸入の技術を学ぶ。これらの技術は苦痛を伴うことが多く、健康課題のある対象者への安全面や苦痛緩和を考慮した基本的な診療援助技術を学修する。また、診療援助技術を行う上での倫理的配慮や看護者としての態度について学修する。	
		看護研究	看護の発展は研究によって支えられている。高度化・複雑化する医療の中で看護の本質を探究し、科学することで人々の生活（QOL）を支え、健康の質に寄与できるよう学修する。看護研究を行う意義、方法、倫理的配慮など看護研究の基礎的知識を学び研究に対する理解を深める。関心のあるテーマに関する文献のクリティークを行い、研究デザインや理論・概念枠組み・データ収集・測定用具・分析方法・分析結果の解釈について学修する。	
		生活援助実習	看護の対象者に対し、コミュニケーション技術を用いて援助的人間関係を構築することを学ぶ。看護師の指導を受けながら対象者の生活援助を安全・安楽・自立に考慮しながら実施し、生活援助に必要な知識・技術・態度を修得する。日常生活行動が、健康課題に及ぼす影響を考え、患者の個別性を踏まえた援助の方法や看護の機能を学ぶ。また、患者とのコミュニケーションや看護実践を通して、インフォームドコンセントや患者の権利を学び看護専門職として求められる基礎的態度や倫理的配慮を学ぶとともに、病棟における看護師の役割や多職種との役割について明確にする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	基礎看護学 （続き）	基礎看護過程実習	看護専門職者として健康課題を持つ対象者を1名受け持ち、倫理的配慮を基にコミュニケーション技術を用いて援助的人間関係を構築しながら一連の看護過程のプロセスを学ぶ。対象者を身体的・社会的・心理的に理解し、健康課題の問題解決に向けてアセスメント、問題の明確化、計画、実施、評価の看護過程を展開する。さらに自らの看護実践の評価を通して看護専門職者としての知識・技術・態度を修得する。また、今後の学修に向けた自己の課題を明らかにするとともに、患者を取り巻く医療チームの職種とその役割を明確にする。	共同
	地域・在宅看護学	地域看護学概論	地域看護は、地域で生活しているさまざまな健康レベルの個人、家族、集団、コミュニティを対象に展開され、社会情勢や疾病構造の変化など社会のニーズに応じた形で活動の場が広がっている。昨今の少子高齢化の中、地域包括ケアシステムの構築が示され、看護職はその構築へ向け大きな役割を果たすことが求められる。この科目では、地域での生活（QOL）を支えるケア提供へ向けた基盤となる知識の修得を目指す。具体的には、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう保健医療福祉の多くの専門職と連携・協働を行い、地域での生活を支えるケア体制を整えていくことの必要性和求められる技術、活動の場に応じた看護職の機能と役割について学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	地域・在宅看護学 （続き）	地域看護学援助論	地域看護活動は、地域で生活する人々の健康の維持・増進、QOLの向上を目指し展開される。この科目では、地域看護活動を行うために必要となる対象とその家族のセルフケア行動を支援する技術、高齢や障害、疾病があっても住み慣れた地域で安心して生活できるよう個別支援を通したヘルスケアチームづくりや地域のケア体制づくりを行う際に必要となる技術を学修する。具体的には、個人・家族を対象とした健康相談技術、集団を対象とした健康教育技術について学修する。さらに、看護職が他職種や住民組織との連携・協働する際、コミュニケーション技術を基盤に関係構築を行いながら相互交流や活発な意見を引き出し、合意形成を促すことが求められることからファシリテーション技術についても学修する。 （オムニバス方式/全15回） （11 池田敏子/4回） 地域看護技術、教育技術、グループ支援技術について （24 猪狩明日香/5回） 相談技術演習、教育技術演習について （11 池田敏子・24 猪狩明日香/6回）（共同） 相談技術、相談技術演習、教育技術演習、グループ支援技術演習について	オムニバス方式、共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	地域・在宅看護学 （続き）	地域看護学演習 人々の健康は、地域の文化や慣習、地理や交通、政治や経済、社会資源の状況といった人々を取り巻く環境の影響を受ける。この科目では、地域の人々の健康の維持・増進を支援するために地域はどのような人々で構成され、どのような生活条件の中で生活をしているのか、人々の生活実態と地域の健康問題との関連を検討し、地域の健康課題の解決へ向け看護職としてどのような働きかけを行うことが必要かを学修する。具体的には、大学近隣校区の人口統計など既存資料から分析し、地区の概況をとらえた後、地区踏査を行う。さらに、地域の住民組織の代表者にインタビューを行い、住民組織の活動を知るとともに住民組織活動から見える住民の健康生活の特徴や課題について把握し、地域の健康課題の解決方法について学修する。そして、地域の健康課題を捉える視点を育成し、看護職として地域の人々の健康の維持・増進、QOLの向上を目指した行動ができることを目指していく。 （オムニバス方式/全15回） （11 池田敏子/4回） 地域のとらえ方、地域をつくる人や組織、地域の健康上の課題と解決方法、地域看護学演習まとめについて （24 猪狩明日香/3回） 地区踏査、地域住民の健康と生活について （11 池田敏子・24 猪狩明日香/8回）（共同） 地域特性、地区踏査、地域住民の健康と生活について	オムニバス方式、共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
専門分野 （続き）	地域看護学実習	地域看護活動は、地域で生活する人々を対象とした疾病の予防、健康の維持・増進を中心に展開され、最終的には地域住民の QOL の向上を目指したものである。この実習では、健康課題を抱えた住民がその地域で生活を継続できるためのケアシステムの在り方を考察するとともに、地域で暮らす人々の健康の維持・増進についての意識や実際の予防行動についての考え、生活状況を理解し、それらを尊重しながら、保健医療福祉機関と連携・協働し、加齢や疾病、障害があっても地域や自宅で安心して生活できる地域ケア体制づくりの推進に貢献できることを目指す。地域看護における専門職連携、協働について看護師の役割を明確にする。	共同	
	在宅看護学概論	地域看護における在宅ケアの位置づけを理解し、在宅看護の特徴や在宅看護の対象者の支援について学ぶ。在宅看護の対象は小児から老年まで幅広く、その目的也多岐にわたっている。また社会資源の活用など制度への理解も必要となる。在宅での看護の場合は対象者を理解するとともに、在宅療養を支える家族への援助や意思決定を支えることも必要になる。対象の状態に応じた在宅看護の提供の実際や在宅への移行支援、さらに在宅看護を取り巻く現状と問題を学修する。		
	在宅看護学援助論	基礎看護学、地域看護学概論、在宅看護学概論の学修と関連させながら、自宅で療養生活を送る人とその家族に対する日常生活の基礎的援助技術（食事、排泄、排便、紙おむつ、入浴、移動等）や医療ケアの原理原則や技術について学修する。在宅で生活する人の援助については、対象の生活の場の把握、価値観、サポートの有無、家族の協力などが必要になる。健康課題や障害をもつ対象に住み慣れた生活の場で実施する生活援助は、対象の安全・安楽に配慮し創意工夫が必要となる。様々な場面を想定しながら在宅における基礎的援助技術や医療ケアについて学修する。		

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	地域・在宅看護学 （続き）	在宅看護は健康問題や障害を抱えながら在宅で生活している人々と家族が、その人らしく生活を送ることができるように支援をすることである。そのためには対象とする人々を身体的・精神的・社会的側面からとらえ、発生しやすい健康課題に向き合い、家族も含めてどのような健康な生活を望むのか相談しながら、資源を活用しあるいは多職種と協働しながら看護することが必要となる。事例を通してシミュレーションで訪問看護に必要な倫理的側面や問題解決能力を養う。また関係職種との連携・チームケアについて学修する。	
	在宅看護学実習	在宅看護は、対象者の生活の場を中心に展開されることから、個々の療養者および家族が有する生活・健康への価値観や主体性を尊重し、自立支援や自己決定という視点をもちながら、健康を維持・増進することが重要である。この実習では、訪問看護ステーションにおける実習を通して健康問題や課題を抱えながら在宅生活をおくる療養者の生活の場を知り、サポートの有無、家族との関係性の把握を行う。対象者の安全・安楽への配慮や意思決定の支援、倫理的配慮の実際を学ぶとともに、健康に寄与する看護の役割や課題について考察する。さらに、在宅看護に関連する保健医療福祉活動の実際について、多職種連携/協働によるチームアプローチの視点から学ぶ。在宅看護における専門職連携、協働における訪問看護師の役割を明確にする。	
	成人看護学概論	成人期は人生のライフサイクルの中で身体的、精神的に安定し、社会的には大きな役割や責任を担う時期である。青年期から向老期まで発達段階を経る中で、ライフイベントも多く、生活を営み、仕事を持ち働き、社会的責任も大きくなり、成人期特有の健康問題も生じる。成人期にある対象の健康レベルに応じた主要な理論や概念を学ぶと共に、対象をとりまく環境としての生活と健康を守り育むシステムの保健・医療・福祉の施策や背景、グローバル社会における健康問題の違いについて学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	成人看護学 （続き）	成人看護学慢性期援助論 人体構造学・人体機能学、健康障害と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、成人看護学概論と関連させながら、健康障害の経過としての慢性期(回復期を含む)の概念および特徴について理解し、慢性期にある成人期の対象者に見られる主な健康障害への援助方法や主要な症状についての看護アプローチの方法について学修する。慢性期は生活の再構築やセルフマネジメントへの支援が不可欠なことから、対象者の身体的・精神的・社会的変化を考慮しながら対象への看護アプローチの方法についての思考プロセスを修得する。看護における臨床推論や症状マネジメントの考え方について演習を通して学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （4 神島滋子/6回）（共同） 回復期・慢性期とは、症状マネジメントの考え方、回復期・慢性期にある対象と家族への看護、健康管理の必要な対象へのアプローチ、脳・神経障害をもつ対象の看護(パーキンソン病)、嚥下機能障害のある対象の理解と看護について （13 川本起久子/2回）（共同） 対象と家族の倫理的側面と自己決定、循環機能障害のある対象の理解と看護（心不全）について （20 島村美香/1回）（共同） 造血機能障害のある対象の理解と看護（悪性リンパ腫）について （4 神島滋子・14 梅木彰子・13 川本起久子・20 島村美香・25 別城佐和子/6回）（共同） 脳・神経障害と随伴症状、循環機能障害と随伴症状、造血機能障害と随伴症状、嚥下障害の評価、嚥下障害の人の食事体験について	オムニバス方式、共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	成人看護学 （続き）	成人看護学概論、成人看護学慢性期援助論の学修と関連させながら、慢性の経過をたどる健康障害の慢性期(回復期を含む)の健康障害や機能障害を有する対象及びその家族の特徴をふまえ、健康障害を持つ対象や家族に対する看護援助のスキルを学ぶ。ここでは呼吸機能障害、代謝機能障害、運動機能障害の事例から、健康障害を持つ人とその家族の援助に必要な援助技術について、看護の思考過程にそってシミュレーションを用いながら臨地に即した状況で具体的に学修する。 （オムニバス方式/全15回） （4 神島滋子/2回） 運動機能障害(脳梗塞)のある人への看護、高次脳機能障害のある人への看護 （13 川本起久子/1回） 慢性期にある対象と家族への看護（呼吸機能障害） （13 川本起久子・4 神島滋子・14 梅木彰子・20 島村美香・25 別城佐和子/4回）（共同） 呼吸機能障害のある人への援助、運動機能障害(脳梗塞)のある人への看護、グループ学修の成果報告、 （4 神島滋子・14 梅木彰子・20 島村美香・25 別城佐和子/1回）（共同） 感覚機能障がいのある人への看護 （13 川本起久子・25 別城佐和子/2回）（共同） 栄養代謝障害のある人への援助、透析療法を受ける人への看護 （13 川本起久子・4 神島滋子・14 梅木彰子・20 島村美香・25 別城佐和子・9 増山純二・ ☐ 4 苑田裕樹/5回）（共同） 栄養代謝障害のある人への生活援助を考える。	オムニバス方式、共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	成人看護学 （続き）	成人看護学急性期援助論 急性期看護の概念および特徴を理解し、周手術期および急性状況にある患者と家族の看護について機能障害別に学ぶ。成人期にある人とその家族の発達段階、身体的、心理的、社会的な特徴を総合的に理解し、周手術期の対象の術前・中・後・回復期を通して、身体侵襲の予測、苦痛緩和、社会生活への適応に向けた看護実践のための基礎的知識を修得する。また、急性状況にある患者への看護援助を行うための基本的な問題解決過程と技術を学修する。 （オムニバス方式/全15回） （14 梅木彰子/8回） 急性期にある対象の看護、周手術期看護、消化吸収機能障害患者の看護、救急医療における看護 （13 川本起久子/1回） 呼吸機能障害患者の看護 （4 神島滋子/2回） 循環機能障害患者の看護、脳神経障害患者の看護 （20 島村美香/2回） 排泄機能障害患者の看護、運動機能障害患者の看護 （14 梅木彰子・4 神島滋子・13 川本起久子・20 島村美香・25 別城佐和子/2回）（共同） 呼吸機能障害患者の看護、循環機能障害患者の看護	オムニバス方式、共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	成人看護学 （続き）	成人看護学急性期演習 周手術期の看護を中心に、手術侵襲からの回復を促す援助に対する看護について学修する。成人急性期援助論で修得した知識を活用して、事例を用いて看護過程展開を行い、対象の健康回復に必要な知識および状況に応じた援助方法及び家族に対する看護について学修する。また、急性の状況にある対象者へ看護援助を行うための基本的技術を修得する。看護の思考過程にそってシミュレーションを用いながら臨地に即した状況で具体的に学修する。 （オムニバス方式/全15回） （14 梅木彰子・20 島村美香・25 別城佐和子/7回） （共同） 周手術期患者の看護、手術期にある患者の看護過程、看護計画の実施・評価、大腸切除術を受ける患者の看護、救急医療とクリティカルケア （14 梅木彰子/4回） 看護計画の実施・評価、大腸切除術を受ける患者の看護、乳房切除術を受ける患者の看護 （14 梅木彰子・20 島村美香/1回）（共同） 周手術期にある患者の看護過程（胃がん） （4 神島滋子・13 川本起久子・14 梅木彰子・20 島村美香・25 別城佐和子/2回）（共同） 関連図・看護問題の明確化、看護計画立案 （4 神島滋子・13 川本起久子・14 梅木彰子・20 島村美香・25 別城佐和子・9 増山純二・4 苑田裕樹/1回）（共同） 胃切除術を受ける患者の看護	オムニバス方式、共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部 看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 (続き)	成人看護学 (続き)	終末期看護論	我が国はこれまでにない多死社会を迎えている。医療機関や施設あるいは居宅においてさまざまな状況にある人々がどのような最期を迎えるか、誰がどのように終末期にある対象に対して自分らしく生きることを支援していくかは大きな課題である。成人看護学概論での学修と関連させながら、終末期にある対象や家族の看護について看護職者は対象の意思決定にどのように関わり、支援したらよいのかエンドオブライフにおける生命倫理やケアに活かす理論など、根拠に基づく看護実践に取り組めるように学修する。	
		成人看護学慢性期実習	成人期における慢性期の健康レベルにある対象とその家族との関係性を成立させ、多面的・科学的視点でアセスメントし、全人的に捉え、対象の健康レベルに応じた援助を実践するために科学的根拠に基づき看護過程を展開する能力を養う。明らかになった健康課題については実践を通して、既修の知識・技術・態度を統合して、健康課題の回復過程を予測しながら健康障害を抱えながら生きる生活者のセルフケアマネジメント能力や、生活の再構築を支援できる看護実践能力を養う。	共同
		成人看護学急性期実習	急性期の健康レベルにある対象とその家族について多面的・科学的視点でアセスメントし、対象の健康レベルに応じた援助を実践するための看護過程を展開する能力を養う。実践を通して、既修の知識・技術・態度を統合して、心身の危機的状況から退院後を予測した支援ができる看護実践能力を養う。さらに地域の救急隊の出動に同乗し、救急処置を必要としている対象者とその家族に実施されているプレホスピタルケアにおける看護師の役割について理解できる。さらにクリティカルケアにおける専門職連携、協働について看護師の役割を明確にする。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部 看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 (続き)	成人看護学 (続き)	成人看護学終末期実習	終末期の健康レベルにある患者とその家族は、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛を経験している。そのため4つの側面からアセスメントを行い、終末期特有な苦痛への症状マネジメントの重要性と実際の方法についても学ぶ。さらに日々のカンファレンスに参加することでそれぞれの家族への看護や、自分らしく生きることを支援するためのチームアプローチの方法を学ぶ。緩和ケアチームに同行することで緩和ケアをめぐる倫理的課題についても理解し、Quality of Life の向上のための看護の実際について学ぶ。さらに終末期看護に関わる専門職連携、協働における看護師の役割を明確にする。	共同
		がん看護学	国民全体の2人に1人が、がん疾患で死亡することから現代の国民病とも言われ、社会におけるがん看護のニーズとその重要性が高まっている。病理学・放射線医学などの既修の内容と関連させながら、がんの疫学、予防、診断・治療の基礎的知識と緩和ケアの最新の動向を理解する。診断・治療の段階における倫理的課題を知り、がんの進行による経過の特徴を全人的苦痛（身体的・精神的・社会的・スピリチュアル）の視点で理解し、対象の自己決定権を尊重しその人らしく生活するための支援について学修する。	
	老年看護学	老年看護学概論	高齢者観・倫理観を深化させるとともに、加齢に関連する諸概念と理論を学ぶことで、高齢者を身体的・心理的・社会的側面から統合的に理解し、高齢者の健康レベルに合わせた質の高い看護を提供するための基礎知識を修得する。また、老年看護学の対象者の成長と発達の過程、人口統計および社会構造の変化、災害時のニーズ、高齢者への保健・医療・福祉サービスの現状と課題を捉え、老年看護実践における専門的な看護者の役割と機能を学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	老年看護学 （続き）	老年看護学援助論 加齢に伴う身体、心理、社会的変化の理解を基盤として、高齢者に対するヘルスアセスメントのポイントについて理解する。高齢者の生活を支える諸制度および社会資源、ヘルスプロモーションについて理解し、健康生活を支援する基礎的知識を修得する。また、認知症などについて理解を深め高齢者と介護家族に対する看護方法について基礎的能力を修得するとともに、高齢者看護における社会資源、チーム活動の重要性について理解する。さらに、高齢者への意思決定支援とエンドオブライフケアについて理解する。 （オムニバス方式/全15回） （5 勝野とわ子/4回） 高齢者看護の目標と高齢者を取り巻く社会、高齢者の特徴と加齢による変化、高齢者の認知機能障害に関する看護ケアについて （5 勝野とわ子・21 岩倉真由美・26 喜多麻衣子・13 川本起久子/11回）（共同） 高齢者を支える制度と資源、高齢者のヘルスプロモーションとその実際、高齢者に特徴的な症状と疾患とそれらを支える看護、薬物療法、手術療法、診察・検査、終末期の看護、家族へのケア、高齢者看護の場とチームアプローチについて	オムニバス方式、共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	老年看護学 （続き）	老年看護学演習	高齢者体験を通して加齢による変化と行動の関係を具体的に学んだ上で、多様で複雑な健康問題を持ちながら生活する高齢者や、療養生活を送る高齢者に対するヘルスアセスメント技術、高齢者の残存機能を活かした食事・排泄・清潔・活動と休息・移動などの生活援助技術、安全に療養できる環境を整える技術等、高齢者の個別性を尊重した効果的な看護を提供するための知識と技術を修得する。また、事例を用いて高齢者とその人を支える家族や支援者を対象とした適切な看護過程を展開する能力を修得する。 （オムニバス方式/全15回） （5 勝野とわ子/2回） 加齢に伴う健康問題、高齢者のヘルスアセスメントについて （21 岩倉真由美/5回） 食生活を支える看護技術、排泄を支える看護技術、清潔・衣生活を支える看護技術、活動と休息を支える看護技術、入院・退院を支援する看護技術について （5 勝野とわ子・21 岩倉真由美・26 喜多麻衣子/8回）（共同） 高齢者体験、高齢者のヘルスアセスメント、摂食嚥下障害を支える看護技術、歩行・移動を支える看護技術高齢者を対象とした看護過程の展開について	オムニバス方式、共同（一部）
		認知症看護論	認知症者および介護家族へのケアおよび保健医療福祉サービスについての今日的課題について理解を深め、より良い認知症ケアおよび認知症者を支える共生社会構築への姿勢を修得する。今日的課題として高齢社会のなか2025年には認知症患者が700万人を超えるとされ、それを支える医療や地域、施策などの知識が必要になる。認知症の理解、偏見、人権尊重、個別性を尊重したケア、介護家族へのケアの在り方などについて理解を深め解決策を探究する基礎能力を修得する。さらに、認知症者を取り巻く多職種連携、地域包括ケアシステムと共生社会についても学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部 看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 (続き)	老年看護学 (続き)	老年看護学実習	老年看護学概論、老年看護学援助論、老年看護学演習、認知症看護論での学びを活用し、高齢者施設を利用し在宅で生活する高齢者と家族の生活の質の維持・向上を目指した看護実践を学修する。この実習では、個々の高齢者の生きてきた道のりや価値観を踏まえながら、その人を取り巻く環境・条件のもとでの最適な健康を獲得・維持・増進し、QOL が保たれるための援助の在り方を考え、実行できる能力を養う。また、加齢に伴い諸機能の低下をきたした高齢者を豊かな人間性や経験に基づく貴重な知識をもっている存在として認識し、尊重する態度でかわるための基本的姿勢と感性を養う。さらに高齢者患者を取り巻く専門職との連携、協働における看護師の役割を明確にする。	共同
		認知症老年看護学実習	我が国は、長寿社会となり益々認知症も増加している。この実習では、認知症の個々の高齢者の生きてきた道のりや価値観を踏まえながら、その人を取り巻く環境・条件のもとでの健康を獲得・維持・増進し、QOL が保たれるための援助の在り方を探究し、実践力を養う。実習先で行われている看護活動に参加し、倫理観を持ち認知症の高齢者とのコミュニケーションや観察を通して対象者の気持ちや生活実態を知る。また、チーム連携の重要性を認識し、看護職の役割・機能について理解を深めることができる。また、チーム連携の重要性を認識し、認知症患者を取り巻く専門職との連携、協働における看護師の役割を明確にする。	共同
	小児看護学	小児看護学概論	家族看護論の学修と関連させながら小児と家族について、社会状況、施策、小児関連統計、子どもの権利に関する条約等から理解する。また、小児の成長発達の特徴、および発達段階に応じた生活と援助の概要、小児看護の対象特性、実践の場における倫理的側面をふまえたケアや課題について学修する。現代社会における子どもの健康問題と健康管理の実態を理解する。さらに地域母子保健活動と他機関との連携・協働のあり方を学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	小児看護学 （続き）	小児看護学援助論	小児看護学概論の学修を関連させながら、小児の看護において必要な発達の状況に応じた技術・ケアについて学ぶ。小児の健康状態を把握する上で不可欠なヘルスアセスメントを学び、さらに発達の状況に応じた小児の生活を支える技術や、治療処置に伴う技術について学ぶ。小児の健康や健康障害を支援するときに家族の存在は重要である。小児と家族が健康を保持し、よりよい成長を支えられるように学修する。小児看護技術に関しては、演習を通して実践に即した方法で学修する。 （オムニバス方式/全15回） （2 宮里邦子/4回） 小児のヘルスアセスメント、小児の生活を支える技術、遊びの援助 （2 宮里邦子・22 松本宗賢/11回） 小児のヘルスアセスメント、小児の生活を支える技術、治療時に必要な看護技術、健康教育について	オムニバス方式、共同（一部）
		小児看護学演習	小児看護学概論、小児看護学援助論と関連させながら、健康を障害された小児の健康問題・障害の段階と入院に対する影響因子、快適な入院生活に向けた看護、家庭療養中の看護や学修支援について学ぶ。急性期にある小児と家族、回復期にある小児と家族、終末期にある小児と家族など、健康のレベルに応じた事例を検討しながら、成長発達を続ける子どもの生活や学修支援、健康障害や入院によって影響される家族への支援について生活の質の保持・向上ができるように学修する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	小児看護学 （続き）	小児看護学実習	小児各期の成長発達を理解し、さまざまな健康レベルにある小児とその家族が置かれている状況を的確に判断し、小児の権利を守りながら、成長・発達に応じた看護を実践できる能力を養う。健康障害を抱える小児と家族が抱える全人的苦痛の理解を深め、既修の知識を基盤としアセスメント、コミュニケーション、日常生活の援助、検査・介助等を安全かつ容易に実施できる基礎的能力を身につける。また、健康な幼児の成長発達過程と成長発達を促す関りについて理解し、小児看護の基礎的能力を養う。さらに小児看護における専門職との連携、協働における看護師の役割を明確にする。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	母性看護学	母性看護学概論	リプロダクティブ・ヘルス／ライツおよびウィメンズヘルスの基本的かつ主要な概念を理解し、女性の身体的、心理社会的、文化的側面に着目して女性の生涯にわたる健康支援について学ぶ。また性と生殖のメカニズムとその意義および女性の各ライフステージ（思春期・成熟期・更年期・老年期）における健康の特徴について学び、健康支援に関する看護方法について考察する。現代社会における女性の多様なライフスタイルや家族のあり方から派生する健康課題に関する模擬事例を用いて演習を行い、健康課題を持つ女性とその家族への看護支援について多角的な視点で議論する。 （オムニバス方式/全15回） （6 竹元仁美/5回） 女性の生涯にわたる健康における主要概念、母性看護学における健康教育、女性とその家族のQOLを高めるウェルネス型看護診断とケア、リフレクションと学修総括について （6 竹元仁美・15 寺岡祥子/10回）（共同） 母性保健統計、女性の健康に関する社会保障制度、母子の健康に関する法律・施策、女性のライフサイクルにおける女性の健康と看護、セクシュアリティの多様性性行動、思春期・成熟期・更年期・老年期の女性の健康と性、家族の健康課題と看護、出生前診断、産む・産まないの選択と意思決定について	オムニバス方式、共同（一部）
		母性看護学援助論	家族看護論、母性看護学概論の学修を踏まえ、マタニティサイクル（妊娠・分娩・産褥期）の女性および胎児・新生児の健康や成長・発達を促すために必要な看護とその方法を理解する。さらに、ハイリスク妊娠、異常妊娠・産褥などの状態にある対症のニーズを理解するとともにその対象の看護及び家族に対する看護について学修する。女性とその家族の発達過程・健康レベルに基づき、セルフケア能力および健康の質（QOL）を高めるウェルネス型ケアの探究について考察する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	母性看護学 （続き）	母性看護学演習	母性看護学概論、母性看護学援助論の学修内容を踏まえ、妊娠・分娩・産褥期にある女性及び新生児の特性を理解し、母体及び胎児・新生児の健康を強化するための身体的心理社会的アセスメントおよび看護援助技術を学ぶ。学修は PBL（Problem Based Learning）および CBL（Case Based Learning）の方法論を基盤とし、シミュレーション教材を活用した技術演習（Task Training）を加えた看護過程の展開によって、妊婦・産婦・褥婦、胎児・新生児の身体的心理社会的アセスメント能力および科学的根拠に基づいた看護支援実践能力を修得する。	共同
		母性看護学実習	生命・人権の尊重・擁護を基本理念とし、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象者とその家族について、個別性を踏まえた健康障害の予防、周囲のサポートシステムの状況もアセスメントし、より健康な状態を目指した支援（家族も含めた）について、科学的根拠に基づいた看護過程の展開を通して学ぶ。対象者のもてる力を引き出せるように促し、母子とその家族が新たな家族関係を構築し、母子の生活を整える具体的な援助技術を修得する。さらに母性看護における専門職連携、協働における看護師の役割を明確にする。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	精神看護学	精神の健康（メンタルヘルス）の概念や心の発達と社会生活における危機的状況について学修し、精神的健康の保持増進と精神障害を持つ人々の歴史や社会的環境について理解する。また、こころの動き（心理学的側面）、心と身体との関連性（生物学的側面）、人々とのつながりの有り様（社会学的側面）を基盤とした精神看護の基本的な機能とケアの原則について理解することで、対象の健康の保持・増進に寄与できるように学修する。 （オムニバス方式/全15回） （7 白石裕子/9回） 精神（こころ）の健康、危機的状況と看護の関わり、精神看護のケアの基本、患者－看護師関係の発展、精神保健医療福祉の歴史と看護、精神看護の安全と倫理、看護師のメンタルヘルス、精神障害者の体験を理解について （ ③ 齋藤嘉宏/6回） 精神看護のケアの基本、精神保健医療福祉の歴史と看護、地域精神保健活動、精神看護の安全と倫理、精神障害者の体験の理解について	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	精神看護学援助論	精神の健康と障害を、Bio-Psycho-Social な側面から学修することにより、精神的健康の保持増進について理解する。また主な精神の障害を取り上げ（統合失調症、気分障害、アルコール依存症、パーソナリティ障害）症状に対する看護技術を学ぶ。小児の精神障害では知的障害の症状や治療と看護、家族への関わりを考える。更に我が国における精神障害者の置かれている状況を学び、障害を持つ対象の社会復帰についても、施設内リハビリテーションやコミュニティにおけるリハビリテーションについても論じる。 （オムニバス方式/全15回） （7 白石裕子/5回） 精神障害者の理解と現状、精神疾患と看護の物質関連障害、精神疾患と看護のその他の障害、精神関係法規、精神看護における患者の看護師関係について （ ③ 齋藤嘉宏/5回） 精神疾患と看護の統合失調症、精神疾患と看護の小児の精神障害、精神科における薬物療法、精神科リハビリテーション、精神科におけるリスクマネジメント、暴力への対応、隔離と拘束について （23 中本亮/4回） 精神疾患と看護の気分障害、精神疾患と看護のパーソナリティ障害・摂食障害、精神科リハビリテーション、家族への対応と心理教育 （7 白石裕子・ ③ 齋藤嘉宏・23 中本亮/1回）（共同） 精神病の体験について	オムニバス方式、共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門 分野 （続き）	精神看護学演習	精神看護学概論、精神看護学援助論の学修と関連させながら、治療の場における看護を具体的に学ぶ。発達理論に基づいた対象理解や薬物療法時観察や留意点、治療的コミュニケーションの基本を通して受容や傾聴などの基本技術を学ぶ。近年は一般診療科で治療を受ける例も増加しており、あらゆる領域で精神看護の知識や技術が求められるようになっている。精神症状や健康が日常生活に及ぼす影響と治療との関連性に着目しながらセルフケアを高めるための看護実践を学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （7 白石裕子/5回） 対象理解、発達理論から見た対象理解、精神科看護の具体的スキル、プロセスレコードの意義と活用について （□3 齋藤嘉宏/6回） 生物学的視点からみた対象理解、治療的コミュニケーションの基本、精神科看護の具体的スキル、精神疾患をもつ対象者の看護過程について （23 中本亮/4回） 治療的コミュニケーションの基本、精神疾患をもつ対象者の看護過程、精神疾患をもつ対象者の看護過程、地域で生活する対象者への看護について。	オムニバス方式
	精神看護学実習	精神に疾患や障害を持つ人々とのかかわりを通して、対象の精神症状に関連した Bio-Psycho-Social Model から包括的理解を深め、セルフケア理論に基づいたアセスメント及び対象者のセルフマネジメント能力を高める認知行動療法的介入を行なう。更に、治療的コミュニケーション技法を用いた援助的人間関係の発展をめざすために、自己を治療の道具として最大限に用いてストレングスの視点を持ち、精神看護を実践する能力を身につけることを主たる目的とする。さらに精神看護における専門職連携、協働について看護師の役割を明確にする。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
看護 の 統 合 と 実 践	看護臨床推論	看護師は、健康課題を持つ対象者を全人的にとらえなければならない。その中でも、急性発症した対象者に対して全人的ケアを提供するためには、フィジカルアセスメントの能力を修得する必要がある。そのためには、臨床推論の概念が重要である。急性症状を呈する対象者への臨床推論、フィジカルアセスメント、そして、緊急度の判断について学修する。臨床推論の能力を高めていくことは、健康課題を持つ対象者とその家族の健康の保持と健康の質に関わる重要な力となるように学ぶ。	共同
	リスクマネジメント論	看護者は最も患者に近いところでいて治療に伴う処置や看護を実施するが、治療・処置の最終の実施者であることが多く、医療事故の当事者になる可能性が高い。安全への配慮を欠くと、患者の健康を損なうだけでなく自分自身の看護職としても責務を問われることになる。看護職者は医療専門職として安全で質の高い医療を提供する責務を負っている。そのためにも医療安全に関する最近の動向を知り、医療安全に対する取り組みやその対策について知識を身につけ、安全に看護が実践できるように学修する。	
	看護管理学	近代管理学と看護管理学の発展過程から、看護管理学の基礎、看護提供システムと倫理を学ぶ。その上で、看護管理に求められる能力（知識、技術、態度）について、患者中心のケア、チームワーク、EBP、看護の質の向上、医療安全、情報学を具体的に学修する。看護の政策と経済では、看護ケアを診療報酬制度につなげる例を通して実践的に学び、安全で質の高い看護ケアの提供について述べるができる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部 看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 (続き)	看護の統合と実践 (続き)	看護職のキャリア出発 とキャリアデザイン	看護専門職としての大学および生涯教育への導入を図るとともに、大学人として求められる自律性と社会人基礎能力育成の基盤とする。医療はとどまることなく変化している。その変化する社会に求められる看護について考え、自立的に自分の未来について看護職者としてあるべきイメージを描き、そのためには何をすべきかを思考し、学修ビジョンを明確にし、生涯にわたって看護に携わる者として人格の涵養に努め、学び続ける意欲を維持し自己実現できる礎となるように学修する。	共同
		看護職のキャリア発達 とプロフェッショナルリズム	看護実践の発展やグローバル・ダイバーシティ（多様性）等、時代の要請に応える看護職のキャリア発達についてその特徴を学び、自らのキャリアを発達させるために必要な基本的コンピテンシーを身につける基盤づくりを行う。わが国の働きかた改革、セルフキャリアドック、国連のリカレント教育などの制度や、看護の多様な展開について国内外の事例から具体的に学修する。看護職のキャリア発達に必要な知識・技術・態度を修得し、看護プロフェッショナルの思考と行動について論述する。	
		国際看護学	グローバル化が進んだ現代の世界においては、地球上のあらゆる人々の健康問題が我々にも直接影響してくる。世界でどのような健康問題が起こっていて、人々は何に苦しんでいるのか知り、それに対して看護職である私たちに何ができるのか考えることは大切である。一方、国内では日本国外から来日する外国人や定住者など、外国につながりのある人たちへの看護ケアには文化多様性に配慮した看護ケアが求められる。本科目では国際看護の概念、看護における文化、世界の健康問題、国際協力の仕組みや国際人権法など法的側面や、国際協力における看護活動、国内における外国人への看護活動など具体的に学び、国際社会の中で看護の力を発揮する基礎力（多文化対応能力）を学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学部 看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	看護の統合と実践 （続き）	災害看護	
		本科目では災害が人々の生活や健康に及ぼす影響を理解するとともに、個人・家族・地域社会の生活の視点をベースにした災害支援活動を行うための看護の基礎知識を学び、災害急性期に必要な技術（トリアージ、患者搬送、止血、包帯法）について修得する。さらに、災害への専門職としての心身両面の備えと発災時の対応、災害による被害を最小限にとどめるため、災害各サイクルに看護職が果たすべき役割と機能について学ぶ。	
	災害看護初期対応	発生直後の被災地における被災者の健康障害に対し、医療支援が不足する中での救護所、避難所、病院内での看護師の役割や全人的ケア及び医療体制の構築について学修する。混乱の中で秩序を保ち、被災者が不安の中にも安心や信頼を持てるように働きかけることは必須となる。災害発生後の病院内の医療体制について机上シミュレーションを実施し、また、院内災害実動訓練に参加しながら、災害急性期医療のイメージを図り、災害看護の基本的知識、技術を修得する。	共同
	高度先進医療看護学	急性発症した対象者の健康障害を迅速に、そして、確実にアセスメントする方法について考える。患者の健康障害から回復させるための救急看護実践として、傷病者の命を救い社会復帰に導くために、心停止の予防が位置づけられていることから、救命処置、応急処置、必用物品の準備について修得する。また、チーム医療は不可欠であるため、医師へ簡潔に報告するなど 1 年次から学修した専門職連携を活用しながら、救急領域における専門職連携について学修する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学部 看護学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
専門分野 （続き）	看護の統合と実践 （続き）	統合演習	学内演習、実習で実践した内容を振り返る目的として、高規格シミュレーターを用い、健康課題を持つ対象者に対し全人的ケア、ヒューマンケア（倫理的な価値）を基盤に、特定の健康課題に対して、科学的根拠（EBN）に基づいた看護実践と生活を支えるケアを実践する。また、多くの専門職と連携・協働するための協調性を有し、組織・チームの一員の役割について再考する。そのうえで、健康を科学する看護の本質について課題を見出し主体的に探究する。	
	統合実習	これまでに学んできた知識と技術を統合して、看護の対象がもつ健康課題を総合的に捉え、看護管理者と共に行動し、リーダーとしての役割、看護チームメンバー間や他職種とのコミュニケーションを図る。複数患者の受け持ち等を通して、ケアの調整やタイムマネジメントなど高度な臨床判断を持ち、看護を実践する能力の基礎を培う。医療機関をシステムとしてとらえ、その中の看護サービスの組織と運営についての理解を深める。さらに、夜間の患者の過ごし方を観察し、必要なケアを考えられる力を培う。看護職が果たす役割と責任感、倫理観、自己の看護観を深め、社会の要請に応答できる能力の基礎を培うことを目標としている。IPWに向けて専門職連携、協働を通して、看護師の専門性を明確にする。	共同	
	卒業研究	1年次に学んだ看護研究の意義、目的、方法、倫理的配慮などを基礎として、3年間の看護学の学修を広い視野で統合し問題意識を明確にする。国内外の文献を読み、その科学的根拠を探究する過程を通して研究目的、研究方法、研究上の倫理について理解を深める。論文作成に当たっては関心のあるテーマに関する文献のクリティークを行い、研究デザインや理論・概念枠組み・データ収集・測定用具・分析方法・分析結果を解釈し作成する。論文を作成する過程を通して看護を科学的に探究し自己研鑽できるように学ぶ。	共同	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野	人間と教育	フレッシュャーズセミナー 新入生全員を対象とした初年次教育講座と位置づけ、高等学校時代とは異なる大学生として、大学とは如何なるところで何をどのように学ぶのか目的を明確にして、様々な学修課題を解決するためにSNSや図書館での検索方法を学ぶ。医療に携わる職種を選択した学生同士として討議を通して仲間づくりを行い切磋琢磨する意識やチームワーク力や表現力を学び、個々のキャリアについても思考し、4年間の大学生活を有意義に実りあるものとして過ごせるような基盤づくりを行う。	共同
	教育学	教育は歴史・社会・文化のすべての全体的な関連の中で営まれる。そこで、教育の目的と内容を理解し、近代の学校の成立と西欧や日本の歴史的変遷を概観し、「人間のための教育」という視点から、そこに見られる主な問題、とりわけ現代的課題である貧困や福祉の現状、医療と教育について検討していく。さまざまな具体的な教育思想や実践事例などを紹介しながら医療教育についても現状や課題などを考える。本科目では教育学の基本的な概念や知識、現代の教育における問題について学修する。	
	人間と心	心理学 本科目では基礎心理学と応用（臨床）心理学の知識を学び、心理学を日常生活に応用できるようになることを目的とする。人間の生活基盤としての「個人・集団」の関係形成、心理および行動について理解する。人間は人との関係の中で生活しているが、人間の「心」の在りようは複雑で、その在りようが身体にも他者との関係にも影響する。心理学の伝統的方法と行動的方法をもとに人間理解の具体的方法を学ぶ。心理学は人のこころの動きや、そこから生じる行動について探究する学問である。心理学を日常生活に活用できるように学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 理学療法学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と心 （続き）	発達心理学	既修の「心理学」と関連させながら、心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフサイクルを視野にいれながら、ここでは胎児期から乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に時間の経過とともに質的及び量的に変化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問体系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、医療の対象である人間の誕生から老年期に至る生涯発達の過程において、各期の発達と課題を学ぶことで、医療に還元できる知識や探索の仕方を学修する。	
		ジェンダー論	多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上でジェンダーは重要な視点の一つである。医療、健康、保健に関わる人材は、人間の生と性に関するジェンダーへの深い理解が求められる。ここでは文化・社会的な在りようとしてのジェンダーがどのように構築されてきたか、具体的な歴史やトピックをとりあげながら、ジェンダーに関わる諸相を理解する。自己のジェンダーに気づき理解を深め、人権問題、社会問題にも広く対処できるような素養を身に着けることを目的とする。	
	人間と社会	法学	日本国憲法は「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」の3つの柱から成り立っている。日本国憲法の基本的な考え方を知り、憲法が国家や社会の基礎をなしていることを理解する。「基本的人権」は侵すことのできない永久の権利であるが、基本的人権が法の下にどのように保障されているか学び、現在起こっている身近なもの結び付けて考えてみる。また「患者の権利」について具体的に検討し、臨地（床）の場で生じる様々な問題についても学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と社会 （続き）	経営学	本科目では、企業や経営についての基本的知識を学修すると共に、現代社会におけるその役割と意味について考え、社会における経営の問題に興味・関心を抱き、専門学修へと展開していけるような力を育成することを目的とする。経営について学修することで、経営的なものの見方・考え方を身につける。社会状況に応じた戦略的な考え方を学び、組織の基本形態とその特徴を学ぶことで、組織を機能させる思考や、資源をいかに活用するかなど、将来的に施設運営に参画できるような基礎的能力を養う。
		社会学	人間は社会的存在であり、社会の在りように個人は影響を受ける。少子高齢社会、人口減少社会、情報化社会、無縁社会、多死社会など我々が暮らしている地域社会に関する諸問題に対して検討することで、自分がいまどのような位置にいるか見えてくる、それは自分がどう生きるかにつながる。我々が生活する社会を再度見直し考える事によって、我々が生きる現代社会の諸問題についての幅広い知識を身につけ、今後の社会について自らの視点をもって考え、物事にあたることができるよう学修する。
		倫理学	現代は科学技術と医療技術の進歩が人間の生存に関してさまざまな倫理的問題を提起している。これから人々の健康に関わる学生にとって、人間の存在そのものや、生きる意味など、状況によっては多くのジレンマにも遭遇することが考えられる。その状況をどのように捉え、考え、対応していけばいいのか、困難な問題に突き当たったときのためにも倫理学の理論、学説、方法論の基本を学び、論理的な思考能力を身につけ、医療関係者として倫理的視点を養うように学修する。

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 理学療法学科）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と社会 （続き）	人間関係論	人間は幼少期から成長する過程で様々な人間関係を経験する。その経験は個々の心と体の「健康」に大きな影響を与える。現代社会は常に変化しており、そこで生じる多様な人間関係も複雑化している。人間関係論はホーソンの実験により、経営組織の諸状況が人間関係によって規定され、その因果関係を体系化した理論で人間関係の重要性を示したものである。医療に携わる学修者として人間関係づくりの基礎的知識を理解し、対象者となる人間理解と自己理解を深め、人々の健康課題に寄与できるように学修する。	
		コミュニケーション論	コミュニケーションは私たちの生活のあらゆる場面に存在し、人間社会を成立させる重要な手段であり、人間の「考え・感情」を表現し、理解しあうことにつながる。健康課題を持つ対象に対応する医療関係者にとってこの能力は重要となる。本科目では多様なコミュニケーションにおいて、双方向の情報を正しく読み取り、適切に伝え、よりよいコミュニケーションをはかる手立てを探る力をつけることを目的に、医療に関する職業に携わる学修者として実践に活かせるように学修する。	
	人間と文化	国際関係論	グローバル化が急速に進行している現在、世界各地で発生している問題は1国のみの問題ではなく、複数の国々や組織などの関係の上で成り立っている。他国や他地域で起きた様々な問題は、自分の身近なところに直結し生活に影響している。こうした状況を踏まえて、本科目では、国際関係論の理論的背景、歴史的経緯を理解し、紛争問題や貧困と格差など具体的な国際問題を検討することを通して、世界で起きている問題や日本の果たす役割について学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と文化 （続き）	文化人類学	「国際化」や「グローバル化」が進む中、自文化と異文化の理解は私たちにとって必須なものとなっている。世界各国との交流が活発な現在、医療に関わる人材には、文化による考え方や価値、生活習慣の違いなど理解し対応する必要がある、特にその能力が必要とされている。文化人類学はそのための有力なツールである。本科目では、「文化とは何か」「人間とは何か」を、多様で具体的事象や理論を紹介しながら考えていく。それにより文化理解に必要な総合的な知識を学修し、今日の世界を洞察する力を身につける。
		アジアの文学	アジアは非常に広大な地域であり、地域が辿ってきた歴史によって根付く文学の特徴にも違いがある。ここではアジア文学の中でも、東アジア（日本・中国・韓国）における古典文学と近代文学について学ぶ。作品を通して時代背景とともに人間の生きざまや考え方、思想がその文学にどのように影響しているか、それぞれの文学の特徴や関連について学修することを通して、時代背景や各地の文化が人間の生活や考え方、生き方に及ぼす影響について深く理解する。

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部 理学療法学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 (続き)	人間と文化 (続き)	福岡の歴史と文化	福岡市の歴史、特に博多の成り立ちを学ぶ。福岡市は九州の玄関口として、またアジアに開かれた都市として、近年とみにグローバル化している。保健医療に携わる者としてこれから大学生活をおくる福岡の歴史、生活する人々の暮らしや地域で行われている習慣を知ることが、地域の環境や文化の理解、地域で生活する人の理解につながるとともに、地域に対する誇りを確認することにもなり大切な要素となる。自らも福岡の魅力を発信できるように多方面から学修する。 (オムニバス方式/全8回) (6 松原孝俊/1回) 博多港にたどり着いた外地からの引きあげ者 139万人 (64 宮井善郎/7回) 福岡藩を取り巻く諸問題、人権啓発・同和問題、在日外国人・外国人労働者、多文化共生に向けた街づくり、古代日本の玄関口筑紫館と鴻臚館、発掘調査からみた中世博多チャイナタウン、福岡の近代遺産	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部 理学療法学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 (続き)	人間と科学	健康科学入門	日本は世界に先駆けて高齢社会となり、国民が健康でよりよく生きるかということは大きな命題でもある。「健康」とは何か、人々のより良い健康を支援する職業に携わるものとして、看護、理学療法、作業療法、各々の視点から健康を深く理解し、人間の「健康」を支える「科学」とは何かを思考する。健康科学を支える学問は多岐にわたっており、人々の健康の実現を目指していく実践的な科学である。ここでは各学科の専門基礎分野・専門分野への導入として、その礎となる「健康科学」について学修する。 (オムニバス方式/全8回) (1 西村泰治/2回) 健康とは何か、医学領域からみた健康、科学とは何か 仮説の立案とその検証 (25 野地有子/2回) 看護領域からみた健康、健康を科学する最新の研究から (8 溝田勝彦/2回) 理学領域からみた健康、健康を科学する最新の研究から (33 近藤敏/2回) 作業領域からみた健康、健康を科学する最新の研究から	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部 理学療法学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 (続き)	人間と科学 (続き)	医療と情報リテラシー	激しく変化している社会の中で生きていくためには生涯学修が必須となり、各自がそれぞれの方法を身につけるためには情報リテラシー能力の獲得が必要である。本科目ではインターネットの概要について学び、その上で動くアプリケーションの仕組みや基礎技術を理解し、適切に使いこなせるように学ぶ。医療の現場は ICT（Information and Communication Technology）の発達によって大きく変化している。しかしその一方では様々な問題や課題がある。ICT を用いた新しい医療としては遠隔での診療が可能になったり、情報の共有ができたり、災害時に活用できたりなど現在の状況や、これから充実していく 5 G（高速、大量の通信が可能）での医療の活用について学ぶ。さらに医療倫理的側面から、医療に関わる人々が知っておくべき課題について学修する。	
		論理的思考法	今日、どのような職業においても「根拠（エビデンス）にもとづいた思考と行動」が求められている。医療の領域も例外ではない。そこでは「エビデンスにもとづく治療（医療）」という言葉をよく耳にするようになった。しかし、根拠にもとづいて結論を導き出すとはいかなることなのか。ある結論をエビデンスによってサポートするとはどのようなことなのか。こうした根本的な問いを考えるのが、この講義の目的である。この講義では、「論証」の構造およびその評価の仕方を、演繹と帰納の観点から体系的に検討することによって、これらの問いにアプローチする。論理的思考を修得することは、大学におけるアカデミックスキルを身につける際にも基本となるだろう。	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と科学 （続き）	統計学	本科目は基礎的な話を中心となる。統計学は、1つ1つの基礎を積み上げながら自分の中でイメージを描き、理解をしていくことが大事である。特に、扱うデータの種類や性質などが分かっていないと、そこから先の統計学の理解が難しくなる。そのため、最初に医療データの種類や医療データ解析事例を説明する。そして前半は基礎となる特徴記述統計の理解を中心に解説する。後半の推測統計では標本の扱い、推定、検定の手法についての理解を中心に解説する。統計学は各分野での学修の基礎となる、今後の研究的思考に活かせるように学修する。
		生物学	医療職に必要な不可欠な生物学の基本事項を学修し、生命とは何かを考える。初めに生命の基本となる細胞の構造と機能を理解し、生体を構成する分子や恒常性維持のメカニズムについて学ぶ。また発生・分化、遺伝と生物進化、生命誕生と死に関する事項の学びを通じて、「生きるとは何か」という生命の本質を理解する。ここでは医療の基礎となる生物学を学ぶことで、私たちの生命がどのような仕組みで維持されているのかを理解し、それを専門分野に応用できる基礎的能力を養う。
		物理学	物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考える上で基礎的な学問となる。本科目の目的は、力学の基本的な原理について正しい理解を得ること、看護師、理学療法士、作業療法士に必要な物理学に関連する知識を得ること、科学的または論理的な考え方を養うことである。人体の運動と物理の法則の関係を理解し、科学的な思考で人間の動きを捉えられるように学ぶことで、無理のない体の動きや力の使い方についても日常的に重力や摩擦など考えながら行動し、各分野に活かせるように学修する。

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部 理学療法学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 (続き)	人間と言語	英語Ⅰ (医療会話)	ここでのポイントは臨床の様々な現場で患者との英語によるコミュニケーションを実現するための基礎となる慣用表現を修得する。実際に使えない英語は意味がないので、発音練習の中でアクセント、フレーズ、イントネーションなども知り、基本的単語と簡単な構文を駆使した会話が成立することを目指す。講義を通じて必要な単語を覚え、英文の構造の理解を学ぶことで、英語が聞き取れるようになるように学ぶ。人々とのコミュニケーションの手段として、医療の場における会話ができるように学修する。	
		英語Ⅱ (医療文献読解)	看護学科や理学療法学科、作業療法学科に必要な英語論文や英語記事を読み解き理解することで、大学在学中および将来にわたって必要とされる英語読解能力をスキルアップできるように学ぶ。医療の分野では最新の知見に触れることを通して、日々の実践活動に活かしていくことが今後ますます必要とされる。そのためにも英文の読解は必須である。これから学び深めていく各専門分野にも英語に親しみをもち活用できるように、また4年次の卒業研究や将来にわたって最新の英文の読解ができる基礎作りを行う。	
		韓国語Ⅰ (日常会話)	2000年代の初め、韓流ブームが日本国内で沸騰し、2018年度には韓国人訪日客は約750万人、日本人訪韓客は約300万人に達した。韓国語を学ぶ人口も飛躍的に伸びた。韓国語を初めて学ぶ学生諸君を対象に、韓国語の基本である発音を身につけ、簡単な日常会話(挨拶等)ができるように韓国語に関する体系的な基礎知識を学ぶ。韓国語と日本語は基本的な語順が同一であるので、学生諸君はその修得スピードに驚くだろう。併せて、韓国文化の理解と共に、韓国語で簡単なコミュニケーションを可能する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部 理学療法学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 (続き)	人間と言語 (続き)	韓国語Ⅱ (医療会話)	韓国語Ⅰでの学びを基に、ここでのポイントは臨地の様々な現場で患者との韓国語によるコミュニケーションを実現するための基礎となる慣用表現を学ぶ。韓国語の場合は平音・濃音・激音の発音トレーニングが重要なので、発音練習の中で、フレーズ、イントネーションなども知り、基本的単語と簡単な構文を駆使した会話が成立することを目指す。医療者として実務で話す機会が多い内容で構成し、実務に役立つ会話ができるように学修する。	
		中国語Ⅰ (日常会話)	アジア圏の中で中国のエネルギーはすさまじいものがある。人口も 13 億と多く、多くの人が世界中を旅したり、留学したりと、日常的に私たちが中国語を耳にする機会も増えてきている。福岡の地は中国からの旅行者も多くみられる。中国語の基本である発音を身につけ、会話を通して簡単な日常会話 (挨拶 他) ができるように学ぶ。また日常会話を通して現代中国の文化や社会について理解できるように概説する。学修を通してお互いの文化や考え方の理解につながるように学ぶ。	
		中国語Ⅱ (医療会話)	中国語Ⅰでの学びを基に、ここでのポイントは臨地の様々な現場で患者との中国語によるコミュニケーションを実現するための基礎となる慣用表現を学ぶ。中国の場合は四声の発音が重要なので、発音練習の中でアクセント、フレーズ、イントネーションなども知り、基本的単語と簡単な構文を駆使した会話が成立することを目指す。健康課題がある人に対し、医療者として実務で話す機会が多い内容で構成し、実務に役立つ会話ができるように学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 理学療法学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間とスポーツ	スポーツ理論	学生の健康管理の一環ともなるようスポーツについて学修する。人間にとって体を動かすことがどのような意義があるのか、スポーツがもたらす心や体への影響を考え、体力づくりや健康づくりや、スポーツ理論について学ぶ。さらに障害者のスポーツに関しても学修する。障害には身体障害、知的障害、精神障害、発達障害などがある。初めてスポーツに参加する障害者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツ活動の導入を支援できるように学修する。	
		スポーツ実践	学生の健康管理の一環ともなるよう、様々なスポーツを経験することで体を動かし健康づくりについて考えるとともに、お互いに協力してコミュニケーション力を向上させ、生涯スポーツに取り組めるように学ぶ。スポーツ実践の際はその競技のルールに従うことや、チームで行う場合は協力し、ともに仲間の力を信じてお互いの能力を最大限に発揮できるように臨むことが必要となる。各スポーツの実践を通して協調性や、目標を共有し協力しあう楽しさも学修する。	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ（筋骨格系・神経系）	人体を構成する器官・系統のうち、動物性機能に関係の深い筋骨格系（骨・関節・筋）と神経系（脳・脊髄・感覚）の基本的な構造について学ぶ。また、理学療法と関わりの深い筋骨格系および神経系の代表的な障害（疾患）の概要を学び、解剖学とリハビリテーションの関連について理解する。	
		解剖学Ⅱ（呼吸器系・循環器系）	人体を構成する器官・系統のうち、植物性機能に関係の深い循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器・内分泌系の基本的な構造について学ぶ。また、理学療法と関わりの深い各系の代表的な障害（疾患）の概要を学び、解剖学とリハビリテーションの関連について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	人体の構造と機能及び心身の発達 （続き）	解剖学実習	人体模型や3D教材を用いた実習および献体解剖の見学を通して、人体（運動器系・神経系）の構造を立体的に理解する。
		（オムニバス方式/全23回） （72 東華岳・11 田中真一・㊦ 古後晴基・㊦ 坪内優太/15回）（共同）骨と筋の構造および機能（模型および3D教材を用いた実習）を担当する （72 東華岳/8回）献体の解剖見学を担当する	オムニバス方式、共同（一部）
		生理学Ⅰ（動物性機能）	人体を構成する器官・組織のうち、動物性機能に関係が深い筋骨格系（骨・関節・筋）と神経系（脳・脊髄・末梢神経）の基本的な生理機能について学ぶ。また、理学療法と関わりが深い筋骨格系および神経系の代表的な障害（疾患）の概要について学び、生理学とリハビリテーションの関連について理解する。
		生理学Ⅱ（植物性機能）	人体を構成する器官・組織のうち、植物性機能に関係が深い循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器・内分泌系の基本的な生理機能について学ぶ。また、理学療法と関わりが深い各系の代表的な障害（疾患）の概要を学び、生理学とリハビリテーションの関連について理解する。
		生理学実習	生体機能とその発現メカニズムについて学ぶことを目的に、各種機器を用いた実習を行う。また、実習により得られた結果（客観的データ）を正しく記録するとともに、グループディスカッションを通して考察を深め、その内容を発表する。
		病理学	疾病の原因や生体への影響について理解を深めるために、病因や細胞の傷害に伴う生体反応（炎症・免疫・循環障害等）の基礎を学ぶとともに、遺伝・感染・環境・栄養・腫瘍・生活習慣などに起因する生体反応について学ぶ。また、代表的な疾病の進行と病理形態学的な変化に関する知識を通して、疾病の原因とその成り立ちについて理解を深める。

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	人体の構造と機能及び心身の発達 （続き）	運動学Ⅰ（頭頸部・上肢）	上肢・頭頸部・顔面の関節構造と関節運動学について学ぶとともに、関節運動に作用する筋の形態学的特徴（起始・停止・神経支配・作用）の知識と統合して理解する。
		運動学Ⅱ（体幹・下肢）	体幹・下肢の関節構造と関節運動学について学ぶとともに、関節運動に作用する筋の形態学的特徴（起始・停止・神経支配・作用）の知識と統合して理解する。
		運動生理学	生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識をもとに、運動によって筋・呼吸・循環・体温・内分泌などに生じる生理反応の基本的なメカニズムについて学ぶとともに、理学療法やトレーニングを実践する上で留意することについて理解する。
		運動学実習	バイオメカニクスの基礎知識を理解するとともに、三次元動作解析装置を用いて計測された基本動作（立ち上がり・歩き始め・歩行・ジョギング・昇段動作）の解析演習を通して身体運動のメカニズムについて学ぶ。また、解析演習で学んだ知識と1年次に運動学で学んだ知識を統合し、理学療法評価で必要となる動作観察のポイントと記録方法について理解する。
		人間発達学	人間は生涯にわたり心身の構造、機能が変化していく。人間の各発達段階、特に乳幼児期の特徴と発達課題について知的側面（言語、認知等）、身体的側面（原始反射、姿勢反射、腹臥位・背臥位での運動等）、情緒的側面（信頼、内発的動機等）、社会的側面（遊び等）などに焦点をあてて論じる。さらにライフサイクルにおける成熟と衰退という観点を踏まえて、医療技術者としていかに人間関係を深め、援助活動に生かしていくのか学修する。

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	内科学Ⅰ（総論）	代表的な内科疾患（循環器疾患、血液・造血器疾患、アレルギー疾患、膠原病、免疫不全、感染症）について、関連する解剖学・生理学・症候・検査法の基礎的な知識について学ぶ。また、各疾患を有する患者のリハビリテーションを行う際に留意すべきことについて考える。
		内科学Ⅱ（各論）	代表的な内科疾患（呼吸器疾患、消化管疾患、肝胆膵疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎臓泌尿器疾患）について、関連する解剖学・生理学・症候・検査法などの基礎的な知識について学ぶ。また、各疾患を有する患者のリハビリテーションを行う際に、留意すべきことについて考える。
		神経内科学Ⅰ（総論）	神経内科領域の臨床症候について、神経解剖学と神経生理学の観点から全般的に学ぶ。また、各症候とリハビリテーションに関連する事項について学ぶ。
		神経内科学Ⅱ（各論）	神経内科領域の疾患について理解を深めることを目的に、神経内科学Ⅰで学んだ知識に基づき、各神経疾患の病因・症状・診断・治療・予後について学ぶ。また、各疾患とリハビリテーションに関連する事項について学ぶ。
		整形外科Ⅰ（総論）	運動機能や日常生活活動を障害する代表的な整形外科疾患の病因や病態生理、診断と治療の総論を学ぶことにより、整形外科疾患のリハビリテーションを行うために必要な基礎知識を修得する。
		整形外科Ⅱ（各論）	整形外科Ⅰ（総論）で学んだ知識を踏まえ、人体の各関節における代表的な疾患や外傷に関する病態や診断、治療方法についてより詳細に学ぶ。また、各関節疾患のリハビリテーションを行うにあたり、留意すべき事項について理解する。
		精神医学Ⅰ（総論）	精神疾患や精神障害を有する患者理解に必要な精神医学の基礎について学ぶ。特に臨床上頻度の多い疾患や障害を取り上げ、その症状・診断・治療・リハビリテーションの概要について理解するとともに、精神障害を有する対象者へのチーム医療の在り方について考える。

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 （続き）	精神医学Ⅱ（各論）	精神医学Ⅰで学んだ精神疾患や精神障害に関する基礎的知識に基づき、ライフサイクルも含めたより広い社会的支援の観点から精神障害を有する対象者へのアプローチについて学ぶ。また、医療施設のみならず、学校や地域社会における近年のメンタルヘルス問題について学ぶ。
		小児科学	小児を取り巻く諸問題について、医学的および社会的な観点から学ぶ。胎児期から学童期までの成長と発達に関する基礎的事項を理解するとともに、神経・筋・骨格・循環器・呼吸器・消化器・腎泌尿器といった臓器および系統別に疾患の特徴を学ぶ。さらに、理学療法士や作業療法士が携わる機会が増えている重症心身障害児を対象とした療育制度について学ぶ。
		老年学	加齢による身体の各系および器官の機能的変化について学ぶとともに、高齢者に多い疾患や症候の概要を理解し、健康長寿のための医療的および社会的アプローチの重要性について学ぶ。
		救急救命医学	救急医療に関する基礎的な知識（救急医療体制や医学的処置）について理解を深めるとともに、各種要因による救急疾患の概要（原因・症候・処置など）を学ぶ。また、理学療法士・作業療法士が行える救急救命処置の範疇について学ぶ。
		公衆衛生学	医学・医療を通して疾病予防や健康増進を図るために必要な公衆衛生学の基礎知識について学ぶとともに、代表的な保健活動（環境保健・母子保健・学校保健・産業保健・高齢者保健・精神保健・国際保健）の概要を理解し、個人または社会における保健医療福祉を多面的視点で捉える。
		臨床心理学概論	心に問題を有する人たちにに対する心理学的援助の理論について学ぶ。また、具体的な事例を通して各種理論に基づいた実践方法を学ぶことにより、医療福祉の現場において対峙する対象者の心の問題について関心を深める。

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 （続き）	リハビリテーション医学・医療は多くの診療科に係る疾患と障害を対象とするため、近年の高齢化に伴う疾病構造の変化（複合疾患等）を理解するとともに、代表的な疾患や障害（脳血管障害・頭部外傷・運動器疾患・脊髄損傷・神経筋疾患・切断・小児疾患・循環器疾患・呼吸器疾患・腎疾患・内分泌代謝性疾患・摂食嚥下障害・がん・その他）に対するリハビリテーション医療の概要について学ぶ。	
	医療危機管理論	リスクマネジメントに関する基本的な知識と技術を学ぶとともに、具体的な事例を通してリスクマネジメントの実際について考え、医療福祉に携わる専門職として医療の質と安全を確保することの重要性を理解する。	
	医学概論	医学を「心身の病気をなおし、健康を増進させる学問」と定義し、人間と病気の歴史や健康との関係を知ることにより、医療観や倫理観、医療を担う人材の教育や診断技術、治療の進歩、今日の我が国の医療システムなどについて学ぶ。さらに、代表的な診療科の対象となる主な疾患や医師の仕事について学び、チーム医療の一翼を担い、信頼される医療専門職としての将来の自身の在り方について考える。 （オムニバス方式/全15回） （3 富永隆治/11回） 医学をどのようにとらえるか、医学の発達のすがた（医学史）、健康・病気・医学の体系、病気の原因、病気による身体の変化、病気の診断、治療とリハビリテーション、予防、我が国の医療システム、内科、循環器科、外科、整形外科について担当する。 （① 山田達夫/3回） 脳神経内科、脳神経外科、産科及び婦人科について担当する。 （5 郡山一明/1回） 救急救命について担当する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進（続き）	栄養学	栄養素の種類と化学的性質、生理的機能、消化吸収、栄養素間の代謝における相互作用、栄養素を供給する食品について学ぶことにより、健康を維持増進し、疾病を予防するために適切な栄養摂取について理解する。また、リハビリテーション医療における栄養の重要性について理解する。
		薬理学	人体の構造と機能の講義と関連させながら、薬物がどのように人体に作用し吸収されるのか学ぶ。さらに具体的な個々の薬物について、その使用目的、作用、副作用、禁忌について学ぶ。
		医用画像診断学	医療現場で使用される各種医用画像の撮像原理と正常人の画像形態を理解するとともに、代表的な疾患の画像所見の特徴について学ぶ。また、これまでに学んだ解剖学・生理学・各種病理学などの知識を応用し、画像所見と出現する症候との関係について理解する。
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史、理念、領域などの基本的事項を理解するとともに、リハビリテーションを取り巻く社会や社会保障制度について学ぶ。また、リハビリテーションに関わる各種専門職とその職務内容を理解し、関連職種が協働する専門職連携（チーム医療）の重要性について考える。
		ケアマネジメント論	地域社会の中で援助対象者を支えていくために、ケアマネジメントの考え方や具体的な実践方法の概要を学ぶ。また、幅広い対象者（身体障害者・精神障害者・高齢者・子ども・生活困窮者など）に対する各種支援制度や機関について学ぶ。
		カウンセリング論	カウンセリングの基本的なテクニックについて、具体的な事例や技法を通して学ぶ。また、リハビリテーション医療におけるカウンセリングの重要性について理解する。
		保健医療福祉制度論	医療福祉分野の専門職として知っておくべき基本的な法令の概要とその役割について学ぶ。また、我が国における国民の健康維持・増進に寄与する各種法令と社会資源について学び、医療を取り巻く現状の諸問題や将来展望について理解する。

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）	保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあって、その場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性や連携について理解することが必要である。本講義では、専門職連携についての基本的な考え方を学ぶ。	共同
	専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）	保健・医療・福祉に携わる職種の専門性や関連性、チーム医療・ケアの理念と実践方法を理解し、各職種が連携して課題を解決し、患者・利用者中心の専門的サービスを提供する技能を修得する。	共同
	専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）	既修の地域に関する学修を基に、提示された事例を選択して地域で暮らす対象の専門職連携についてワークを実施する。その中で各専門職の意見を尊重しながら、自職種の意見を根拠に基づいて述べられるように学修する。ワークを通して対象を全人的に理解し、自職種としての役割と責任を明確にして、チームで協働する意義やチームの一員として果たす役割は、対象の健康の保持増進や、生活の質に深くかかわることは即ち、自職種の質にも関係することを学ぶ。	共同
	専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）	患者、利用者を全人的に評価し、患者、利用者中心の専門職連携によって診療・ケア・訓練計画の立案ができる能力を育成する教育プログラムである。専門職連携教育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで培った IPE に関する学びと各学部の専門分野の学びを応用、実践するために、シミュレーションを通し専門職の役割を活用しながら、チームで計画の作成に取り組む。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門 分野	基礎 理学療法 学	理学療法の定義や歴史、各種技術、関連法規、理学療法士が活躍するフィールドや理学療法の実践を学び、リハビリテーションに寄与する専門職としての理学療法士の位置づけを理解し、理学療法士を志すために必要な基本的態度を修得する。	
	体表解剖学演習	理学療法に必要な上肢・体幹・下肢の筋骨格の構造と機能に関する基礎的な知識を整理するとともに、体表から触察可能な筋骨格の触察法について演習形式で学ぶ。また、理学療法士が触察法を修得する目的や意義について理解する。	共同
	バイオメカニクス	身体運動を理解するために必要なバイオメカニクスの基礎について学ぶとともに、基本動作（起居動作・立ち上がり動作・移乗動作・入浴動作・歩行・車椅子操作）の介助法を学ぶ。また、介助者と被介助者の立場から介助を体験することにより、介助機器を適切に設定する意義について理解する。	共同
	病態運動学	様々な疾患に起因する上肢・体幹・下肢の関節運動の障害メカニズムについて、関節の構造と機能および運動力学的な観点から学ぶ。また、関節運動の障害と日常生活動作の制限との関係について推察する方法を学ぶ。	共同 講義 15 時間 演習 15 時間
	基礎理学療法演習Ⅰ （キャリアデザイン）	理学療法士が関わる代表的疾患の理学療法について情報収集し、カリキュラムとの関連を含めてプレゼンテーションを行う。また、自身の将来のキャリアについて考えるとともに、理学療法を通して人々の健康や地域社会に貢献する意義について考える。	共同
	基礎理学療法演習Ⅱ（検査・測定）	模擬症例に対する検査・測定項目の想起と技術演習を通して、これまでに学んだ検査・測定技術（形態測定、関節可動域、筋力、感覚、反射、協調性、筋緊張、疼痛、バランス）の修得を目指す。また、各技術を検者および被検者の立場から体験するとともに、グループワークを通して注意点をまとめ、検査・測定臨床実習に向けた臨床的実践能力の向上を目指す。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 理学療法学科）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	基礎理学療法学（統	基礎理学療法演習Ⅲ（問題解決）	模擬症例の情報に基づいた演習を通して、①検査・測定項目の想起、②検査・測定結果に対する症候学的分析および障害学的分析、③理学療法プログラムの立案、④リスク管理、に関する能力の修得を目指す。また、グループワークを通して問題解決のために必要な思考法を学び、評価臨床実習に向けた臨床的実践能力の向上を目指す。	共同
		基礎理学療法演習Ⅳ（スキルシミュレーション）	症例情報に基づいた演習を通して、理学療法評価に必要な臨床能力（医療面接、形態測定、筋力検査、関節可動域検査、神経学的検査、バランス検査、動作介助、リスク管理、環境設定、コミュニケーション）の修得を図る。また、理学療法評価に関連する基礎的な知識の確認を通して、評価臨床実習および総合臨床実習に向けて知識と評価技術の統合を図る。	共同
	理学療法管理学	理学療法管理学	質の高い理学療法が提供されるために必要な組織マネジメントについて理解することを目的に、職場の管理・運営やスタッフ教育、各種記録や報告書作成の意義や方法を理解するとともに、環境整備や事故対応策に関する知識、保険制度の仕組みなどについて学ぶ。	
	理学療法評価学	理学療法評価法	理学療法評価の目的や意義について学ぶとともに、医療面接や基本的な検査・測定の種類と方法を理解する。また、これまでに学んだ解剖学や生理学の知識を用い、疾病により生じる症候および障害とその評価方法について知識を整理することにより、症候と障害の関係についても理解を深める。	共同 講義 15 時間 演習 15 時間
		理学療法評価演習Ⅰ（運動器系）	1 年次に学んだ理学療法評価に必要な検査・測定（血圧測定、形態測定、関節可動域測定、徒手筋力検査）について、演習形式でスキルの修得を目指す。また、検者・被検者の立場から検査・測定を体験することにより、検査・測定時に生じるリスクとその管理について学ぶ。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 理学療法学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
専門分野 （続き）	理学療法評価演習Ⅱ（神経系）	1年次に学んだ理学療法評価に必要な検査（脳神経検査、反射検査、感覚検査、協調性検査、筋緊張検査、疼痛検査、バランス検査）について、演習形式でスキルの修得を目指す。また、検者および被検者の立場から検査・測定を体験することにより、検査・測定時に生じるリスクとその管理について学ぶ。	共同	
	理学療法評価演習Ⅲ（疾患別評価）	理学療法の対象となる代表疾患の特徴的な症候を理解するとともに、機能障害を一次性と二次性に判別する方法について学ぶ。また、模擬症例による演習を通して、機能障害と能力障害を把握するために必要な検査・測定項目を想起するスキルを修得する。	共同	
	医用画像評価学	医用画像診断学で学んだ知識を踏まえ、医用画像を理学療法の臨床推論に活用するために必要な知識について学ぶ。また、臨床現場で理学療法士が関わることの多い代表的な疾患（中枢疾患・運動器疾患）の画像を例に、医師の医用画像診断とは異なる理学療法士としての医用画像評価について学ぶ。 （オムニバス方式/全8回） （㊦ 玉利誠/4回）総論、神経疾患の画像形態と評価を担当する （23 原田伸哉/3回）運動器疾患の画像形態と評価を担当する （㊦ 玉利誠・23 原田伸哉/1回）画像解析の体験（距離・角度の計測など）を担当する。	オムニバス方式、共同（一部）	
	動作分析学	三次元動作解析装置により得られたデータに基づき、理学療法士が対象とする基本動作（立ち上がり動作・歩行）のメカニズムについて理解する。また、健常者と患者の差異について学ぶことにより、動作観察のポイントを理解する。	共同	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	理学療法評価学（続）	理学療法の実践に必要な臨床推論過程について理解を深めることを目的に、症候学と障害学を基盤とした症候障害学モデルについて学ぶ。また、実際の臨床現場における理学療法士の思考過程の解説を通して、科学的根拠・徒手的治疗・動作観察に基づく臨床推論の実践方法を理解する。	
	理学療法治療学	物理療法Ⅰ（温熱・寒冷・水治・牽引）	物理療法（温熱療法、寒冷療法、水治療法、牽引療法）の原理と生理学的作用、疾患の適応・禁忌について学ぶとともに、演習を通して各種物理療法機器の使用方法を修得する。
		物理療法Ⅱ（電気・光線・振動）	物理療法（電気刺激療法、光線療法、筋電図バイオフィードバック療法、振動刺激療法、衝撃波療法、ロボットリハビリテーション、マッサージ療法）の原理と生理学的作用、疾患の適応・禁忌について学ぶとともに、演習を通して各種物理療法機器の使用方法を修得する。
		運動療法学	理学療法士が対象とする代表的な機能障害の改善を目的とした基礎的な運動療法について、その理論や評価のポイント、適応と禁忌などについて学ぶ。また、一部演習を取り入れ、各種運動療法技術を体験する。
		理学療法技術学Ⅰ（総論）	各系の疾患により生じる症候と機能障害の関係を理解するとともに、機能障害と活動制限との関係について考察する方法を学ぶ。また、演習を通して各機能障害に対する基本的な運動療法や治療技術の理論を学ぶ。
		理学療法技術学Ⅱ（各論）	器管系（感覚器系・リンパ系・結合組織・筋系・関節系・神経系）の症候に対する治療技術理論の概要を学ぶ。また、理学療法士が生涯にわたって治療技術の研鑽に努めることの意義について考え、自身の将来のキャリアに対する意欲の向上を図る。

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 理学療法学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
専門分野 （続き）	理学療法治療学（続き）			
	運動器系理学療法学Ⅰ （変形・軟部組織性疾患）	運動器に関する人体の構造と機能を理解するとともに、代表的な運動器系障害（骨・軟骨障害、関節軟部組織性障害、関節構造由来の障害、筋・軟部組織性障害、スポーツ外傷性障害）について、各疾患の概略や整形外科的治療、回復過程に応じた評価や理学療法、リハビリテーションの理論と実際について学ぶとともに、科学的根拠に基づいた運動器理学療法の実践方法について考える。	共同 講義 30 時間 演習 30 時間	
	運動器系理学療法学Ⅱ （骨折・脊髄・絞扼性疾患）	運動器に関する人体の構造と機能を理解するとともに、代表的な運動器系障害（骨性障害、脊椎性障害、絞扼性神経障害、脊髄性神経障害、複合障害、切断障害）について、各疾患の概略や整形外科的治療、回復過程に応じた評価や理学療法、リハビリテーションの理論と実際について学ぶとともに、科学的根拠に基づいた運動器理学療法の実践方法について考える。	共同 講義 30 時間 演習 30 時間	
	神経系理学療法学Ⅰ（脳卒中）	脳の構造および機能を理解するとともに、脳血管障害患者の症候・治療・障害・評価について学ぶ。また、急性期・回復期・生活期における適切な理学療法およびリハビリテーションの理論と実際について学ぶとともに、科学的根拠に基づいた神経理学療法の実践方法について考える。	共同 講義 30 時間 演習 30 時間	
	神経系理学療法学Ⅱ（神経難病）	脳の構造および機能を理解するとともに、神経筋疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギランバレー症候群、筋ジストロフィー）患者の症候・治療・障害・評価について学ぶ。また、病態の進行に伴う適切な理学療法およびリハビリテーションの理論と実際について学ぶとともに、科学的根拠に基づいた神経理学療法の実践方法について考える。	共同	
	高次脳機能障害学	脳の構造および機能を理解するとともに、脳損傷に起因する代表的な高次脳機能障害（Pusher 症候群・半側空間無視・失行症・記憶および注意障害・失語症）の病態・評価・理学療法・リハビリテーションについて学ぶ。		

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	理学療法治療学（続き）	呼吸器系理学療法学	呼吸に関する人体の構造と機能を理解するとともに、代表的な呼吸器疾患患者の症候・治療・障害・評価について学ぶ。また、疾患の重症度や病期に応じた適切な理学療法およびリハビリテーションの理論と実際について学ぶとともに、科学的根拠に基づいた呼吸理学療法の在り方について考える。
	代謝系理学療法学	代謝に関する人体の構造と機能を理解するとともに、代表的な代謝系疾患（糖尿病・肥満・腎不全）患者の症候・治療・障害・評価について学ぶ。また、疾患の重症度や病期に応じた適切な理学療法およびリハビリテーションの理論と実際について学ぶとともに、科学的根拠に基づいた内部障害理学療法の在り方について考える。	共同
	循環器系理学療法学	循環に関する人体の構造と機能を理解するとともに、代表的な循環器系疾患（心疾患）患者の症候・治療・障害・評価について学ぶ。また、疾患の重症度や病期に応じた適切な理学療法およびリハビリテーションの理論と実際について学ぶとともに、科学的根拠に基づいた内部障害理学療法の在り方について考える。	講義 15 時間 演習 15 時間
	疼痛理学療法学	痛みについて生物学的モデルと生物心理社会モデルの観点から理解を深め、痛みに対して治療的な理学療法から集学的なリハビリテーションまで幅広いアプローチを展開するための理論を学ぶ。	
	小児理学療法学	小児理学療法の対象となる代表的疾患（脳性麻痺・二分脊椎・ダウン症・進行性筋ジストロフィー）の症候・治療・障害・評価について学ぶ。また、小児患者の重症度や発達に応じた適切な理学療法およびリハビリテーションの理論と実際について学ぶとともに、科学的根拠に基づいた小児理学療法の在り方について考える。	

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 理学療法学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
専門分野 （続き）	理学療法治療学 （続き）	装具学	装具の定義と目的について理解するとともに、上肢・下肢・体幹の各種装具の構造と機能について学ぶ。また、各種疾患に適応となる装具の種類やチェックアウト、リハビリテーションにおける装具療法について学ぶとともに、医療用装具や医療用仮装具、更正用装具などの給付制度について理解する。	講義 15 時間 演習 15 時間
		義肢学	義肢の定義と目的について理解するとともに、義肢の構造と機能について学ぶ。また、断端レベルに応じた義肢の種類やチェックアウト、切断者のリハビリテーションについて学ぶとともに、義肢の処方や制作に関係する法制度について理解する。	講義 15 時間 演習 15 時間
	地域理学療法学	生活環境論	対象者の居住環境の制約を改善するために必要な基礎知識を修得することを目的として、住宅設計の基本や増改築に関する知識、福祉用具の知識、各種疾患特性に応じた適切な住環境整備の知識、住環境整備に関する行政や福祉制度の知識について学ぶ。	
		福祉住環境論	各種福祉用具の名称や機能を理解するとともに、実際の体験を通して福祉用具の役割や意義について学ぶ。また、一部演習を通して、対象者の身体機能や生活環境の評価や評価結果に基づいた適切な福祉用具の選定方法について学ぶ。	
		生活技術学	理学療法士が関わることの多い代表的な日常生活動作（食事・整容・行為・入浴・排泄・移乗）の成り立ちについて理解するとともに、対象者の日常生活動作を適切に評価する方法について学ぶ。また、日常生活動作に役立つ自助具の名称や機能について理解し、対象者の機能障害や能力障害に応じて適切な自助具を提案するための基礎知識を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部 理学療法学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 (続き)	地域理学療法学 (続き)	地域理学療法学	高齢者の身体機能および精神機能の特徴や加齢変化を理解するとともに、高齢者に対する理学療法評価や理学療法を実施する際のポイントについて学ぶ。また、高齢者を取り巻く地域社会の現状や現行の諸制度を理解するとともに、介護予防事業や介護保険下のサービス（入所リハビリテーション・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション）の概要と実際について学ぶ。	
		予防理学療法学	健康寿命の延伸という社会的ニーズに理学療法士として応えるための基盤として、予防の観点から捉えた理学療法の現状や在り方について学ぶ。また、グループディスカッションを通して、健康寿命の延伸に寄与する科学研究の方法や可能性について考える。	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	理学療法統合学修	理学療法と関連の深い代表的疾患（神経疾患・運動器疾患）領域における近年の高度先進医療の実際を知るとともに、理学療法の各領域（徒手理学療法・神経理学療法・基礎理学療法・支援工学理学療法・地域理学療法・内部障害理学療法）における先進的な研究の実際とその意義について学ぶことにより、高度先進医療と理学療法の関係や自身の将来のキャリアについて考える。 （オムニバス方式/全8回） （① 山田達夫/1回）神経疾患領域における高度先進医療の実際を担当する。 （④ 関矢仁/1回）運動器系疾患領域における高度先進医療の実際を担当する。 （④ 弓岡光徳/1回）徒手理学療法領域における先進的研究とその意義を担当する。 （③ 玉利誠/1回）神経理学療法領域における先進的研究とその意義を担当する。 （② 古後晴基/1回）基礎理学療法領域における先進的研究とその意義を担当する。 （⑨ 永崎孝之/1回）支援工学理学療法領域における先進的研究とその意義を担当する。 （⑧ 溝田勝彦/1回）地域理学療法領域における先進的研究とその意義を担当する。 （⑤ 阿波邦彦/1回）内部障害理学療法領域における先進的研究とその意義を担当する。	オムニバス方式
	理学療法特論Ⅰ（基礎）	理学療法に必要な基礎医学と臨床医学の基礎知識の確認を行うとともに、問題解決型学修（PBL）により知識の統合を図る。	共同
	理学療法特論（応用）	理学療法に必要な専門知識の確認を行うとともに、これまでに履修した臨床実習の経験を踏まえた問題解決型学修（PBL）により知識の統合を図る。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 理学療法学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
専門分野 （続き）	臨床実習	基礎臨床実習Ⅰ	理学療法士が行う理学療法業務の実際を見学することにより、理学療法士の役割や業務、理学療法士が使用する機器などについて、その概要を理解する。また、理学療法士が在籍する施設の特徴について学ぶとともに、理学療法士としての将来の自己像を形成する。	
		基礎臨床実習Ⅱ	理学療法士が行う理学療法業務の実際を見学することにより、理学療法士の役割や業務、理学療法士が使用する機器などについて、その概要を理解する。また、理学療法士と他の職種との関係について学び、理学療法士としての将来の自己像を形成する。	
		検査測定臨床実習Ⅰ	理学療法評価法や理学療法評価演習Ⅰ（運動器系）およびⅡ（神経系）で学んだ検査測定（血圧測定、形態測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、脳神経検査、反射検査、感覚検査、協調性検査、筋緊張検査、疼痛検査、バランス検査、等）について、実際の臨床現場における実践を通して理解を深めるとともに、技術の修得を目指す。また、医療人としての倫理観や接遇について学ぶ。	
		検査測定臨床実習Ⅱ	検査測定臨床実習Ⅰの経験を踏まえ、検査測定（血圧測定、形態測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、脳神経検査、反射検査、感覚検査、協調性検査、筋緊張検査、疼痛検査、バランス検査、等）技術のさらなる理解と修得を目指す。加えて、対象者の疾患情報や日常生活動作の特徴から、理学療法評価に必要な検査測定項目の想起を行う。また、医療人としての倫理観や接遇について学ぶ。	
		地域臨床実習	介護老人保健施設における理学療法業務の見学および体験、また、リハビリテーション実施計画書の作成体験を通して、介護老人保健施設における理学療法士の役割について理解する。また、理学療法士と他の職種の協働について学ぶとともに、地域における介護老人保健施設の役割についても理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	臨床実習	評価臨床実習	共同
		実習指導者の指導・助言・監督のもと、症例の医学的情報の収集や必要な検査測定を実施するとともに、その結果について症候障害学的分析を行い、症例の課題を明瞭化するとともに適切な理学療法プログラムを立案する一連の理学療法過程を体験する。また、臨床現場における理学療法士の理学療法業務を見学または体験することにより、理学療法士に必要な技術について理解を深める。実習後には報告会を行い、知識の統合および技術の修得を図る。	
	総合臨床実習Ⅰ	実習指導者の指導・助言・監督のもと、複雑な障害像を呈しない比較的低リスクが低い患者を対象に、これまでの臨床実習で学んだ知識と技術を活用し、対象者の情報収集・必要な検査測定項目の想起・検査測定の実践・検査測定結果の記録・症候障害学的分析・課題の明瞭化・理学療法プログラムの立案・理学療法プログラムの実践・仮説検証といった一連の理学療法過程を経験する。実習後には報告会を行い、知識の統合および技術の修得を図る。	共同
	総合臨床実習Ⅱ	総合臨床実習Ⅰの経験を踏まえ、様々な患者を対象に、一連の理学療法過程（対象者の情報収集・必要な検査測定項目の想起・検査測定の実践・検査測定結果の記録・症候障害学的分析・課題の明瞭化・理学療法プログラムの立案・理学療法プログラムの実践・仮説検証）を経験する。また、施設内における他職種や、施設外の専門職、家族等との連携の在り方について学び、理学療法士の業務と役割を統合的に理解する。実習後には報告会を行い、知識の統合および技術の修得を図る。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 理学療法学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	卒業研究	卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）	将来の臨床現場における疑問や問題を客観的に捉え、正しい方法を用いて科学的に解決できるようになることを目標に、研究に必要な基礎的な知識と方法について学ぶ。また、研究を行ううえで重要な研究倫理についても学び、理学療法士として研究に携わる意義について理解する。	共同
		卒業研究Ⅱ（研究の実践）	卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）で作成した研究計画書に基づき、研究を実践する。また、研究の成果をまとめ、学会形式による発表会を行うことにより、知識の統合を図るとともに、プレゼンテーション技術の修得を目指す。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 作業療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野	人間と教育	フレッシュャーズセミナー 新入生全員を対象とした初年次教育講座と位置づけ、高等学校時代とは異なる大学生として、大学とは如何なるところで何をどのように学ぶのか目的を明確にして、様々な学修課題を解決するために SNS や図書館での検索方法を学ぶ。医療に携わる職種を選択した学生同士として討議を通して仲間づくりを行い切磋琢磨する意識やチームワーク力や表現力を学び、個々のキャリアについても思考し、4年間の大学生活を有意義に実りあるものとして過ごせるような基盤づくりを行う。	共同
	教育学	教育は歴史・社会・文化のすべての全体的な関連の中で営まれる。そこで、教育の目的と内容を理解し、近代の学校の成立と西欧や日本の歴史的変遷を概観し、「人間のための教育」という視点から、そこに見られる主な問題、とりわけ現代的課題である貧困や福祉の現状、医療と教育について検討していく。さまざまな具体的な教育思想や実践事例などを紹介しながら医療教育についても現状や課題などを考える。本科目では教育学の基本的な概念や知識、現代の教育における問題について学修する。	
	人間と心	心理学 本科目では基礎心理学と応用（臨床）心理学の知識を学び、心理学を日常生活に応用できるようになることを目的とする。人間の生活基盤としての「個人・集団」の関係形成、心理および行動について理解する。人間は人との関係の中で生活しているが、人間の「心」の在りようは複雑で、その在りようが身体にも他者との関係にも影響する。心理学の伝統的方法と行動的方法をもとに人間理解の具体的方法を学ぶ。心理学は人のこころの動きや、そこから生じる行動について探究する学問である。心理学を日常生活に活用できるように学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 作業療法学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と心 （続き）	発達心理学	既修の「心理学」と関連させながら、心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフサイクルを視野にいれながら、ここでは胎児期から乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に時間の経過とともに質的及び量的に変化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問体系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、医療の対象である人間の誕生から老年期に至る生涯発達の過程において、各期の発達と課題を学ぶことで、医療に還元できる知識や探索の仕方を学修する。	
		ジェンダー論	多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上でジェンダーは重要な視点の一つである。医療、健康、保健に関わる人材は、人間の生と性に関するジェンダーへの深い理解が求められる。ここでは文化・社会的な在りようとしてのジェンダーがどのように構築されてきたか、具体的な歴史やトピックをとりあげながら、ジェンダーに関わる諸相を理解する。自己のジェンダーに気づき理解を深め、人権問題、社会問題にも広く対処できるような素養を身に着けることを目的とする。	
	人間と社会	法学	日本国憲法は「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」の3つの柱から成り立っている。日本国憲法の基本的な考え方を知り、憲法が国家や社会の基礎をなしていることを理解する。「基本的人権」は侵すことのできない永久の権利であるが、基本的人権が法の下にどのように保障されているか学び、現在起こっている身近なものとは結び付けて考えてみる。また「患者の権利」について具体的に検討し、臨地（床）の場で生じる様々な問題についても学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 作業療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と社会 （続き）	経営学	本科目では、企業や経営についての基本的知識を学修すると共に、現代社会におけるその役割と意味について考え、社会における経営の問題に興味・関心を抱き、専門学修へと展開していかれるような力を育成することを目的とする。経営について学修することで、経営的なものの見方・考え方を身につける。社会状況に応じた戦略的な考え方を学び、組織の基本形態とその特徴を学ぶことで、組織を機能させる思考や、資源をいかに活用するかなど、将来的に施設運営に参画できるような基礎的能力を養う。
		社会学	人間は社会的存在であり、社会の在りように個人は影響を受ける。少子高齢社会、人口減少社会、情報化社会、無縁社会、多死社会など我々が暮らしている地域社会に関する諸問題に対して検討することで、自分がいまどのような位置にいるか見えてくる、それは自分がどう生きるかにつながる。我々が生活する社会を再度見直し考える事によって、我々が生きる現代社会の諸問題についての幅広い知識を身につけ、今後の社会について自らの視点をもって考え、物事にあたることができるように学修する。
		倫理学	現代は科学技術と医療技術の進歩が人間の生存に関してさまざまな倫理的問題を提起している。これから人々の健康に関わる学生にとって、人間の存在そのものや、生きる意味など、状況によっては多くのジレンマにも遭遇することが考えられる。その状況をどのように捉え、考え、対応していけばいいのか、困難な問題に突き当たったときのためにも倫理学の理論、学説、方法論の基本を学び、論理的な思考能力を身につけ、医療関係者として倫理的視点を養うように学修する。

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 作業療法学科）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と社会 （続き）	人間関係論	人間は幼少期から成長する過程で様々な人間関係を経験する。その経験は個々の心と体の「健康」に大きな影響を与える。現代社会は常に変化しており、そこで生じる多様な人間関係も複雑化している。人間関係論はホーソンの実験により、経営組織の諸状況が人間関係によって規定され、その因果関係を体系化した理論で人間関係の重要性を示したものである。医療に携わる学修者として人間関係づくりの基礎的知識を理解し、対象者となる人間理解と自己理解を深め、人々の健康課題に寄与できるように学修する。	
		コミュニケーション論	コミュニケーションは私たちの生活のあらゆる場面に存在し、人間社会を成立させる重要な手段であり、人間の「考え・感情」を表現し、理解しあうことにつながる。健康課題を持つ対象に対応する医療関係者にとってこの能力は重要となる。本科目では多様なコミュニケーションにおいて、双方向の情報を正しく読み取り、適切に伝え、よりよいコミュニケーションをはかる手立てを探る力をつけることを目的に、医療に関する職業に携わる学修者として実践に活かせるように学修する。	
	人間と文化	国際関係論	グローバル化が急速に進行している現在、世界各地で発生している問題は1国のみの問題ではなく、複数の国々や組織などの関係の上で成り立っている。他国や他地域で起きた様々な問題は、自分の身近なところに直結し生活に影響している。こうした状況を踏まえて、本科目では、国際関係論の理論的背景、歴史的経緯を理解し、紛争問題や貧困と格差など具体的な国際問題を検討することを通して、世界で起きている問題や日本の果たす役割について学修する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 作業療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間と文化 （続き）	文化人類学	「国際化」や「グローバル化」が進む中、自文化と異文化の理解は私たちにとって必須なものとなっている。世界各国との交流が活発な現在、医療に関わる人材には、文化による考え方や価値、生活習慣の違いなど理解し対応する必要がある、特にその能力が必要とされている。文化人類学はそのための有力なツールである。本科目では、「文化とは何か」「人間とは何か」を、多様で具体的事象や理論を紹介しながら考えていく。それにより文化理解に必要な総合的な知識を学修し、今日の世界を洞察する力を身につける。
		アジアの文学	アジアは非常に広大な地域であり、地域が辿ってきた歴史によって根付く文学の特徴にも違いがある。ここではアジア文学の中でも、東アジア（日本・中国・韓国）における古典文学と近代文学について学ぶ。作品を通して時代背景とともに人間の生きざまや考え方、思想がその文学にどのように影響しているか、それぞれの文学の特徴や関連について学修することを通して、時代背景や各地の文化が人間の生活や考え方、生き方に及ぼす影響について深く理解する。

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部 作業療法学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 (続き)	人間と文化 (続き)	福岡の歴史と文化	福岡市の歴史、特に博多の成り立ちを学ぶ。福岡市は九州の玄関口として、またアジアに開かれた都市として、近年とみにグローバル化している。保健医療に携わる者としてこれから大学生活をおくる福岡の歴史、生活する人々の暮らしや地域で行われている習慣を知ることが、地域の環境や文化の理解、地域で生活する人の理解につながるとともに、地域に対する誇りを確認することにもなり大切な要素となる。自らも福岡の魅力を発信できるように多方面から学修する。 (オムニバス方式/全8回) (29 松原孝俊/1回) 博多港にたどり着いた外地からの引きあげ者 139万人 (69 宮井善郎/7回) 福岡藩を取り巻く諸問題、人権啓発・同和問題、在日外国人・外国人労働者、多文化共生に向けた街づくり、古代日本の玄関口筑紫館と鴻臚館、発掘調査からみた中世博多チャイナタウン、福岡の近代遺産	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部 作業療法学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 (続き)	人間と科学	健康科学入門	日本は世界に先駆けて高齢社会となり、国民が健康でよりよく生きるかということは大きな命題でもある。「健康」とは何か、人々のより良い健康を支援する職業に携わるものとして、看護、理学療法、作業療法、各々の視点から健康を深く理解し、人間の「健康」を支える「科学」とは何かを思考する。健康科学を支える学問は多岐にわたっており、人々の健康の実現を目指していく実践的な科学である。ここでは各学科の専門基礎分野・専門分野への導入として、その礎となる「健康科学」について学修する。 (オムニバス方式/全8回) (24 西村泰治/2回) 健康とは何か、医学領域からみた健康、科学とは何か 仮説の立案とその検証 (16 野地有子/2回) 看護領域からみた健康、健康を科学する最新の研究から (31 溝田勝彦/2回) 理学領域からみた健康、健康を科学する最新の研究から (□ 近藤敏/2回) 作業領域からみた健康、健康を科学する最新の研究から	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部 作業療法学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 (続き)	人間と科学 (続き)	医療と情報リテラシー	激しく変化している社会の中で生きていくためには生涯学修が必須となり、各自がそれぞれの方法を身につけるためには情報リテラシー能力の獲得が必要である。本科目ではインターネットの概要について学び、その上で動くアプリケーションの仕組みや基礎技術を理解し、適切に使いこなせるように学ぶ。医療の現場は ICT（Information and Communication Technology）の発達によって大きく変化している。しかしその一方では様々な問題や課題がある。ICT を用いた新しい医療としては遠隔での診療が可能になったり、情報の共有ができたり、災害時に活用できたりなど現在の状況や、これから充実していく 5 G（高速、大量の通信が可能）での医療の活用について学ぶ。さらに医療倫理的側面から、医療に関わる人々が知っておくべき課題について学修する。	
		論理的思考法	今日、どのような職業においても「根拠（エビデンス）にもとづいた思考と行動」が求められている。医療の領域も例外ではない。そこでは「エビデンスにもとづく治療（医療）」という言葉をよく耳にするようになった。しかし、根拠にもとづいて結論を導き出すとはいかなることなのか。ある結論をエビデンスによってサポートするとはどのようなことなのか。こうした根本的な問いを考えるのが、この講義の目的である。この講義では、「論証」の構造およびその評価の仕方を、演繹と帰納の観点から体系的に検討することによって、これらの問いにアプローチする。論理的思考を修得することは、大学におけるアカデミックスキルを身につける際にも基本となるだろう。	

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部 作業療法学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 (続き)	人間と科学 (続き)	統計学	本科目は基礎的な話を中心となる。統計学は、1つ1つの基礎を積み上げながら自分の中でイメージを描き、理解をしていくことが大事である。特に、扱うデータの種類や性質などが分かっていないと、そこから先の統計学の理解が難しくなる。そのため、最初に医療データの種類や医療データ解析事例を説明する。そして前半は基礎となる特徴記述統計の理解を中心に解説する。後半の推測統計では標本の扱い、推定、検定の手法についての理解を中心に解説する。統計学は各分野での学修の基礎となる、今後の研究的思考に活かせるように学修する。	
		生物学	医療職に必要な不可欠な生物学の基本事項を学修し、生命とは何かを考える。初めに生命の基本となる細胞の構造と機能を理解し、生体を構成する分子や恒常性維持のメカニズムについて学ぶ。また発生・分化、遺伝と生物進化、生命誕生と死に関する事項の学びを通じて、「生きるとは何か」という生命の本質を理解する。ここでは医療の基礎となる生物学を学ぶことで、私たちの生命がどのような仕組みで維持されているのかを理解し、それを専門分野に応用できる基礎的能力を養う。	
		物理学	物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考える上で基礎的な学問となる。本科目の目的は、力学の基本的な原理について正しい理解を得ること、看護師、理学療法士、作業療法士に必要な物理学に関連する知識を得ること、科学的または論理的な考え方を養うことである。人体の運動と物理の法則の関係を理解し、科学的な思考で人間の動きを捉えられるように学ぶことで、無理のない体の動きや力の使い方についても日常的に重力や摩擦など考えながら行動し、各分野に活かせるように学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 作業療法学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
基幹分野 （続き）	人間と言語	英語Ⅰ（医療会話）	ここでのポイントは臨床の様々な現場で患者との英語によるコミュニケーションを実現するための基礎となる慣用表現を修得する。実際に使えない英語は意味がないので、発音練習の中でアクセント、フレーズ、イントネーションなども知り、基本的単語と簡単な構文を駆使した会話が成立することを目指す。講義を通じて必要な単語を覚え、英文の構造の理解を学ぶことで、英語が聞き取れるようになるように学ぶ。人々とのコミュニケーションの手段として、医療の場における会話ができるように学修する。	
		英語Ⅱ（医療文献読解）	看護学科や理学療法学科、作業療法学科に必要な英語論文や英語記事を読み解き理解することで、大学在学中および将来にわたって必要とされる英語読解能力をスキルアップできるように学ぶ。医療の分野では最新の知見に触れることを通して、日々の実践活動に活かしていくことが今後ますます必要とされる。そのためにも英文の読解は必須である。これから学び深めていく各専門分野にも英語に親しみをもち活用できるように、また4年次の卒業研究や将来にわたって最新の英文の読解ができる基礎作りを行う。	
		韓国語Ⅰ（日常会話）	2000年代の初め、韓流ブームが日本国内で沸騰し、2018年度には韓国人訪日客は約750万人、日本人訪韓客は約300万人に達した。韓国語を学ぶ人口も飛躍的に伸びた。韓国語を初めて学ぶ学生諸君を対象に、韓国語の基本である発音を身につけ、簡単な日常会話（挨拶等）ができるように韓国語に関する体系的な基礎知識を学ぶ。韓国語と日本語は基本的な語順が同一であるので、学生諸君はその修得スピードに驚くだろう。併せて、韓国文化の理解と共に、韓国語で簡単なコミュニケーションを可能する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部 作業療法学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 (続き)	人間と言語 (続き)	韓国語Ⅱ (医療会話)	韓国語Ⅰでの学びを基に、ここでのポイントは臨地の様々な現場で患者との韓国語によるコミュニケーションを実現するための基礎となる慣用表現を学ぶ。韓国語の場合は平音・濃音・激音の発音トレーニングが重要なので、発音練習の中で、フレーズ、イントネーションなども知り、基本的単語と簡単な構文を駆使した会話が成立することを目指す。医療者として実務で話す機会が多い内容で構成し、実務に役立つ会話ができるように学修する。	
		中国語Ⅰ (日常会話)	アジア圏の中で中国のエネルギーはすさまじいものがある。人口も 13 億と多く、多くの人が世界中を旅したり、留学したりと、日常的に私たちが中国語を耳にする機会も増えてきている。福岡の地は中国からの旅行者も多くみられる。中国語の基本である発音を身につけ、会話を通して簡単な日常会話 (挨拶 他) ができるように学ぶ。また日常会話を通して現代中国の文化や社会について理解できるように概説する。学修を通してお互いの文化や考え方の理解につながるように学ぶ。	
		中国語Ⅱ (医療会話)	中国語Ⅰでの学びを基に、ここでのポイントは臨地の様々な現場で患者との中国語によるコミュニケーションを実現するための基礎となる慣用表現を学ぶ。中国の場合は四声の発音が重要なので、発音練習の中でアクセント、フレーズ、イントネーションなども知り、基本的単語と簡単な構文を駆使した会話が成立することを目指す。健康課題がある人に対し、医療者として実務で話す機会が多い内容で構成し、実務に役立つ会話ができるように学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 作業療法学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
基幹分野 （続き）	人間とスポーツ	スポーツ理論	学生の健康管理の一環ともなるようスポーツについて学修する。人間にとって体を動かすことがどのような意義があるのか、スポーツがもたらす心や体への影響を考え、体力づくりや健康づくりや、スポーツ理論について学ぶ。さらに障害者のスポーツに関しても学修する。障害には身体障害、知的障害、精神障害、発達障害などがある。初めてスポーツに参加する障害者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツ活動の導入を支援できるように学修する。	
		スポーツ実践	学生の健康管理の一環ともなるよう、様々なスポーツを経験することで体を動かし健康づくりについて考えるとともに、お互いに協力してコミュニケーション力を向上させ、生涯スポーツに取り組めるように学ぶ。スポーツ実践の際はその競技のルールに従うことや、チームで行う場合は協力し、ともに仲間の力を信じてお互いの能力を最大限に発揮できるように臨むことが必要となる。各スポーツの実践を通して協調性や、目標を共有し協力しあう楽しさも学修する。	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ（筋骨格系・神経系）	人体を構成する器官・系統のうち、動物性機能に関係の深い筋骨格系（骨・関節・筋）と神経系（脳・脊髄・感覚）の基本的な構造について学ぶ。また、理学療法と関わりの深い筋骨格系および神経系の代表的な障害（疾患）の概要を学び、解剖学とリハビリテーションの関連について理解する。	
		解剖学Ⅱ（呼吸器系・循環器系）	人体を構成する器官・系統のうち、植物性機能に関係の深い循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器・内分泌系の基本的な構造について学ぶ。また、理学療法と関わりの深い各系の代表的な障害（疾患）の概要を学び、解剖学とリハビリテーションの関連について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

（リハビリテーション学部 作業療法学科）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	解剖学実習	人体模型や3D教材を用いた実習および献体解剖の見学を通して、人体（運動器系・神経系）の構造を立体的に理解する。 （オムニバス方式/全23回） （77 東華岳・①富永隆治・Ⅱ 松崎正晃/15回）（共同）骨と筋の構造および機能（模型および3D教材を用いた実習）を担当する （模型および3D教材を用いた実習）を担当する （77 東華岳/8回）献体の解剖見学を担当する	オムニバス方式、共同（一部）
	生理学Ⅰ（動物性機能）	人体を構成する器官・組織のうち、動物性機能に関係が深い筋骨格系（骨・関節・筋）と神経系（脳・脊髄・末梢神経）の基本的な生理機能について学ぶ。また、理学療法と関わりが深い筋骨格系および神経系の代表的な障害（疾患）の概要について学び、生理学とリハビリテーションの関連について理解する。	
	生理学Ⅱ（植物性機能）	人体を構成する器官・組織のうち、植物性機能に関係が深い循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器・内分泌系の基本的な生理機能について学ぶ。また、理学療法と関わりが深い各系の代表的な障害（疾患）の概要を学び、生理学とリハビリテーションの関連について理解する。	
	生理学実習	生体機能とその発現メカニズムについて学ぶことを目的に、各種機器を用いた実習を行う。また、実習により得られた結果（客観的データ）を正しく記録するとともに、グループディスカッションを通して考察を深め、その内容を発表する。	共同
	病理学	疾病の原因や生体への影響について理解を深めるために、病因や細胞の傷害に伴う生体反応（炎症・免疫・循環障害等）の基礎を学ぶとともに、遺伝・感染・環境・栄養・腫瘍・生活習慣などに起因する生体反応について学ぶ。また、代表的な疾病の進行と病理形態学的な変化に関する知識を通して、疾病の原因とその成り立ちについて理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部 作業療法学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 (続き)	人体の構造と機能及び心身の発達 (続き)	運動学Ⅰ（頭頸部・上肢）	作業療法で接することの多い運動機能障害の問題を解決するために、人の随意運動のメカニズムについて学修する。上肢、下肢、頭・頸部、体幹における各関節の構造と機能を解説した後、運動の力源である各筋の作用、さらに筋収縮時における腱、靱帯との関連性を疾患・障害を交えながら学修する。また、正常歩行と異常歩行、方向舵としての肩、伸縮装置としての肘、効果器としての手について作業療法の視点から学修する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。	
		運動学Ⅱ（体幹・下肢）	作業療法で接することの多い運動機能障害の問題を解決するために、人の随意運動のメカニズムについて学修する。骨盤帯・下肢・歩行における各関節の構造と機能を解説した後、運動の力源である各筋の作用、さらに筋収縮時における腱、靱帯との関連性を疾患・障害を交えながら学修する。また、骨盤帯や下肢の関節の特徴と正常歩行と異常歩行について作業療法の視点から学修する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。	
		運動生理学	ヒトが身体運動を行う際の生理機能の適応的变化について説明する。本講義では人体の正常な構造と機能について理解し、健康維持と疾患回復の過程を学修する。運動における中枢機能、末梢機能、筋機能、呼吸と循環機能、代謝機能などの変化を理解するとともに、刺激と興奮、末梢神経細胞の分類と特性、接合部と受容器、脊髄反射、脳幹・小脳・視床下部と大脳辺縁系、視覚と聴覚、感覚投射系、皮膚感覚と平衡感覚、高次中枢機能についても学ぶ。脳の構成と機能局在や神経伝導と情報伝達などについて十分に理解を深め、これらの生理学的機能についての知識を、評価技術や運動療法、リスク管理など作業療法に生かせるよう学修する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 作業療法学科）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	人体の構造と機能及び心身の発達 （続き）	運動学実習	解剖学、生理学、運動学で学んだ基礎知識をもとに、身体運動のメカニズムについて実習を交えて理解する。人体における骨、関節、骨格筋の位置の確認および触診を行う。上肢（肩甲骨、肩、肘、前腕、手）、下肢（骨盤、股、膝、足）、体幹（頭部、顔面、頸部、胸部、腰部）の運動機能を自身と他人の身体を使って体験し理解する。人の基本的動作を運動学的に分析し、運動学の知識を日常生活活動との関連で理解する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。	共同
		人間発達学	人間は生涯にわたり心身の構造、機能が変化していく。人間の各発達段階、特に乳幼児期の特徴と発達課題について知的側面（言語、認知等）、身体的側面（原始反射、姿勢反射、腹臥位・背臥位での運動等）、情緒的側面（信頼、内発的動機等）、社会的側面（遊び等）などに焦点をあてて論じる。さらにライフサイクルにおける成熟と衰退という観点を踏まえて、医療技術者としていかに人間関係を深め、援助活動に生かしていくのか学修する。	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		内科学Ⅰ（総論）	代表的な内科疾患（循環器疾患、血液・造血器疾患、アレルギー疾患、膠原病、免疫不全、感染症）について、関連する解剖学・生理学・症候・検査法の基礎的な知識について学ぶ。また、各疾患を有する患者のリハビリテーションを行う際に留意すべきことについて考える。	
		内科学Ⅱ（各論）	代表的な内科疾患（呼吸器疾患、消化管疾患、肝胆膵疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎臓泌尿器疾患）について、関連する解剖学・生理学・症候・検査法などの基礎的な知識について学ぶ。また、各疾患を有する患者のリハビリテーションを行う際に、留意すべきことについて考える。	
		神経内科学Ⅰ（総論）	神経内科領域の臨床症候について、神経解剖学と神経生理学の観点から全般的に学ぶ。また、各症候とリハビリテーションに関連する事項について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 作業療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 （続き）	神経内科学Ⅱ（各論）	神経内科領域の疾患について理解を深めることを目的に、神経内科学Ⅰで学んだ知識に基づき、各神経疾患の病因・症状・診断・治療・予後について学ぶ。また、各疾患とリハビリテーションに関連する事項について学ぶ。
		整形外科Ⅰ（総論）	運動機能や日常生活活動を障害する代表的な整形外科疾患の病因や病態生理、診断と治療の総論を学ぶことにより、整形外科疾患のリハビリテーションを行うために必要な基礎知識を修得する。
		整形外科Ⅱ（各論）	整形外科Ⅰ（総論）で学んだ知識を踏まえ、人体の各関節における代表的な疾患や外傷に関する病態や診断、治療方法についてより詳細に学ぶ。また、各関節疾患のリハビリテーションを行うにあたり、留意すべき事項について理解する。
		精神医学Ⅰ（総論）	精神疾患や精神障害を有する患者理解に必要な精神医学の基礎について学ぶ。特に臨床上頻度の多い疾患や障害を取り上げ、その症状・診断・治療・リハビリテーションの概要について理解するとともに、精神障害を有する対象者へのチーム医療の在り方について考える。
		精神医学Ⅱ（各論）	精神医学Ⅰで学んだ精神疾患や精神障害に関する基礎的知識に基づき、ライフサイクルも含めたより広い社会的支援の観点から精神障害を有する対象者へのアプローチについて学ぶ。また、医療施設のみならず、学校や地域社会における近年のメンタルヘルス問題について学ぶ。
		小児科学	小児を取り巻く諸問題について、医学的および社会的な観点から学ぶ。胎児期から学童期までの成長と発達に関する基礎的事項を理解するとともに、神経・筋・骨格・循環器・呼吸器・消化器・腎泌尿器といった臓器および系統別に疾患の特徴を学ぶ。さらに、理学療法士や作業療法士が携わる機会が増えている重症心身障害児を対象とした療育制度について学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 作業療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 （続き）	老年学	加齢による身体の各系および器官の機能的変化について学ぶとともに、高齢者に多い疾患や症候の概要を理解し、健康長寿のための医療的および社会的アプローチの重要性について学ぶ。
		救急救命医学	救急医療に関する基礎的な知識（救急医療体制や医学的処置）について理解を深めるとともに、各種要因による救急疾患の概要（原因・症候・処置など）を学ぶ。また、理学療法士・作業療法士が行える救急救命処置の範疇について学ぶ。
		公衆衛生学	医学・医療を通して疾病予防や健康増進を図るために必要な公衆衛生学の基礎知識について学ぶとともに、代表的な保健活動（環境保健・母子保健・学校保健・産業保健・高齢者保健・精神保健・国際保健）の概要を理解し、個人または社会における保健医療福祉を多面的視点で捉える。
		臨床心理学概論	心に問題を有する人たちに対する心理学的援助の理論について学ぶ。また、具体的な事例を通して各種理論に基づいた実践方法を学ぶことにより、医療福祉の現場において対峙する対象者の心の問題について関心を深める。
		リハビリテーション医学	リハビリテーション医学・医療は多くの診療科に関係する疾患と障害を対象とするため、近年の高齢化に伴う疾病構造の変化（複合疾患等）を理解するとともに、代表的な疾患や障害（脳血管障害・頭部外傷・運動器疾患・脊髄損傷・神経筋疾患・切断・小児疾患・循環器疾患・呼吸器疾患・腎疾患・内分泌代謝性疾患・摂食嚥下障害・がん・その他）に対するリハビリテーション医療の概要について学ぶ。
		医療危機管理論	リスクマネジメントに関する基本的な知識と技術を学ぶとともに、具体的な事例を通してリスクマネジメントの実際について考え、医療福祉に携わる専門職として医療の質と安全を確保することの重要性を理解する。

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 作業療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 （続き）	医学を「心身の病気をなおし、健康を増進させる学問」と定義し、人間と病気の歴史や健康との関係を知ることにより、医療観や倫理観、医療を担う人材の教育や診断技術、治療の進歩、今日の我が国の医療システムなどについて学ぶ。さらに、代表的な診療科の対象となる主な疾患や医師の仕事について学び、チーム医療の一翼を担い、信頼される医療専門職としての将来の自身の在り方について考える。 （オムニバス方式/全15回） （① 富永隆治/11回） 医学をどのようにとらえるか、医学の発達のすがた（医学史）、健康・病気・医学の体系、病気の原因、病気による身体の変化、病気の診断、治療とリハビリテーション、予防、我が国の医療システム、内科、循環器科、外科、整形外科について担当する。 （25 山田達夫/3回） 脳神経内科、脳神経外科、産科及び婦人科について担当する。 （28 郡山一明/1回） 救急救命について担当する。	オムニバス方式
	栄養学	栄養素の種類と化学的性質、生理的機能、消化吸収、栄養素間の代謝における相互作用、栄養素を供給する食品について学ぶことにより、健康を維持増進し、疾病を予防するために適切な栄養摂取について理解する。また、リハビリテーション医療における栄養の重要性について理解する。	
	薬理学	人体の構造と機能の講義と関連させながら、薬物がどのように人体に作用し吸収されるのか学ぶ。さらに具体的な個々の薬物について、その使用目的、作用、副作用、禁忌について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 作業療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進（続き）	医用画像診断学	医療現場で使用される各種医用画像の撮像原理と正常人の画像形態を理解するとともに、代表的な疾患の画像所見の特徴について学ぶ。また、これまでに学んだ解剖学・生理学・各種病理学などの知識を応用し、画像所見と出現する症候との関係について理解する。
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史、理念、領域などの基本的事項を理解するとともに、リハビリテーションを取り巻く社会や社会保障制度について学ぶ。また、リハビリテーションに関わる各種専門職とその職務内容を理解し、関連職種が協働する専門職連携（チーム医療）の重要性について考える。
		ケアマネジメント論	地域社会の中で援助対象者を支えていくために、ケアマネジメントの考え方や具体的な実践方法の概要を学ぶ。また、幅広い対象者（身体障害者・精神障害者・高齢者・子ども・生活困窮者など）に対する各種支援制度や機関について学ぶ。
		カウンセリング論	カウンセリングの基本的なテクニックについて、具体的な事例や技法を通して学ぶ。また、リハビリテーション医療におけるカウンセリングの重要性について理解する。
		保健医療福祉制度論	医療福祉分野の専門職として知っておくべき基本的な法令の概要とその役割について学ぶ。また、我が国における国民の健康維持・増進に寄与する各種法令と社会資源について学び、医療を取り巻く現状の諸問題や将来展望について理解する。

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 作業療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門基礎分野 （続き）	専門職連携教育Ⅰ（専門職連携の基礎）	保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあって、その場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性や連携について理解することが必要である。本講義では、専門職連携についての基本的な考え方を学ぶ。	共同
	専門職連携教育Ⅱ（専門職連携の構築）	保健・医療・福祉に携わる職種の専門性や関連性、チーム医療・ケアの理念と実践方法を理解し、各職種が連携して課題を解決し、患者・利用者中心の専門的サービスを提供する技能を修得する。	共同
	専門職連携教育Ⅲ（専門職連携における尊重）	既修の地域に関する学修を基に、提示された事例を選択して地域で暮らす対象の専門職連携についてワークを実施する。その中で各専門職の意見を尊重しながら、自職種の意見を根拠に基づいて述べられるように学修する。ワークを通して対象を全人的に理解し、自職種としての役割と責任を明確にして、チームで協働する意義やチームの一員として果たす役割は、対象の健康の保持増進や、生活の質に深くかかわることは即ち、自職種の質にも関係することを学ぶ。	共同
	専門職連携教育Ⅳ（専門職連携における協働）	患者、利用者を全人的に評価し、患者、利用者中心の専門職連携によって診療・ケア・訓練計画の立案ができる能力を育成する教育プログラムである。専門職連携教育Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで培った IPE に関する学びと各学部の専門分野の学びを応用、実践するために、シミュレーションを通し専門職の役割を活用しながら、チームで計画の作成に取り組む。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 作業療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門 分野	基礎 作業療法学	作業療法を学ぶ学生のための道標となる科目である。最初に作業療法のルーツとアーツアンドクラフツ運動、パラダイム理論に基づく米国作業療法の歴史、そして、わが国の作業療法の歴史について学修する。次に作業療法実践の事例、作業療法における「作業」の意義、「作業」と健康との関係、作業療法の対象と場所、作業療法のプロセス、作業療法モデル論、作業療法の進化について学修する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。	
	作業科学	作業療法の基盤となる「作業」について研究する学問として作業科学が登場した。「人は作業をすることで健康になれる」は作業療法の信念である。「作業」の魅力や「作業ができるようになること」の意義を理解するために必要な知識を学修する。学修者自らの作業の歴史を振り返り、作業が人間の発達や環境に与える影響について学修し、さらに「作業」についてより深く学修するために、作業の広がりや深さや主観的意味、作業による成長と回復、作業による社会的課題の解決について学修する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。	
	作業療法理論	作業療法計画を立案する際に用いられる理論やモデルを学修する。作業療法独自に開発された感覚統合理論、人間作業モデル、カナダ作業遂行モデル、また理学療法等関連領域で開発された生体力学モデル、運動コントロールモデル、フロー理論、自己効力理論、そしてリハビリテーションモデル（代償、適応、コーピング、教育）について学修する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 作業療法学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	基礎 作業療法学 （続き）	作業療法研究法	作業療法実践を検証し、エビデンスを蓄積するための研究は、作業療法実践の質と効率を高めるために重要である。作業療法学科の課程で修得した知識や技術の深化・統合を基盤として、実践上の課題や疑問の中から研究疑問を導き、その解決に向けて、適切な方法を考え、検証するための知識と技術の修得することが、作業療法研究法の目的である。作業療法研究を進めるために必要な文献資料検索法や整理の方法、研究疑問、研究の実施における倫理、作業療法で用いられる研究技法、量的および質的研究データの処理法、研究成果のまとめ方と発表の仕方などについて学修する。 （オムニバス方式/全15回） （4 奈良進弘/5回） 作業療法研究の意義、研究方法の類型、調査研究、実験研究、質的研究について担当する。 （5 田中悟郎/5回） 根拠に基づく実践と研究、研究計画と倫理、システムティック・レビュー、実践事例研究、シングルシステムデザイン法について担当する。 （2 川原田淳/5回） 科学と研究、研究疑問と研究デザイン、文献検索、データ処理法、研究成果の発表について担当する。	オムニバス方式 講義 15 時間 演習 15 時間
	作業療法管理学	作業療法管理学	作業療法士は医療行為のみならず、病院や施設の組織を理解し、作業療法部門の管理に努めることも要求される。本科目では、作業療法部門の組織、安全管理、機器のメンテナンス、在庫物品の管理、さらには記録、職員教育、職業倫理について学修する。また、組織内での様々なハラスメントやクライアントとの関係の取り方、自身の健康管理、医療職において生じる倫理的ジレンマについて事例を挙げながら学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 作業療法学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
専門分野 （続き）	作業療法評価学	対象者の心身機能・身体構造、活動・参加、環境・個人因子についての情報に基づき、作業療法は、実施される。情報収集からそれらの情報を処理し、作業療法を計画するまでのプロセスが評価である。作業療法評価学では、作業療法の重要なプロセスである評価についての専門的な知識と技術の修得を目的とする。観察、面接、計測、検査などの様々な情報収集手段によって、対象者の機能・構造、活動・参加、環境のそれぞれについて、適切な情報を得て、処理するために必要な知識と技術の修得を目指す。		
	身体機能評価学演習Ⅰ （筋・骨格系）	作業療法評価法のなかで身体機能評価（運動器系）に用いられる形態測定（姿勢、上・下肢長、周径等）、関節可動域検査 ROM-T、徒手筋力検査法 MMT、粗大筋力（握力・ピンチ力）等の具体的技法について演習形式で学修する。身体機能領域における作業療法の基本となる評価技術であり、患者と作業療法士の役割を設定しながら学修し、レポートを作成する。	共同	
	身体機能評価学演習Ⅱ （中枢神経系）	作業療法評価法のなかで身体機能評価（中枢神経系）に用いられる協調性検査、感覚検査、上肢機能検査、高次脳機能評価、医用画像評価等の具体的技法について演習形式で学修する。身体機能領域における作業療法の基本となる評価技術であり、患者と作業療法士の役割を設定しながら学修し、レポートを作成する。	共同	
	精神機能評価学演習	作業療法評価法のなかで精神・認知機能評価に用いられる、意欲や行動に関する評価、思考の評価、社会適応に関する評価、知的機能検査、認知機能検査の具体的技法について演習形式で学修する。精神機能の評価法について、作業療法独自の評価法や医学や心理学、社会学領域で開発され作業療法で活用されている評価法について演習する。知的機能の評価法について、作業療法独自の評価法と医学や心理学領域で開発され作業療法で活用されている評価法について演習する。	共同	

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 作業療法学科）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	作業療法評価学 （続き）	発達期評価学演習	作業療法評価法のなかで発達期の評価に用いられる、発達のスクリーニング検査（DDST 等）、運動発達検査（粗大運動、微細運動、口腔機能、姿勢反射、運動年齢検査、立ち直り反応、平衡反応、ADL 検査等）、知覚・認知機能検査（知的能力検査、視知覚発達検査、感覚統合能力検査、日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査 JMAP）、遊び・社会性の発達検査等の具体的技法について演習形式で学修する。また、発達期のこどもの評価のポイントや評価室の環境についても学修する。	共同
	作業療法治療学	作業療法臨床推論	人々に対して専門性の見地から助言や支援を行う専門職の「専門知」の構築過程を明らかにし、それぞれの専門職がその過程について行っている省察を探究した文化人類学の研究を医療専門職に拡大したものが、臨床推論である。作業療法の臨床推論は、80 年代から始まり、作業療法士の専門知についての「メタ認知」の解明は、様々な作業療法の実践や教育分野で実施され、実践方法の改善や考え方の整理、熟練者の考え方を初心者に伝える教育方法への知見などがもたらされている。作業療法臨床推論では、様々な観点から情報を捉え、実践を導くプロセスとそのプロセスそのものの「メタ認知」について、探究し、作業療法とその発展の基盤となる知識を学修する。	
		生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントは作業療法士が対象とする方々の生活行為を中心に、アセスメントの手法やマネジメントを駆使して生活を支援する方法の一つである。特に、生活行為向上マネジメントは、①活動から参加までを包括的にとらえる視点、②過去から現在、将来まで連続している包括的視点、③作業の広がりを含む包括的視点が含まれている。講義と演習を経験して、これらの包括的視点を養うことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 作業療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	作業療法治療学 （続き）	作業学実習Ⅰ（手工芸等・作業分析）	共同
		作業療法で活用頻度の高い織物、手工芸、絵画、木工、陶芸を学修者が実際に経験することにより、それが身体的(生理的)・精神的(心理的)に与える影響を分析するとともに、各種の作業に用いる素材や材料が持つ特性を知り、それらの応用方法も考えていく。さらに、各作業の作業分析を行い、作業の特徴・作業中の姿勢・作業工程・動作分析・治療効果・障害に対する適用等を学修する。	
		作業学実習Ⅱ（レクリエーション・作業分析）	共同
		作業療法士では集団レクリエーションを企画する機会が多くある。年齢や障害を考慮しながらレクリエーションを企画する上で必要な技術を学ぶ。レクリエーションの意義からその目的、計画、実施についてその知識と技術について学ぶ。ゲーム、ソング、ダンス、スポーツ、観劇などさまざまなレクリエーションの実技を通して、グループダイナミクスや始動のポイント、サポーターの役割、注意事項について学修する。	
	日常生活支援学	日本人の生活様式・伝統的な価値観を踏まえながら、起居・移動、コミュニケーション、セルフケア等について、それがもつ意味や動作分析を行う。日常生活活動 ADL、手段的 ADL、また生活・人生の質 QOL の評価法についても学修する。さらに疾患・障害、特に脳卒中、頸髄損傷、関節リウマチのクライアントに対する ADL・手段的 ADL のポイントについて学修する。	
	日常生活支援学演習	代表的な ADL や QOL の評価と ADL への介入について演習形式で学修する。片麻痺や対麻痺・四肢麻痺者の移動(歩行、車いす)や起居(寝返り、起き上がり、座位)の実演と演習を行う。また、脳卒中、頸髄損傷、関節リウマチ者の食事や排泄、更衣、入浴、整容、コミュニケーションの自立をサポートする自助具を体験し製作する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部 作業療法学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 (続き)	作業療法治療学 (続き)	機能代償学	機能代償学では、対象者の機能・構造が原因となっ て生じた活動・参加の制約を種々の機器や環境調整 などによって軽減するための専門的知識と技術を 修得する。心身機能の代償の視点から活動・参加を 支援する方法として、義肢、装具、テクニカルエイ ド（自助具、環境制御機器、移動援助機器、コミュ ニケーション援助機器等）、環境因子の視点から支 援する方法として、住宅環境調整、社会環境調整な どがあり、これらを作業療法過程の中で、対象者の ニーズに応じて適切に適用するための方法を学ぶ。	講義 15 時間 演習 15 時間
		身体機能作業療法学	作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもと に作業療法の特性を生かした実践を学ぶために、身 体機能障害の治療原理と作業療法実施の枠組みを 学ぶ。関節可動域制限、筋力低下、協調性障害など の改善を目的とした手段的作業療法の実践を修得 する。また、作業療法の対象とする脳血管障害、脊 髄損傷、パーキンソン病等の中樞神経障害、末梢神 経障害、骨折、関節リウマチ等の運動器障害、さら に糖尿病等の内部障害などの基本的アプローチに ついて学修する。	講義 15 時間 演習 15 時間
		身体機能作業療法学演 習	知識としてすでに獲得した身体機能障害者の障害 像、評価法、医学的治療を踏まえながら、具体的 な事例（ペーパーペイシェント・動画）として、脳血 管障害、脊髄損傷、パーキンソン病等の中樞神経障 害、関節リウマチや腰痛症等の運動器障害、さらに 呼吸循環器疾患等(喀痰吸引を含む)について、人・ 作業・環境モデルや作業遂行モデルなどの作業療法 独自の理論的枠組みを用いて実演と演習を行う。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 作業療法学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	作業療法治療学 （続き）	精神機能作業療法学	精神障害者の理解と基本的対応、および、個人作業療法、集団作業療法の治療構造理論と作業活動の意義について講義する。加えて、関連療法についても説明する。それを基本に各疾患に対する作業療法の応用について解説する。 （オムニバス方式／全15回） （5 田中悟郎／8回） 精神機能作業療法学の歴史から基礎知識及や作業療法の特性、理論、治療構造と治療機序、手順について担当する。 （3 中山広宣／7回） 精神機能作業療法の実践（対象者の理解と治療関係）と関連療法（精神分析療法、芸術療法、心理劇）について担当する。	オムニバス方式 講義 15 時間 演習 15 時間
		精神機能作業療法学演習	精神機能作業療法学で学んだ知識を基本に、各精神疾患の障害像、それに対する評価と治療、リハビリテーション技法について講義，演習する。 （オムニバス方式/全15回） （3 中山広宣/1回） 社会生活技能訓練の実践について担当する。 （3 中山広宣・5 田中悟郎/1回）（共同） 疾患別作業療法の実践として、統合失調症を担当する。 （3 中山広宣・5 田中悟郎・4 江口喜久雄/13回）（共同） 疾患別作業療法の実践（統合失調症、気分障害、発達障害、神経症性障害、人格障害、その他の精神障害）、社会生活技能訓練、認知行動療法、WRAP（元気回復行動プラン）について担当する。	オムニバス方式、共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
(リハビリテーション学部 作業療法学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 (続き)	作業療法治療学 (続き)	発達期作業療法学	作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした介入法を学修する。発達途上にある対象児の将来の可能性を広げるため、家庭生活や教育環境等で活かせる援助法を学修する。さらに、発達障害に対する作業療法を実施するために、必要となる神経学的知識、臨床観察、神経学的評価法、治療技術を身につける。	
		発達期作業療法学演習	知識としてすでに獲得した発達期の障害児の障害像、評価、治療について、自閉スペクトラム症や脳性麻痺、筋ジストロフィー、重症心身障害児等具体的な事例を通して、作業療法独自の理論やモデルを活用しながら作業療法の展開、臨床思考過程について実演と演習を行う。また、今後求められる幼稚園や小学校等教育の場に出向いて行われる巡回訪問における支援の方法についても演習する。	共同
		高齢期作業療法学	作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした高齢期のクライアントに対する介入法を学修する。高齢期の心身機能の低下に伴うロコモティブ症候群、廃用症候群、転倒事故といったリスクを踏まえながら、高齢者に対し、個人の長年の経験や教育歴、誇りを尊重する態度を身につける。作業療法の理論をベースに評価法の選択、検査をもとに作業療法計画と介入について学修する。	
		高齢期作業療法学演習	高齢者の心身の状態を知るために高齢者疑似体験グッズを用いて高齢者の世界を体験し発表する。高齢者の疾病の特徴やリスクを踏まえ、認知症や廃用症候群、ロコモティブ症候群等具体的な事例、あるいは健康な高齢者に対して老化現象の進行を遅らせる取り組み等を通して、作業療法独自の理論やモデルを活用しながら作業療法の展開、臨床思考過程を実演と演習を通して学修する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 作業療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	作業療法治療学 （続き）	高次脳機能作業療法学	基礎作業療法学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした介入法を学修する。脳機能障害では、人が生活行為を遂行していく上で、その行為を困難にする高次脳機能障害が出現することが多く、その機序や具体的な対応方法を学んでおく必要がある。この授業では、失語、失行、失認の特性や作業療法の介入方法の具体例を学修する。
		摂食・嚥下作業療法	作業療法として必要な摂食・嚥下の基礎医学的知識、評価技術、疾患別の基本的アプローチについて修得する。
		感覚統合療法	行動・情緒に問題をもち、学校や幼稚園に適応できない発達障害児が増えている。このようななか、作業療法の実践理論として、ジーン・エアスの開発した感覚統合療法は、彼らに極めて有効な神経学的治療であり、発達障害領域に進む作業療法士には不可欠な治療法である。この授業では、その理論と実践について学修する。
		認知症作業療法	今日、認知症およびその予備軍を合わせると 800 万人を超すと言われ、この対策と予防は我が国の国民的課題である。認知症高齢者の心理特性を理解しながら、その人らしい作業を取り戻すことで行動心理症状を防ぎ、自分らしく生活できるために作業療法が果たす役割は大きい。この授業では、認知症になっても安心・安全に暮らせる地域づくりや認知症予防に対する作業療法の技術を学修する。また、これまでに行われている認知症に対する代替療法についても学修する。
		リハビリテーション工学	障害児・者のリハビリテーションを支援する工学・技術に関する基本的な考え方、電子工学・人間工学・生体計測・バイオメカニクスなど関連する基礎技術およびこれらの実用的応用からの生活環境についても学修する。また、歩行介助や介護支援機器、ロボット等近年注目されている技術についても学修する。

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 作業療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門 分野 （続き）	作業療法特論	本授業においては、海外特に中国、米国等で働いた経験をもつ作業療法士が異文化における業務体験を伝えることで、国際的に活躍できる作業療法士を目指す契機とする。また、起業し社会に貢献できる機会が増え作業療法士の活躍の場が広がっていること、さらに近年、多発している大災害時における日本作業療法士協会の仮設住宅等の被災者支援等の具体的取り組みについて学び作業療法士として使命感を醸成する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。 （オムニバス方式/全8回） ① 近藤敏/4回） 起業、地域課題と作業療法、被災地支援について担当する。 （4 奈良進弘/2回） 国際支援について、青年海外協力隊と作業療法士の活動、中国における国際支援と課題、アジアにおける国際支援と課題について担当する。 （5 田中悟郎/1回） 国際支援について、アフリカにおける国際支援と課題について担当する。 （6 小西紀一/1回） 海外で働くことについて、米国における作業療法士について担当する。	オムニバス方式
	作業療法総合演習	総合臨床実習において、作業療法の一連の過程を経験し学修した知識をもとに、より統合的に作業療法への理解を深め、臨床に適用できるよう、基本的な知識を確認し再獲得する。専門基礎分野（解剖学、生理学、運動学、臨床医学）と作業療法専門分野の知識を統合させながら作業療法士として必要な臨床思考過程のさらなる向上を図る。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部 作業療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	地域作業療法学	作業療法は病院だけでなく、退院後も地域で生活していく人たちを支援していく関わりが要求される。この授業では、家庭を基盤に地域で生活している人への作業療法の知識と技術を学修する。対象は子どもから高齢者に至るまで、また急性期、維持期（生活期）、終末期まで、さらに身体・精神障害、難病等さまざまである。介護保険や自立支援法、地域包括システムなど個人を支えていくための公的制度にも触れながら在宅生活支援のための援助法について学修する。 （オムニバス方式/全15回） ② 谷川良博/5回） 地域作業療法の基礎概念、地域作業療法と生活障害、地域作業療法を支える制度（身体障害・老年領域）、住環境と福祉用具、多職種連携と協働について担当する。 （5 田中悟郎/5回） 地域作業療法の基本的枠組み、地域作業療法を支える制度（精神機能領域）、雇用・就労支援、精神機能領域におけるリスクマネジメントについて担当する。 （6 小西紀一/5回） 地域づくりと作業療法とのつながり、地域作業療法を支える制度（小児領域）、小児領域の地域生活支援、小児領域におけるリスクマネジメントについて担当する。	オムニバス方式
	地域作業療法学演習	在宅を基盤に地域で生活している人への作業療法の実際と、在宅生活支援のための地域援助システムについて学修する。通所・訪問における作業療法評価や介入法、福祉機器の導入、家族指導、社会資源の活用等事例などについて、演習形式で学修する。また、他職種連携について理解を深め、さらに地域における介護予防や就労支援、在宅現場のリスクマネジメントについて学修し、作業療法士の役割と具体的な対応に関する理解を深める。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 作業療法学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
専門分野 （続き）	地域作業療法学 （続き）	生活環境論	地域リハビリテーションや訪問作業療法において、クライアントや家族の安心・安全、そして自立した生活を実現するためには、自宅のリフォームをはじめ住環境の改善が必要となる場合が多い。この授業では、そのために必要な知識や技術を学修する。また、ハード面だけでなく、そこに住む人の意向を重視することも学修する。	講義 15 時間 演習 15 時間
	ヘルスプロモーション 作業療法学	今日、作業療法は広がりを見せている。ヘルスプロモーション(健康づくり)においては、作業療法士はその力量を発揮できる。行政に勤務する作業療法士も増えており、一次予防や二次予防において住民参加の健康推進や医療・介護費用の抑制への貢献が期待されている。この授業では、介護予防・ヘルスプロモーションのプログラムについてグループによる課題発表も行う。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。		
	職業リハビリテーション	障害者の就労支援は作業療法士の重要な役割である。人生に働くことがどのような価値をもつのかという視点で、障害者の職業リハビリテーションを考える。身体障害者や精神障害者に関する、就労支援関連法規、就労移行支援事業所、障害者職業支援センター、地域包括支援センター、リワークプログラムなど、近年の障害者施策と福祉を理解して就労支援、地域支援のあり方を学ぶ。		
	臨床実習	基礎臨床実習	本実習は、学生がまだ専門的知識のない中で行われる見学実習である。その目的とするところは、実際に作業療法士がやりがいをもって働いている姿に接することで、作業療法士になりたいというモチベーションを高め、今後の学修意欲を高める切っ掛けにすることにある。また、医療機関や施設を内側から眺めることで、医療職の責任や使命感について学ぶ。本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 作業療法学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	臨床実習 （続き）	地域臨床実習	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにおいて作業療法士が実施する作業療法について見学を中心とした実習を行う。実習を通して、地域における作業療法士の役割について学ぶ。	共同
		評価臨床実習	3年前期までに学内で学修した知識・技術・資質を臨床実習において再確認するとともに、学生は医療機関等において経験ある作業療法士の指導のもとで、実習指導者を見習いながら対象者の基本的な評価（観察、面接、検査・測定、解釈）を実施し、作業療法計画（治療目的、ゴール設定）を経験する。また、実習指導者の対象者に対する接し方や面接、検査・測定を拝見しながら対象者とのコミュニケーション技術を学ぶ。	共同
		総合臨床実習Ⅰ	学生はこれまで学内外で学んだ知識・技術を経験ある作業療法士の指導のもとで、1) 実習指導者の担当している対象者の作業療法を見学する、2) 実習指導者の担当している対象者の作業療法を模倣する。	共同
		総合臨床実習Ⅱ	学生はこれまで学内外で学んだ知識・技術を経験ある作業療法士の指導のもとで、1) 実習指導者の担当している対象者の作業療法を見学する、2) 実習指導者の監視のもと、基本的な評価（観察、面接、検査・測定、解釈）、作業療法計画（治療目的、ゴール設定）を経験する。3) 実習指導者の担当している対象者 1～2 名に対して、指導を受けながら学生の考えた作業療法計画を作成し、評価から介入までの過程を経験する。	共同
		総合臨床実習Ⅲ	学生はこれまで学内外で学んだ知識・技術を経験ある作業療法士の指導のもとで、1) 実習指導者の担当している対象者の作業療法を見学する、2) 実習指導者の監視のもと、基本的な評価（観察、面接、検査・測定、解釈）、作業療法計画（治療目的、ゴール設定）を経験する。3) 実習指導者の担当している対象者 1～2 名に対して、指導を受けながら学生の考えた作業療法計画を作成し、評価から介入までの過程を経験し、実践的な行動を学修する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（リハビリテーション学部 作業療法学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門分野 （続き）	卒業研究	卒業研究	研究テーマの設定、文献レビュー、研究計画書の作成までの一連の流れを実践して、科学的思考を養う。この研究計画書は研究の基本であり、文献レビューを批判的に読むことを学ぶことで研究テーマの設定と絞り込みに役立つ。この研究計画書は卒業研究演習に取り組むための重要な課題である。	共同
		卒業研究演習	研究計画書を元に、データの収集、分析、結果、考察の方法を学び、科学的思考による論文作成を実践する。完成した論文は学会形式にて発表して、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。以上より、臨床的思考や推論そして臨床研究の重要性を学ぶ。	共同

学校法人巨樹の会 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
福岡看護専門学校			
看護学科 第1科	50	-	150
看護学科 第2科	50	-	150
看護学科 第3科	250	-	500
計	350	-	800
福岡和白リハビリテーション学院			
理学療法学科	80	-	240
作業療法学科	40	-	120
理学療法学科(夜間)	40	-	160
計	160	-	520
福岡水巻看護助産学校			
看護学科	80	-	240
助産学科	25	-	25
計	105	-	265
下関看護リハビリテーション学校			
理学療法学科	80	-	240
看護学科	40	-	120
計	120	-	360
小倉リハビリテーション学院			
理学療法学科	80	-	240
作業療法学科	40	-	120
理学療法学科(夜間)	40	-	160
計	160	-	520
八千代リハビリテーション学院			
理学療法学科	80	-	240
作業療法学科	40	-	120
理学療法学科(夜間)	40	-	160
計	160	-	520
武雄看護リハビリテーション学校			
理学療法学科	40	-	120
看護学科	40	-	120
計	80	-	240

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
令和健康科学大学				大学新設(認可申請)
看護学部	80	-	320	
看護学科				
リハビリテーション学部	80	-	320	
理学療法学科				
作業療法学科	60	-	240	
計	220	-	880	
福岡看護専門学校				
	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
	0	-	0	令和3年4月学生募集停止
	0	-	0	令和3年4月学生募集停止
計	0	-	0	
福岡和白リハビリテーション学院				
	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
	0	-	0	令和3年4月学生募集停止
計	0	-	0	
福岡水巻看護助産学校				
看護学科	80	-	240	
助産学科	25	-	25	
計	105	-	265	
下関看護リハビリテーション学校				
理学療法学科	80	-	240	
看護学科	40	-	120	
計	120	-	360	
小倉リハビリテーション学院				
理学療法学科	80	-	240	
作業療法学科	40	-	120	
理学療法学科(夜間)	40	-	160	
計	160	-	520	
八千代リハビリテーション学院				
理学療法学科	80	-	240	
作業療法学科	40	-	120	
理学療法学科(夜間)	40	-	160	
計	160	-	520	
武雄看護リハビリテーション学校				
理学療法学科	40	-	120	
看護学科	40	-	120	
計	80	-	240	